

第42回 北海道学校図書館研究大会 札幌大会



研究主題

「未来を拓く力を育む学校図書館」

～学ぶ楽しさ つながる世界～



ようこそ 札幌へ

札幌の街の魅力とは……

札幌が他の都市よりも優れている点は、四季折々の美しさを感じられる点でしょう。春、夏、秋、冬とはっきりと表情を変える街並みで、どの時期でも街そのものが美しい表情を魅せてくれます。

また、札幌市にはスキー場があったり、すぐ近くには海があったりと、レジャーを楽しむのにも十分すぎる程豊かな自然環境が整っているのも魅力です。

移動やアクセスの面でも、地下鉄やJRなどの本数も十分ある他、徒歩での移動が効率的にできるよう、ポールタウンやオーロラタウンなどの地下街はもちろん、札幌駅から大通り公園までの間を結ぶ広大な地下歩行空間があるなど、非常に便利です。

そして、札幌観光といえば、札幌市時計台や北海道大学をはじめ数々あります。そのいくつかを紹介しましょう。



◇札幌時計台

札幌のシンボル、時計台。創建以来130余年この地において、札幌の街の歩みと市民生活の変化を見守ってきました。正式名称は「旧札幌農学校演武場」。平成7年から10年にかけての改修工事が終了し、資料館として整備されました。夜間は音楽会、講演会、結婚式などのホールとしても使われます。

◇北海道大学

クラーク像は、さっぽろ羊ヶ丘展望台にあるウィリアム・スミス・クラーク博士の全身像は有名ですが、ここにもクラーク博士の胸像があり、構内での待ち合わせや、写真を撮る人が絶えない場所です。

北大の顔と言える農学部の校舎は、やはり歴史を感じさせ、重厚感を漂わせています。また、校舎の裏手に広がる第一農場では、放牧されている牛や羊、リスに出会うこともあります。

◇札幌テレビ塔

札幌の中心部を南北に分ける大通公園。その出発点、西1丁目に建つのが1956年に完成した「さっぽろテレビ塔」。札幌のランドマーク的存在で、高さ147.2メートルもあり、地上約90mの展望台からの眺望は必見。季節ごとに異なる札幌の街並みを360度見渡すことができます。

◇札幌の夜景

札幌中心部の札幌テレビ塔や大通り公園、区画整備された道路に流れる車の灯り、澄んだ空気のせいか札幌の夜景はとても美しいです。そのお勧めのスポットは…

◆大倉山展望台（大倉山ジャンプ競技場）

夜には大倉山ジャンプのスロープがライトアップされていますので、ジャンプ台も夜景も見られる場所です。隣接している札幌ウィンタースポーツミュージアムでは、ウィンタースポーツのいろいろな体験ができます。

◆札幌ノルベサ

すすきのの新しいシンボル観覧車ノリア（スペイン語で観覧車のこと）は、直径45.5m、地上78mにも達する札幌発の屋上観覧車。緑に囲まれた美しい札幌の街並みをはるか遠くまで見渡せます。

◆旭山記念公園

広大な旭山記念公園の広場にある噴水から真正面に見える都市部の夜景は、最高のロケーションデートスポットです。

◆JRタワー展望室 T38

ここは札幌駅に隣接しているので、アクセス的にもお手軽。360度見渡せるので、灯りの溢れる地域から漆黒の闇に包まれた場所まで、札幌の広さを実感できます。



札幌の **夜景**

大会要項目次

<ようこそ！ 教育と文化の街、道都札幌へ>

挨拶	1
祝辞	3
大会役員一覧	6
報告	8
活動報告	10
大会基調報告	11
大会研究報告	12
大会開催要項	13
開会式・全体会・閉会式	14
分科会テーマ及び視点	15
分科会提言者と役員一覧	16
セッション内容と役員一覧	17
記念講演（プロフィール）	18
大会会場図	19
園・学校紹介	23
公開保育・授業一覧	29
公開保育・授業指導案	30
分科会の提言概要	51
セッションの概要	71
平成28年度北海道学校図書館協会役員・事務局・支部一覧	80
平成29年度北海道学校図書館協会役員・事務局・支部一覧	82
北海道学校図書館研究大会沿革	84
編集後記	86

「未来を拓く力を育む 学校図書館」を目指して



第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会長

北海道学校図書館協会長 齋藤 昇一

第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会の開催に当たり、主催者を代表してご挨拶申し上げます。札幌市での全道大会開催は過去四回を数え、今回は五回目十八年ぶりの開催となりました。また、全国大会も昭和三十二年、六十三年と、二度開催をしております。開催に向けて札幌市学校図書館協議会の皆様の、熱意と努力は並々ならぬものがあったと推察いたします。大会準備に携われた皆様に心より敬意を表します。

また、文部科学省をはじめとして、北海道教育委員会、札幌市教育委員会などの関係諸機関、さらには北海道小学校長会、北海道中学校長会、北海道高等学校長協会、北海道特別支援学校長会、北海道私立中学・高等学校協会、北海道特別支援学級設置学校長協会、公益社団法人北海道私立幼稚園協会など多くの教育関係諸団体の深いご理解と温かいご支援により、札幌市において本大会が開催されますことに、改めて心より感謝申し上げます次第です。

さて、次期学習指導要領では受け身の学習ではなく、討論や発表などを通した主体的、対話的で深い学びによる授業改善が求められています。また確かな学力の育成には、言語活動や探究的な学習の充実が必要とされています。同時に、豊かな人間性の形成も引き続き大切なことです。そのために学校図書館は、「学習センター」「情報センター」「読書センター」として、学校教育を全面的に支援する中心的な施設であることが求められ、これを利活用していくことが肝要です。

北海道学校図書館協会と致しましては、上記取組の推進を積極的に進めてまいりたいと考えております。併せて、「司書教諭制度の充実や学校司書の配置の促進」、「学校図書館の整備充実」、「教員養成段階での学校図書館の利活用や読書指導関連科目の充実」などの課題に対しましても、全国学校図書館協議会（全国SLA）と連動しながら、さらには北海道教育委員会をはじめ、関係各機関の協力もいただきながら実現に向けて、今後も精力的に取組を進めてまいりたいと考えております。

本大会の中では、「公開保育・公開授業」「分科会」「セッション」「記念講演」などを通して、『未来を拓く力を育む学校図書館』～学ぶ楽しさ つながる世界～の研究主題のもとに研究を深めてまいります。全道各地から参加された皆様には、日常の教育実践を交流しながら研修の充実を図り、たくさんの成果を各地に持ち帰り、子どもたちのためにご活用いただきたいと思っております。また、本大会が全道各地の情報交流の契機となり、参加された皆様のネットワークがつながっていくことも願っております。まさに、参加者にとっても「～学ぶ楽しさ つながる世界～」を体感していただけたら幸いです。

終わりにになりましたが、本研究大会の開催にあたり、大会成功に向けてこれまで誠心誠意ご尽力くださった大会運営委員長をはじめ関係者の皆様に心より深く感謝申し上げます。本研究大会の成功を心より祈念しまして、ご挨拶といたします。

未来を拓く力を育む学校図書館 ～学ぶ楽しさ つながる世界～



第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会運営委員長

札幌市学校図書館協議会長

荻原 啓

時計台の鐘が鳴る街、北の都札幌市に、全道各地から多数の参加者をお迎えし、第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会を開催するにあたり、大会運営委員会を代表して一言ご挨拶申し上げます。

札幌で北海道学校図書館研究大会が開催されるのは18年ぶりのことです。第33回の大会でしたが、私は授業者として大会に参加しておりました。改めて年月の経過の速さに驚くばかりです。こうして再び大会にかかわることができる喜びを噛みしめながら、全道各地で脈々と受け継がれてきた研究成果を受け継ぎ、研究主題を「未来を拓く力を育む学校図書館～学ぶ楽しさつながる世界～」として、札幌大会を開催いたします。

さて、学校図書館を取り巻く状況は刻々と変化しています。札幌でも18年前と比較すると、札幌市の特色ある教育の浸透とともに、大多数の学校で朝読書が実施されるなど、読書活動の推進が定着しました。また、札幌市が全国に誇る学校図書館の共有財産化、寄託図書制度がありますが、さらに公共図書館と学校との連携を強める「ブックさぁくる」が整備されました。どちらも自校にない図書を簡単に借りることができる素晴らしい制度です。そして、中学校へ学校図書館司書が配置されました。現在は市内の60校に配置され、2年後には全校に配置される予定です。このような中で、札幌市学校図書館協議会では、実務研修会の実施や図書館クリニック、寄託図書情報センターへの事務局員派遣等を通して、学校図書館の充実・発展に寄与すべく活動してまいりました。本大会で「未来を拓く力を育む学校図書館」のあり方を参加者の皆さんと確かめたいと思っております。

また、本大会では、札幌市の特色を発信したいという思いを込めて授業会場を設けました。一つは昨年オープンしたばかりの「えほん図書館」。もう一つは、道内に2校ある中等教育学校のひとつ、市立札幌開成中等教育学校です。「えほん図書館」では保育と1年生の読書指導を、市立札幌開成中等教育学校ではIB（国際バカロレア教育）における読書指導や学び方の指導などの授業を公開します。また、セッションは、講演会講師のtupera tupera 亀山達也 様にもご参加いただき、ワークショップやトークセッション、講座などを7つ配置いたしました。いずれも参加者の皆様に「参加してよかった。」と感じていただけるよう、大会運営委員一同が検討を重ねて構成したものです。

運営には至らない点多々あるかと思いますが、本研究大会が、幼稚園並びに各小・中・高等学校の研究と教育活動の深まりにつながることを期待し、参加者の皆様から忌憚のないご指導とご助言をいただけましたら幸いに存じます。

結びになりますが、本研究大会を開催するにあたり、深いご理解とご支援を賜りました北海道教育委員会、札幌市教育委員会をはじめ多くの関係機関、授業会場を引き受けていただきました札幌市えほん図書館、あやめ野小学校、啓明中学校、市立札幌開成中等教育学校の皆様、そして、関係各位に心より感謝とお礼を申し上げ、ご挨拶いたします。

歓迎とお祝いの言葉



札幌市長 秋元克広

第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会が全道各地から多数の参加者をお迎えし、本市において盛大に開催されますことに、市を代表いたしまして、心から歓迎とお祝いを申し上げます。

また、北海道学校図書館協会、札幌市学校図書館協議会及び全国学校図書館協議会におかれましては、児童・生徒の読書活動の充実にご尽力いただいておりますことに深く感謝を申し上げます。

さて、札幌市では、「世界都市としての魅力と活力を創造し続ける街」「誰もが安心して暮らし生涯現役として輝き続ける街」の実現を目指した取組を進めています。札幌国際芸術祭を開催するほか、北海道新幹線の札幌延伸を見据えた札幌駅周辺のまちづくりや、大規模な国際会議が開催可能なMICE施設整備に向けた検討を進める等、市内経済を活性化する取組に加え、市民の仕事やくらしに関する課題の解決に役立つ情報と札幌の魅力を発信する都心の知的空間として、「札幌市図書・情報館」の整備を進めています。子育てに関しては、保育料の負担が最も大きい3歳未満の児童を対象に、第2子の保育料無料化を実施するなど、社会全体で子育てを応援し、子どもを生み育てやすいまちづくりを進めています。こうした取組に加え、小さい頃から楽しく読書に親しめるよう、市内初となる絵本専門の図書館「札幌市えほん図書館」をオープンいたしました。

札幌市の教育がめざす人間像は、「自立した札幌人」であり、この人間像を実現するためには幼児期から生涯にわたって学び続けることが必要です。またこの学びの推進に当たっては、市民が経済面や地理的・時間的な制約を気にせず、安心して様々な学びにつながるができるよう、学びの場と機会を保障する観点が不可欠であり、「多様な学びを支える環境」を充実させる必要があります。

そのためには、「札幌市えほん図書館」等の新しい図書館の整備だけでなく、学校図書館の充実も必要不可欠なものであり、学校図書館の充実発展並びに青少年読書の振興に努められております学校図書館協会の役割は非常に重要なものと認識しております。本大会におきましても研究主題「未来を拓く力を育む学校図書館」のもと、学校図書館の目的である「学校の教育課程の展開への寄与」、「児童・生徒の健全な教養の育成」等を目指し、公開授業、セッション、研究協議等、意義深い取組が行われることにより、学校図書館の活性化が促進されることを期待しております。

結びになりますが、今回の札幌大会の開催にあたりましては、北海道学校図書館協会をはじめ、多くの皆様にご尽力をいただきましたことに、あらためて感謝を申し上げますとともに、本大会が実り多き成果を上げ、全道及び本市の学校図書館がますます充実・発展することを祈念申し上げます、歓迎とお祝いの挨拶とさせていただきます。

第42回北海道学校図書館研究大会 札幌大会の開催を祝して



北海道教育委員会教育長 柴田達夫

第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会が、全道各地から多数の参加者をお迎えし、札幌市において盛大に開催されますことに、心からお祝い申し上げます。

北海道学校図書館協会におかれましては、青少年読書感想文コンクールの実施や機関紙「北海道の学校図書館」の発行など、本道の学校等における読書活動の充実に御尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであります。

また、学校図書館は、児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」としての機能と、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能とともに、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有しています。

文部科学省においては、「学校図書館ガイドライン」を昨年11月に定め、学校図書館の運営に当たって望ましい在り方を示すとともに、今年3月に告示された学習指導要領において、学校図書館の活用を図ることで、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすことを示しており、読書活動のみならず、子どもたちの学びの深まりや教員の授業づくりを支える学校図書館の役割に期待が高まっております。

北海道教育委員会としては、各小・中学校における学校図書館の積極的な活用を促すため、全道14管内で選定された指定校で、学校図書館の環境整備や学校図書館を活用した授業づくりについての研修会を行う事業を今年度から新たに実施するとともに、学校司書の資質向上を図る研修会の実施や学校司書配置の働きかけを継続して行うこととしております。

このような折、本研究大会において、「未来を拓く力を育む学校図書館～学ぶ楽しさ つながる世界～」を研究主題に、幼・小・中・中等教育学校による公開保育・公開授業、分科会などで研究を深められることは、誠に意義深いものであり、その成果に大きな期待を寄せているところであります。

御参加の皆様には、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であり、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童生徒の健全な教養を育成する学校図書館の一層の充実に向け、研究を深めていただきますよう御期待申し上げます。

結びに、本研究大会の成功と北海道学校図書館協会のますますの御発展と御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

北海道学校図書館研究大会

札幌大会の成功を祈念して



札幌市教育委員会教育長 長岡豊彦

北海道学校図書館研究大会札幌大会が、時計台の鐘がなるまちここ札幌市において盛大に開催されますことに、心からお喜び申し上げます。また、全道各地から御参加の皆様を心から歓迎いたしますとともに、日頃から学校図書館に係る諸活動を充実させるべく御尽力されております皆様に深く敬意を表します。

現代社会は、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会が大きく、また急速に変化を遂げ、将来を予測することが困難な時代となっております。このような社会情勢に対応するために、学校教育においては、将来を担う子どもたちに、自ら問いを立ててその解決を目指し、既存の知識を用いて他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことのできるような力を育むことが求められております。

こうした資質や能力を育むため、学校図書館においては、これまでのような読書活動を推進する役割に加え、調べ学習や新聞を用いた学習など、各教科等の様々な授業で活用されることにより、学校における言語活動や探究活動の場として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が一層期待されております。

札幌市においても、これからの時代に子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、「自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する学習」を「課題探究的な学習」と定義し、その推進を図っているところです。併せて、学校図書館については、課題探究的な学びを効果的に進める基盤となると考え、小中学校への学校図書館ボランティアの派遣に加え、中学校への学校図書館司書の配置を段階的に行い、授業における学校図書館の活用を促進し、学校図書館の「読書センター」としての機能はもとより、「学習センター」「情報センター」としての機能の一層の充実を図っているところです。

今大会においては、「未来を拓く力を育む学校図書館～学ぶ楽しさ つながる世界～」を研究主題とし、公開授業や研究発表を通して、発達段階に応じた豊かな読書活動や異校種間の連携の在り方、適切な情報を取捨選択し、自らの課題を解決し、新たな情報を作り出して発信していく力を育む学校図書館の在り方等について研究を深めると伺っております。これは、学校教育における学校図書館の利活用の一層の充実・発展に寄与するとともに、学校図書館の機能の一層の充実を目指す札幌市における教育にも貴重な示唆を与えるものと期待しております。

本研究大会の開催に当たり、御尽力された皆様方に深く敬意を表しますとともに、北海道学校図書館協会及び札幌市学校図書館協議会のますますの御発展と、御参加の皆様方の御活躍を心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

大会役員一覽

【大会役員】

大会長	齋藤 昇一	北海道学校図書館協会会長	参与	前鼻 政義	北海道学校図書館協会顧問
副大会長	錢谷 眞美	(公社)全国学校図書館協議会会長		奥 良幸	〃
	栗原 靖	北海道学校図書館協会副会長		吉田 裕男	〃
	三浦 正志	〃		阿部 宏明	〃
	相沢 克明	〃		藪田 正昭	〃
	川口 淳	〃		井上 正道	〃
	荻原 啓	〃		桜庭 英明	〃
				菅村敬次郎	〃
参事	岡田 悌二	北海道学校図書館協会監査		石戸 信也	〃
	富田 明好	〃		大東 紘	〃
	岡積 義雄	〃		本間眞知子	〃
	小栗 陽子	北海道学校図書館協会渡島地区会長		森若 克二	〃
	高田 宏昭	北海道学校図書館協会岩見沢市会長		阿知良光治	〃
	梅津 俊一	北海道学校図書館協会滝川市会長		工藤 達成	〃
	菊池 精一	北海道学校図書館協会空知地区会長		青柳 史匡	〃
	吉中 博道	北海道学校図書館協会渡島土別市会長		大川 秀明	〃
	木原由香子	北海道学校図書館協会留萌市会長		源 茂子	〃
	長谷川 博	北海道学校図書館協会増毛町会長		鈴木 文夫	〃
	梁瀬 邦之	北海道学校図書館協会北見市会長		渡邊 重夫	〃
	古川 幸宏	北海道学校図書館協会網走市会長		貴戸 和彦	〃
	新山 雄士	北海道学校図書館協会紋別市会長		佐藤 慎一	〃
	白瀬友加里	北海道学校図書館協会小清水町会長		浦田日出雄	〃
	竹内 克憲	北海道学校図書館協会大空町会長		米田 祥子	〃
	河原 賢	北海道学校図書館協会美幌町会長		門前 智	〃
	土屋 亮	北海道学校図書館協会十勝地区高校会長		久保田法順	〃
	附田 裕哉	北海道学校図書館協会理事長		鳴海 昌江	〃
	松井 操人	北海道学校図書館協会理事		中村 忍	北海道学校図書館協会参事
	佐藤 敬子	北海道学校図書館協会理事		本間 保憲	〃
	三分一 晶	北海道学校図書館協会理事		清野 ティ	〃
	大島 孝子	北海道学校図書館協会理事		原 幹彦	〃
	黒澤 敏行	北海道学校図書館協会事務局長		毛馬内教夫	〃
参与	成田 直彦	北海道立図書館長		萩谷 一雄	〃
	國澤 丈治	北海道学校図書館協会顧問		木口 満	〃
	藤田雄太郎	〃		清水 忠	〃
	獅子原 正	〃		津田 妙子	〃
	佐々木 勇	〃		中川 範博	〃
	滑川 賢一	〃		鈴木 隆之	〃
	斎藤 文一	〃		小島 健一	〃
	小森 昭	〃		棚橋 洋子	〃
	越後 敬一	〃		中橋 理子	〃
	安宅 英夫	〃		出町 南	〃

運営委員一覽

【大会運営委員】

委員長 荻原 啓 札幌市立平岡緑中学校
副委員長 渡部 良子 聖ミカエル幼稚園
松井 良彰 札幌市立あやめ野小学校
富田 明好 札幌市立南が丘中学校
相沢 克明 市立札幌開成中等教育学校

【大会事務局】

事務局長 木村 佳子 札幌市立常盤中学校
事務局次長 西川 秀喜 札幌市立幌東中学校
" 横道 幸紀 札幌市立真駒内中学校
" 渡部 浩士 札幌市立屯田中央中学校
事務局員 多田 真一 札幌市立常盤中学校
" 村田 伸一 札幌市立新琴似西小学校
" 杉田 勝 札幌市立南が丘中学校

【総務部】

部長 綿谷 聡 札幌市立白石中学校
副部長 新津 智哉 札幌市立八条中学校
副部長 佐々木 康平 札幌市立八条中学校
部員 金澤 幸子 札幌市立簾舞中学校
" 細田 真輝 札幌市立南が丘中学校
" 谷口 初江 元高等学校 司書
" 佐藤 広也 札幌市立栄小学校
" 安尻 太郎 札幌市立西岡小学校
" 北山 里美 札幌市立栄小学校
" 細野 藍 札幌市立あいの里東中学校
" 本間 由美 札幌市立発寒中学校
" 船渡川生子 札幌市立東栄中学校
" 新田 裕子 札幌聖心女子学院中学校・高等学校
" 圖師 広光 北海道北広島西高等学校
" 安藤理恵子 札幌市立もみじの森小学校

【研究部】

部長 志村 知子 札幌市立手稲宮丘小学校
副部長 植木 祐子 聖ミカエル幼稚園
" 尾藤 勲 札幌市立厚別東小学校
" 石岡 潤也 札幌市立平岡緑中学校
" 高橋 利寛 北海道札幌藻岩高等学校
" 片山 一良 北海道札幌清田高等学校
部員 浅村麻姫子 札幌市立宮の丘中学校・新陵中学校
" 今城まりえ 聖ミカエル幼稚園
" 宮崎 野歩 札幌市立ひがしなえぼ幼稚園
" 金野ひろの 札幌市立盤溪小学校
" 檜 克博 札幌市立東園小学校
" 橋本 美香 札幌市立あやめ野小学校
" 七條 亜樹 札幌市立鴻城小学校
" 松本 尚大 札幌市立あやめ野小学校
" 安部 史絵 札幌市立平岸高台小学校
" 片野 湧也 市立札幌開成中等教育学校
" 森山奈緒子 市立札幌開成中等教育学校
" 坂本 雅春 札幌市立啓明中学校
" 小笠原太郎 札幌市立平岸中学校
" 野呂 征輝 札幌市立啓明中学校
" 木藤昌起子 札幌市立啓野中学校
" 澤谷 明憲 市立札幌開成中等教育学校
" 小泉 泰之 市立札幌開成中等教育学校
" 三上 全 北海道札幌清田高等学校
" 北山 千慧 札幌市立あやめ野小学校
" 浅野 絵美 札幌市立平岡小学校
" 高橋 智子 札幌市立北白石中学校

" 大木 桂子 第2大麻幼稚園
" 鈴木 和男 札幌市立北の沢小学校
" 高橋いづみ 札幌市立宮の森小学校
" 片山 俊明 札幌市立幌南小学校
" 富岡亜希子 札幌市立北都中学校
" 渡辺 智広 札幌市立藻岩中学校
" 田口 祐弥 札幌市立北陽中学校
" 鈴木 勝實 北海道札幌啓北商業高等学校
" 遠藤 享 札幌市立あやめ野小学校
" 米田 巴江 札幌国際大学附属幼稚園
" 宮本 美捺美 こども園 札幌愛珠
" 宮本 さよこ 札幌市立澄川小学校
" 市川 大貴 札幌市立北陽中学校
" 佐藤 敬子 全国S L A スーパーバイザー

顧問

【編集部】

部長 竹内 政勝 札幌市立もみじ台中学校
副部長 米田 朋弘 札幌市立平岸中学校
" 酒井みなみ 聖ミカエル幼稚園
" 山田雄一朗 札幌市立幌北小学校
部員 大久保真希子 札幌市立東月寒中学校・西岡中学校
" 川角 清美 札幌市立手稲中央幼稚園
" 廣澤 由美 札幌市立発寒東小学校
" 赤平 沙絵 札幌市立元町北小学校
" 伊藤健士郎 札幌市立栄北小学校
" 関谷 有季 札幌市立月寒中学校
" 佐藤 菜保 札幌市立清田中学校
" 吉村 晶子 札幌市立平岡中学校
" 高田 和子 北海道札幌工業高等学校
" 鎌田 知佳 札幌市立北小学校
" 岡田 梨那 札幌市立平岡緑中学校

【会場部】

部長 三分一 晶 札幌市立東白石中学校
副部長 岡本 桃子 聖ミカエル幼稚園
" 長堀 裕信 札幌市立前田北小学校
" 西川 秀喜 札幌市立幌東中学校
" 蒲生 崇之 札幌市立山の手養護学校
" 田中 覚 札幌市立篠路西中学校
" 中川 桃子 札幌市立山鼻中学校
" 中村 禎宏 札幌市立月寒東小学校
部員 坂本 友美 札幌市立平岡公園小学校
" 久保 敦子 札幌市立かっこう幼稚園
" 佐々木 麻侑 札幌市立あやめ野小学校
" 中根ひとみ 札幌市立伏見中学校
" 遠藤 薫 札幌市立手稲中学校・稲積中学校
" 岡崎 陽子 札幌市立八軒中学校・発寒中学校
" 吉岡 円 札幌市立北都中学校・白石中学校
" 藤原 和美 札幌市立藻岩中学校・簾舞中学校
" 児玉 優子 札幌市立あいの里東中学校・東栄中学校
" 山本 真弓 札幌市立真駒内中学校・柏中学校
" 河崎 真季 札幌市立清田中学校・北野中学校
" 水口 暁子 札幌市立西野中学校
" 加藤 輝美 札幌市立北野台中学校・柏丘中学校
" 天谷 まゆみ 札幌市立厚別南中学校・幌東中学校
" 大山 真奈美 札幌市立新川中学校・上篠路中学校
" 遠藤 由美子 札幌市立札幌苗北中学校・北陽中学校
" 本田 知代 札幌市立藤野中学校・南が丘中学校

I 学校図書館の現状

1. 司書教諭と学校司書の状況
 - (1) 司書教諭の配置
 - (2) 学校司書の配置
 - (3) 司書教諭と学校司書の連携
2. 学校図書館の予算化状況
 - (1) 図書費の予算化
 - (2) 図書費以外の予算化
3. 学校図書館の整備状況
 - (1) 図書の整備
 - (2) 新聞の整備

II 学校図書館を巡る新たな状況

1. 国の施策
 - (1) 「これからの学校図書館の整備充実について」報告
 - (2) 学習指導要領の改訂
 - (3) 第5次「学校図書館図書整備等5か年計画」の実施

MEMO

(4) 「チーム学校図書館」の構築

2. 地方自治体の施策

- (1) 学校司書の配置
- (2) 「学校図書館図書整備等5か年計画」の具体化

Ⅲ 課題と展望

1. 司書教諭・学校司書の専門職化

- (1) 司書教諭の活動
- (2) 学校司書の活動
- (3) 学校司書の資格・養成

2. 学習指導要領の改訂

- (1) 「深い学び」への対応
- (2) 教科横断型の学習

3. デジタル化への対応

- (1) 学校図書館の情報化
- (2) 電子書籍への対応

4. 図書室から学校図書館へ

- (1) 施設から機能へ
- (2) 機能の高次化

MEMO

活 動 報 告

北海道学校図書館協会

事務局長 黒 澤 敏 行

今日、学校図書館においては、これまで以上に「生きる力」を育むという理念の下、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能向上を一層図っていくことが求められています。学校図書館の利活用を図り、自ら課題を見つけ、自ら学び、考え行動し、実行する能力を育成することが必要です。同時に、自らを律しつつ他と協調し、他を思いやる心や感性豊かな人間性の陶冶も共に重要です。学ぶための学校図書館、心を育てるための学校図書館が、学校の心臓部としての役割を發揮するよう、より一層の活動を進めていくことが求められています。また、校長は学校図書館の館長としての役割も担っており、校長のリーダーシップで教職員の連携の下、計画的・組織的に学校図書館の運営がなされるよう努めることが望ましいとされています。

以下に当協会の主な活動を記し、報告に代えさせていただきます。

◆研究活動では

- 1) 学校図書館の活用を教育課程に位置づける運動の展開
- 2) 「考える力」を育む読書指導の展開
 - 第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会の開催（全道大会は隔年開催）
 - 第43回北海道学校図書館研究大会旭川大会の開催準備（平成31年度）
 - 第59回北海道図書館大会の開催・協力
 - 第50回北海道学校図書館研修講座の開催（平成30年1月9～11日）
 - 各支部及び関係機関（読進協・全国SLA・道立図書館等）との協力研究
 - 全校読書活動や朝読書、学校図書館の活用を推進している実践校の把握と情報交流の推進
 - 『実践資料集 学校図書館☆学び方の指導ワークシート集』の普及・活用

◆組織運動活動では

- 1) 司書教諭制度の充実を図る運動の展開
- 2) 学校司書の配置促進と研修事業の推進
- 3) 学校図書館の整備充実を図る運動の展開
 - 「次代を担う子どもの心をはぐくむ北の読書プラン」推進のための活動の展開
 - 「学校図書館図書整備費」完全消化のための活動の展開
 - 全国パンフレットの活用
- 4) 高等学校の図書整備施策策定に向けての活動の展開
- 5) 支部組織強化の取り組み（支部研究会、研修会、その他研究会への講師派遣）
- 6) 各支部間の情報交流（広報・全道研究部長会など）
- 7) 全国SLA機関紙「学校図書館」の購読、普及促進、SLBAの活用普及
- 8) 機関紙「北海道の学校図書館」年4回発行
- 9) ホームページの運用（<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>）

◆普及活動では

- 1) 第63回青少年読書感想文全道コンクール、第43回北海道指定図書読書感想文コンクールの実施
- 2) 第29回読書感想画中央コンクールへの参加・第5回全道コンクール開催
- 3) 読書感想文集「北海道の読書」の編集・発行・普及
- 4) 優良図書選定、目録の発行
- 5) 北海道指定図書、「北海道青少年のための200冊」の普及

◆協賛・協力活動では

- 1) 中学生作文コンクール審査協力（事務局・6支部）
- 2) 全道高等学校図書研究大会（高文連）、北海道子どもの本のつどい、石狩管内高等学校司書業務担当者研究会への協力
- 3) 公共図書館及び図書館に関わる各種文化行事、関係団体等への協力・援助
- 4) 出版図書の推薦、優良図書・児童図書展示会等への協力

大会基調報告

北海道学校図書館協会
研究部長

山田佳子

第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会を開催するにあたり、本大会でのいくつかの基調となる課題について述べたいと思います。

現在、世界情勢の変動は著しく、考えられないような事態が多発しています。日本でも東日本大震災、熊本地震に続き、北海道でも台風10号による大雨被害を受けました。現在においてもなお、社会的、経済的な格差の広がりとともに不安定さは増しており、憂慮すべき状況下にあります。そうした中で、子どもたちは仲間とともに学び、遊び、そして日々成長しているのです。

21世紀は「知識基盤社会」と言われて久しく、新しい知識や情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増しています。こうした社会を生き抜くには、いかに社会が変化しようと生き抜く力が必要です。つまり、自ら課題を見つけて学び、主体的に判断して表現する力と、他と協調し人を思いやる心をもった豊かな人間性を身に付けなければなりません。そのどちらの育成にも学校図書館は大きく関わっているのです。

今年3月に公示された次期小・中学校学習指導要領では、基本的な考えの一つとして「主体的・対話的で深い学び」をすることで、子どもたちの資質や能力を育むとしています。また、「学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議」による「これからの学校図書館の整備充実について（報告）」を受け、昨年11月には「学校図書館ガイドライン」及び「学校司書のモデルカリキュラム」が定められました。これからの新しい教育課程を進める基盤として学校図書館の役割が、より一層期待されているのです。

北海道学校図書館協会の28・29年度の研究テーマは「豊かな未来を拓く力を培う学校図書館」です。北海道の子どもたちがいずれの地域に暮らしていようと等しく「豊かな未来を拓く力を培う」ためには、どうしたらよいのでしょうか。

『学校図書館法』第2条に、学校図書館は「教育課程の展開に寄与する」と「児童又は生徒の健全な教養を育成する」ことを、その設置の目的として掲げています。子どもたちがより適切な情報を取捨選択し、自らの課題を解決して新たな情報を発信し評価し合うに至る「学び方」を身に付けさせるためには、どう指導したらよいのでしょうか。それこそが「情報・メディアを活用した学び方の指導」、あるいは「利用指導」と呼ばれるものです。そしてまた、「情報教育」「メディアリテラシー」にも通ずるものです。また、自らの課題を解決するために、より深くより広く思いを致し考えられる豊かな心をもった人材を育てるためには、どう関わったらよいのでしょうか。さらに、学校図書館が学校教育の中核・心臓部として働き、学びを支え、深めていく学習センターや情報センター、豊かな心を育てる読書センターとして機能するためには、どう管理し、運営していけばよいのでしょうか。

学校図書館を機能させていくときに中心となるのは、司書教諭や学校図書館担当教諭、学校司書などのスタッフです。2014年の学校図書館法の改正により、初めて「学校司書」という文言が新しく第6条に明記されました。「専ら学校図書館の職務に従事する職員を学校司書として位置付けることとし、学校には司書教諭のほか、学校司書を置くよう努めなければならないこと」とされたのです。2015年度の施行以降、学校司書が理想的な形で配置されていくようにするためにも、司書教諭と学校司書、そして、その他の学校図書館スタッフとの協働の仕方については、喫緊の課題として研究を進めていかなければなりません。

このように、学校図書館を取り巻く課題は広く、多角的に取り組むべきものばかりです。それだけに、今回も多くの視点からアプローチする内容となっています。

本大会を開催するにあたっては、札幌市SLAの方々のご努力と熱意がありました。また、関係諸団体・全道各地の支部の皆様の温かいご協力をいただきました。深く感謝いたします。

北海道の開拓に力を注いだ先人たち同様、これから北海道に生きる子どもたちもまた、どのような状況にあっても、その未来をたくましく、賢く切り拓いていかなければなりません。子どもたちが自らたくましく育っていくために十分な手立てを尽くすのが、私たち学校図書館に関わる者の責任であり、使命です。

本大会の成果が、今後全道に広がり、等しく北海道の子どもたちの成長の糧となっていくことを願って、大会基調と致します。

大会研究報告

第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会

研究部長 志村知子

研究主題 「未来を拓く力を育む学校図書館」 ～ 学ぶ楽しさ つながる世界 ～

変化が激しく、未来が不透明な今の社会において、子どもたちが自立して生きていくためには「生きる力」を育む必要があります。このような社会に対応するために、子どもたちがこれまで学んできた知識や技能を活用して、自ら考え、判断し、表現する力が「生きる力」につながっていくと考えられます。現行の学習指導要領は、この理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視しています。

次期学習指導要領では更に、知識の質・量の改善に加え、学びの質を重視しています。社会とのつながりを意識した「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」を実現し、子どもたちが社会の変化の中でも何が重要か判断でき、多様な人々と協働して問題を解決し、新たな価値を創造していく力を育てていく必要があります。子どもたちの学びの質に着目し、授業改善の取組を活性化していくための視点として「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」が提示されていますが、その実施には、「学習センター」「情報センター」としての「学校図書館」が効力を発します。

また、新しい時代に必要となる資質能力のひとつとして「学びに向かう力・人間性」があげられています。読書活動は豊かな感性を養い思考を深め、豊かな心と創造力を育てていくと考えられており、学校図書館がもつ「読書センター」としての機能も更に重視されていくと考えられます。豊かな情操を育み調和のとれた人間へと成長し、社会や他者とつながって未来をたくましく生き抜く力を身に付けるために、学校図書館の充実発展は不可欠なのです。

以上のことから、これからの学校図書館では、「読書センター」としての機能を充実させるとともに、「学習センター」・「情報センター」として、学び方の指導を通して探究的な学習を支え、「生きる力」を育む教育課程の展開に寄与しなければなりません。このような研究と実践を通して、子どもたちが様々な世界とつながりながら学ぶ楽しさを味わってほしいと考えます。

今回の大会では、前回の室蘭大会の成果を継承しさらに充実発展させるため、子どもたちが自らの力で学び取ったことを生かし人、物、地域、世界などにつながる「生きる力」を育み、読書を通じて一人一人の子どもの豊かな心を培う学校図書館の役割を大切にしたいと考え、本研究課題を設定しました。

〈研究の重点〉

- (1) 多様な学習を支える学習センター・情報センターとしての学校図書館の研究
教科学習の中でたくさんの情報の中からより適切な情報を選択し、課題を解決し、自ら情報を発信していく学び方を身に付けさせる学校図書館の役割について
- (2) 豊かな心を育む読書センターとしての学校図書館の研究
発達段階に応じた工夫を凝らした読書指導の推進を通して、豊かな心と言葉の力を育む学校図書館の役割について
- (3) 司書教諭、学校司書や学校図書館スタッフの役割とその協働のあり方についての研究
学校図書館を支える司書教諭、学校司書、教職員、ボランティアなど、それぞれの役割や協働の仕方について
- (4) 学校間ネットワーク・地域・家庭との連携のあり方についての研究
学校図書館の管理・運営のための連携（幼少中高の連携、公共図書館、教育委員会、書店等との連携）、読書活動を推進するための地域・家庭との連携について
- (5) 特別な支援を必要とする児童・生徒を支える学校図書館の研究
支援を必要とする子どもたちの読書活動のあり方や学校図書館と指導者との連携、学校図書館資料の活用とその可能性について

第42回 北海道学校図書館研究大会 札幌大会 開催要項

研究主題

未来を拓く力を育む学校図書館 ～学ぶ楽しさ つながる世界～

主催 北海道学校図書館協会 札幌市学校図書館協議会 公益社団法人全国学校図書館協議会
主管 第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会運営委員会
後援 文部科学省 北海道教育委員会 札幌市教育委員会 北海道国公立幼稚園・こども園長会
 北海道小学校長会 北海道中学校長会 北海道高等学校長協会 北海道特別支援学校長会
 北海道私立中学・高等学校協会 北海道特別支援学級設置学校長協会
 公益社団法人北海道私立幼稚園協会 北海道公立学校教頭会 北海道高等学校教頭・副校長会
 北海道特別支援学校副校長・教頭会 札幌市小学校長会 札幌市中学校長会
 札幌市立幼稚園・こども園長会 札幌市立高等学校・特別支援学校長会
 札幌市特別支援学級設置学校長協会 札幌市小学校教頭会
 札幌市中学校教頭会 札幌市立高等学校・特別支援学校副校長・教頭会
 一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会

期 日 平成29年（2017年）9月1日（金）～2日（土）

会 場

《第1日目》札幌市立啓明中学校 札幌市えほん図書館 札幌市立あやめ野小学校 市立札幌開成中等教育学校 ホテル ライフォート札幌	公開授業・開会式・全体会・分科会Ⅰ、Ⅱ会場 公開保育・公開授業・分科会Ⅰ会場 公開授業・分科会Ⅰ会場 公開授業・分科会Ⅰ会場 交流会会場	(札幌市中央区南9西22) (札幌市白石区南郷通1丁目南8) (札幌市豊平区月寒東1条11) (札幌市東区北22東21) (札幌市中央区南10西1) (札幌市中央区南9西22)
《第2日目》札幌市立啓明中学校	セッション・記念講演・閉会式会場	(札幌市中央区南9西22)

大会日程 公開保育・公開授業の時間帯は会場によって異なります。

《第一日目》受付は各会場で8：20頃から

			13:00	13:30	14:45	15:00	16:50	18:30	20:30
受付	公開保育・公開授業	分科会Ⅰ	移動・ 昼食	開会式	全体会	休憩	分科会Ⅱ	移動	交流会

《第二日目》

	8:30	8:50	10:20	10:40	12:15	12:25	12:50
受付	セッション	移動	記念講演	準備	閉会式		

全体会 I 報 告 公益社団法人全国学校図書館協議会 理事長 設楽 敬一
 II① 大会基調報告 北海道学校図書館協会 研究部長 山田 佳子
 II② 大会研究報告 札幌市学校図書館協議会 研究部長 志村 知子

記念講演 講 師 tupera tupera 亀山 達矢 氏
 演 題 「tupera tuperaの世界 大人も子供も絵本を楽しもう！」

参加費 5,000円

開会式・全体会・閉会式 次第

開会式〈9月1日（金）13：00～13：30 札幌市立啓明中学校〉

- | | | | |
|---|------------------------------------|----|----------------|
| 1 | 開会のことば……………大会運営副委員長 | 〇〇 | 〇〇 |
| 2 | 大会長挨拶……………北海道学校図書館協会会長 | 斎藤 | 昇一 |
| 3 | 大会運営委員長挨拶……………札幌市学校図書館協議会会長 | 荻原 | 啓 |
| 4 | 歓迎の挨拶……………札幌市長 | 秋山 | 克広 様 |
| 5 | 祝 辞……………北海道教育委員会教育長
札幌市教育委員会教育長 | 柴田 | 達夫 様
長岡 豊彦様 |
| 6 | 来賓紹介……………大会運営副委員長 | 〇〇 | 〇〇 |
| 7 | 閉会のことば……………大会運営副委員長 | 〇〇 | 〇〇 |

司会進行 札幌大会事務局長 木村 佳子

全体会〈9月1日（金）13：30～14：45 札幌市立啓明中学校〉

- | | | | |
|-----|----------------------------|----|----|
| I | 報 告……………全国学校図書館協議会理事長 | 設楽 | 敬一 |
| II① | 大会基調報告……………北海道学校図書館協会研究部長 | 山田 | 佳子 |
| II② | 大会研究報告……………札幌市学校図書館協議会研究部長 | 志村 | 知子 |

司会進行 札幌大会事務局次長 〇〇 〇〇

閉会式〈9月2日（土）12：25～12：50 札幌市立啓明中学校〉

- | | | | |
|---|-----------------------------|----|----|
| 1 | 開会のことば……………大会運営副委員長 | 〇〇 | 〇〇 |
| 2 | 大会長挨拶……………北海道学校図書館協会会長 | 斎藤 | 昇一 |
| 3 | 大会講評……………全国学校図書館協議会理事長 | 設楽 | 敬一 |
| 4 | 大会運営委員長挨拶……………札幌市学校図書館協議会会長 | 荻原 | 啓 |
| 5 | 次期開催地引継 | | |
| 6 | 次期開催地代表挨拶……………〇〇市学校図書館協議会会長 | 〇〇 | 〇〇 |
| 7 | 閉会のことば……………大会運営副委員長 | 〇〇 | 〇〇 |

司会進行 札幌大会事務局長 木村 佳子

分科会テーマ

	種別	内容	分科会テーマ
1	管理・運営 (小中高合同)		<p>学びを支える学校図書館の運営</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「チーム図書館」がスムーズに動き出すために役立つツールについて 2.
2	幼稚園	読書指導	<p>本との出会いを大切にした読書指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の主体的な遊びを支える、絵本、図書を取り入れた環境について 2.
3	小学校	読書指導	<p>豊かな心を育む読書指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読書生活を見直す学習活動のあり方について 2. 発信や受信の場となる図書館の活用について 3. 教科書教材を活用した読書活動について
4	小学校	学び方の指導	<p>未来を拓く力を育む学び方の指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学び方を身に付けるための学校図書館の指導について 2. 3.
5	小学校	資料の活用	<p>豊かな学びを支える資料活用学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科学習での学校図書館の活用について 2. 学びを広げるための計画的な支援について
6	中学校	読書指導	<p>豊かな心を育む読書指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読む力を伸ばし読書生活を豊かにする授業作りについて 2. 読書意欲を喚起する効果的な授業作りについて
7	中学校	学び方の指導	<p>未来を拓く力を育む学び方の指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国語科における他の領域への学び方の発展について 2. 他教科への学び方の発展の具体策について
8	中学校	資料の活用	<p>豊かな学びを支える資料活用学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料を効果的に活用して理解を深める指導について 2. 教科や総合的な学習の時間においての計画的な学びへの支援について
9	高等学校	資料の活用	<p>未来を拓く力を育む学び方の指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題探求型学習における資料活用の仕方について 2. 学び方のスキルを活用し、学ぶを深めるための効果的な指導について
10	特別支援教育 (小中高合同)	読書指導	<p>豊かな心を育む読書指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階に応じた読書に親しむための環境づくりについて 2. 生活を楽しく豊かにする読書指導の工夫について

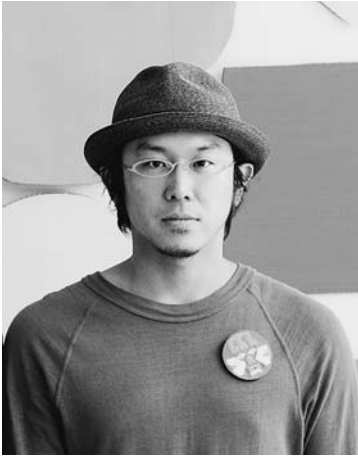
分科会提言者と役員一覧

	分科会名	提言者	司会者	助言者	記録者
1	管理・運営 (小中高合同)	帯広市立帯広第一中学校 司書教諭 福原 睦子	苫小牧市立大成小学校 教諭 山岡 武志	北海道新聞社NIE推進センター コーディネーター 開発 好博 安平町立追分小学校 校長 松井 操人	札幌市立東月寒中学校 ・西岡中学校 学校図書館司書 大久保真希子
2	読書指導 (幼稚園)	札幌市立ひがしなえぼ幼稚園 教諭 宮崎 野歩 文化学園大学付属幼稚園 園長 藍原 佳子	第二大麻幼稚園 教諭 大木 桂子	札幌国際大学 教授 武井 昭也 全国SLAスーパーバイザー 大久保 雅人	札幌市立手稲中央幼稚園 教諭 川角 清美
3	読書指導 (小学校)	札幌市立東園小学校 教諭 檜 克博 函館市立日吉が丘小学校 教諭 下田 浩子	函館市立北星小学校 教諭 新沼 誠子	札幌市立南白石小学校 校長 藤川 尚子 函館市立深堀小学校 校長 紺野 克典	札幌市立発寒東小学校 教諭 廣澤 由美
4	学び方の指導 (小学校)	札幌市立鴻城小学校 司書教諭 七條 亜樹 東神楽町立東聖小学校 教諭 長嶋 祐介 名寄市立名寄西小学校 教諭 松木 梢	小樽市立花園小学校 教諭 高木 理絵	札幌市教育委員会 指導主事 船着 千世 旭川市立末広北小学校 校長 加藤 宏明	札幌市立元町北小学校 教諭 赤平 沙絵
5	資料活用 (小学校)	札幌市立平岸高台小学校 司書教諭 安部 史絵 美幌町立美幌小学校 教諭 添田佐奈枝	砂川市立空知太小学校 司書教諭 古関 亮子	札幌市立簾舞小学校 校長 附田 裕哉 帯広市立啓西小学校 教頭 鈴木 宏和	札幌市立栄北小学校 教諭 伊藤健士郎
6	読書指導 (中学校)	札幌市立平岡緑中学校 司書教諭 石岡 潤也 北斗市立上磯中学校 教諭 兼子 泰久	池田町立池田中学校 教諭 稲見 亜希	札幌市教育委員会 指導主事 皆川慎太郎 小樽市立望洋台中学校 校長 森 万喜子	札幌市立月寒中学校 教諭 関谷 有季
7	学び方の指導 (中学校)	札幌市立平岸中学校 教諭 小笠原太郎 帯広市立大空中学校 教諭 嘉藤 麻里	札幌市立発寒中学校 司書教諭 本間 由美	札幌市立月寒中学校 校長 藤井 勲一 全国SLAスーパーバイザー 佐藤 敬子	札幌市立平岡中学校 教諭 吉村 晶子
8	資料活用 (中学校)	札幌市立西野中学校 司書教諭 木藤昌起子 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 教諭 北 都子 司書 新田 裕子	厚真町立厚南中学校 教諭 菅原 清美	札幌市教育委員会 指導主事 阿部 晋也 陸別町立陸別小学校 教頭 緑川 昌浩	札幌市立清田中学校 教諭 佐藤 菜保
9	学び方の指導 ・資料活用 (高等学校)	北海道札幌清田高等学校 教諭 三上 全 北海道札幌西陵高等学校 教諭 加藤 孝志	北広島西高等学校 教諭 圖師 広光	市立札幌開成中等教育学校 校長 相沢 克明 北海道教育委員会 指導主事 滝田 尚誠	北海道札幌工業高等学校 教諭 高田 和子
10	特別支援教育 (小中高合同)	札幌市立平岡小学校 教諭 浅野 絵美 旭川市立愛宕小学校 教諭 乙部 啓二	札幌市立もみじの森小学校 教諭 安藤理恵子	札幌市立北園小学校 校長 栗原 靖 北海道立特別支援教育センター 発達障がい教育室 室長 三坂 佳慎	札幌市立北小学校 教諭 鎌田 知佳

セッション内容と役員一覧

	セッション名	内容	発表者	司会者	運営・記録
1	tupera tupera の手作りおもちゃ	ワークショップ 子どもたちに人気の工作を参加者の皆さんと楽しみながら作り、最後にはみんなで遊びます。参加される方は、はさみとのり（木工用ボンド）をご持参ください。	絵本作家 tupera tupera 亀山 達矢	函館市立日吉が丘小学校 教諭 福崎こずえ	聖ミカエル幼稚園 主幹教諭 植木 祐子
2	本は身を助く	トークセッション 自身の経験をもとに、報道現場・番組制作現場から、子育ての現場と絵本や文学の世界を繋いでお話を頂きます。本に身を助けられ、キャスターとしての道を拓くことが出来た経験から「恋する文学」の秘話もあります。	フリーアナウンサー UHBアシスタント プロデューサー 沢 英里子	室蘭市立港北中学校 教諭 工藤かおり	札幌市立平岡緑中学校 教諭 石岡 潤也
3	学校司書の活動 アラカルト	講座 子どもたちが集まる学校図書館、そして子どもたちや先生方の「知りたい」に応える学校図書館になるのは？ 道内各地の事例をピックアップしてご紹介します。	北海道立図書館 企画主幹 中田こずえ	室蘭市立本室蘭中学校 教諭 坂本 文恵	札幌市立厚別東小学校 教諭 尾藤 勲
4	昔話と 日本人の心	講座 昔話の構造には、世界共通の課題があります。しかし、共通とはいっても、微妙な差異が存在することも確か。その差異を知ることは、「日本人とは何か」という課題に行き着くとともに、現在の「われわれ」の盲点を知る手掛かりにもなります。講師工藤先生とともにテーマに迫ります。	絵本児童文学研究 センター理事長 工藤佐千夫	砂川市立空知太小学校 教諭 伊藤 達大	札幌市立八条中学校 教諭 佐々木康平
5	学校図書館で 新聞をどう使う	講座 学校指導要領に明記され、教科書に取り入れられた学校図書館メディアの新聞。新聞と本の比較、はがき新聞、図書局活動での新聞活用などを例に、司書教諭と学校司書との連携も視野に入れ、テーマに迫ります。	全国SLAスーパーバイザー N I E学会理事 三上 久代	むかわ町立徳別中学校 教諭 大原 圭介	札幌市立手稲宮丘小学校 教諭 志村 知子
6	選書で変わる 学校図書館教育	講座 講師は道SLAで長年図書選定の仕事に携わっています。ポリシーをもって選書することで変容していく学校図書館教育を、教師と子ども双方の視点で考えます。	絵本屋「南風」店主 元小学校教諭 出町 南	帯広市立森の里小学校 教諭 穂積 美香	札幌市立平岸中学校 教諭 小笠原太郎
7	私と本との 出会い	講話 講師の小山内さんは札幌いちご会の代表として全国各地で講演されています。ご自身のこれまでの歩みと本との出会いをお話頂きます。	札幌いちご会 理事長・作家 小山内美智子	帯広市立柏小学校 主幹教諭 日根野郁代	札幌市立平岸中学校 主幹教諭 米田 朋弘 聖ミカエル幼稚園 教諭 酒井みなみ

記念講演



講師 tupera tupera 亀山 達矢 氏

演題 「tupera tupera の世界
大人も子供も絵本を楽しもう！」

《プロフィール》

中川 敦子さんとのユニット「tupera tupera」として2002年より活動。絵本やイラストレーションをはじめ、工作、ワークショップ、舞台美術、アニメーション、雑貨など、様々な分野で幅広く活動している。NHK Eテレの工作番組「ノージーのひらめき工房」のアートディレクションも担当。

著書は、『うんこしりとり』『しろくまのパンツ』『やさいさん』『パンダ銭湯』『パかおノート』『いろいろバス』『おばけだしょ』など多数。

「第2回・第3回街の本屋が選んだ絵本大賞グランプリ」、「第5回ようちえん絵本大賞」、「マルセイユ子どもの本大賞2014グランプリ」等、数々の受賞歴がある。京都造形芸術大学こども芸術学科客員教授。



「パンダ銭湯」絵本館



「しろくまのパンツ」ブロンズ新社



「かおノート」ココS&T




「やさいさん」学研



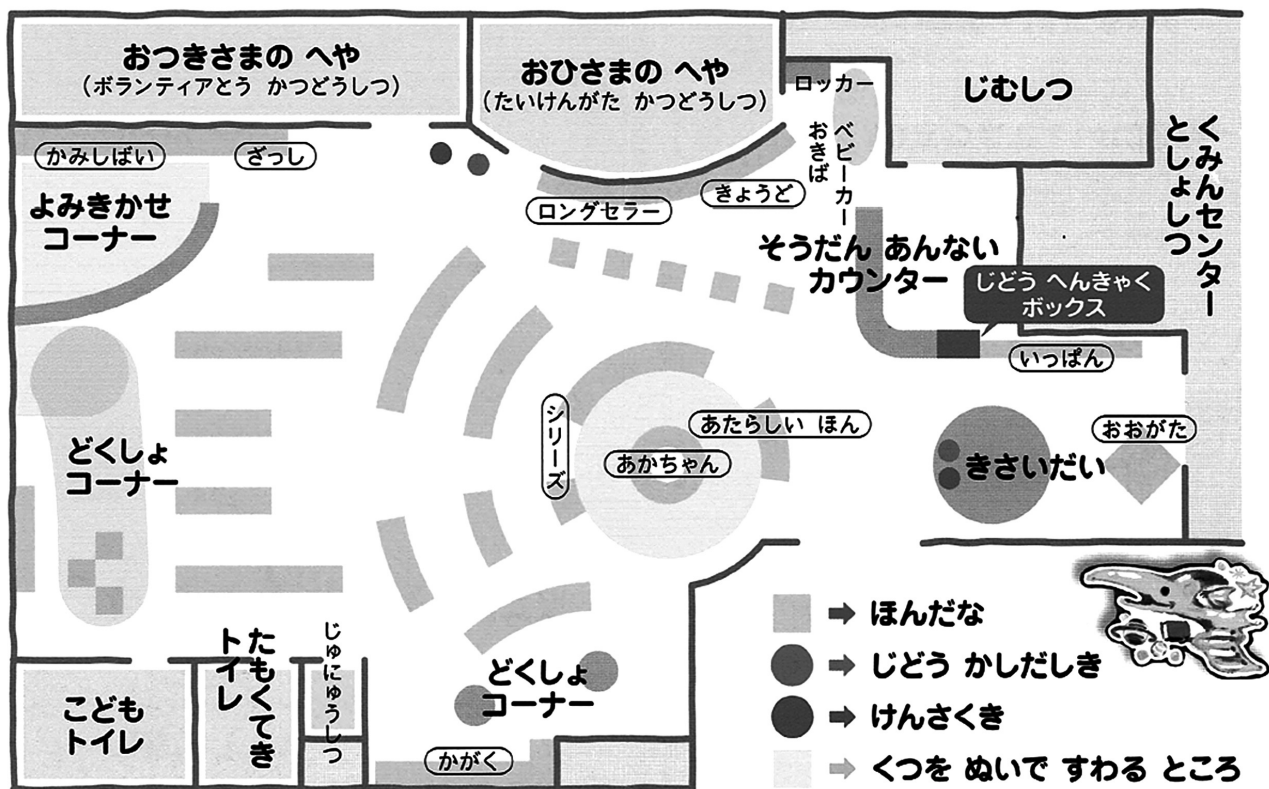
「うんこしりとり」白泉社

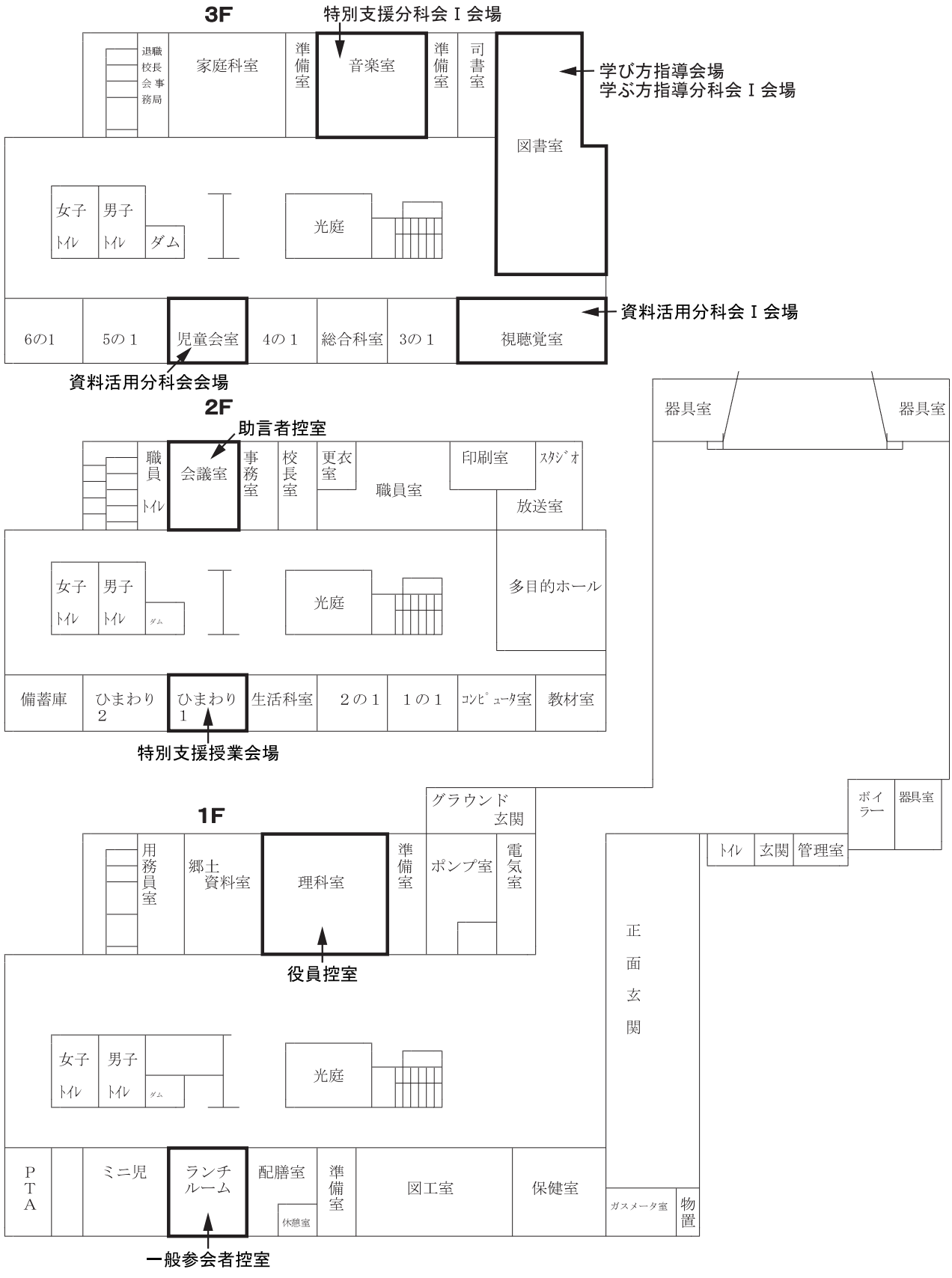
〈メモ〉



大会会場図

札幌市えほん図書館







園・学校紹介



札幌市えほん図書館



札幌市えほん図書館は札幌市の11番目の図書館として、平成28年11月7日に開館した公共図書館です。えほん図書館では、絵本を通じて、子どもたちが楽しみながら読書できる環境づくりに取り組んでいます。



札幌市白石区複合庁舎



札幌市えほん図書館内

1 施設概要

- (1) 所在地 札幌市白石区南郷通1丁目南8-1（札幌市白石区複合庁舎6階の一部）
- (2) 諸室 書架・閲覧スペース302㎡、体験型活動室（幼児向けイベントや団体利用に対応）52㎡、ボランティア等活動室（関係者向け研修、講演会等実施）65㎡、子ども用トイレ、授乳室等
- (3) 蔵書 2万冊程度（絵本、紙芝居、絵本に関する雑誌、絵本に関する一般書）
- (4) 開館時間 午前9時～午後5時
- (5) 休館日 毎月第4金曜日、年末年始（12月29日～1月3日）、蔵書一斉点検期間

2 主なサービス

- (1) 本の閲覧・貸出・返却・予約の受付、受取、レファレンスサービス
- (2) 年齢別のおはなし会、絵本講座、ワークショップ等の多様な行事の開催
- (3) デジタルコンテンツの活用
- (4) ボランティアの育成・交流・連携
- (5) 幼稚園や保育園等の団体利用



年齢別おはなし会

聖ミカエル幼稚園

園長：渡部 良子

チャプレン：下澤 昌

職員数：18名

園児数：年少30名 年中26名 年長30名

学級：ぱんだ きりん らいおん

(異年齢クラス)



保育目標：明るく、正しく、元気のよい光の子どもになりましょう

聖ミカエル幼稚園は、昭和29年7月にお隣の札幌聖ミカエル教会の付属幼稚園として開設された、歴史ある幼稚園です。昭和47年には、学校法人の幼稚園となりましたが、現在もキリスト教保育を大切に、保育を行っています。また、「自分が愛されている、という実感から自己肯定感の高い子どもに育てたい。」「たくさんの外遊びや、友達、先生とのかかわりの中で、心も体もたくましく育てたい。」「お祈りや日々の保育の中で、優しい正しい気持ちを育てたい。」「優れた絵本や、遊具を通して、豊かな感性、のびやかな想像力を育みたい。」との願いを保育の4本の柱に据えています。

特に、絵本による保育には力を入れています。2階には「絵本の部屋」があり、園全体で4500冊余りの絵本があります。子どもたちは毎日、帰りの会で絵本を3、4冊読んでもらい、金曜日には絵本を1冊借りて帰ります。また、木曜日には、保護者で作る絵本サークルのお母さん方が、読み聞かせをしてくださいます。科学的な絵本もお芋を植える時や、外遊びで虫を見つけた時などに、活用し、子どもたちは絵本が大好きです。





札幌市立あやめ野小学校



平成29年度学校テーマ 笑顔満開！あやめ野小

本校は、本年開校33年目を迎えました。全校児童171名、8学級の小規模校です。

本校の校地は、開校前は農業専門学校の八紘学園の土地で、あやめの花が咲いていたことから「あやめ野」という校名になり、あやめの花は校章にも使われています。現在でも4年生があやめを育てていて、開花の時期には近隣の幼稚園・保育園に招待状を送り花を楽しんでもらっています。



また、校地の横には月寒川が流れていて、3年生が総合的な学習の時間の教材にするなど、都会にありながら自然豊かな環境で学んでいます。

本校は、開校以来、豊かな感性を育てることを大切に取り組んできています。全学年が焼き物に取り組んだり、地域の協力のもと、消防車や牛、サイロなどの写生に取り組んだりしてきました。本年度からは、週に1回朝の活動として歌広場を行い全校児童が集まって歌声を響かせあっています。

読書を支える地域開放図書館

本校には、地域開放図書館「あやめっ子夢広場」があります。3名の開放司書さんを中心



に、ボランティアさんが貸出や図書館の飾りつけ、本の修理だけではなく、朝読書の時間に読み聞かせもしてくれます。また、12月には「図書館まつり」を行い、教員も参加して数か所に分かれて全校児童に読み聞かせを行ってくれます。子どもたちはこの行事を大変楽しみにしています。さらに来年の開設10周年記念行事に向け、大型

絵本の作成、キャラクター募集等を行っています。子どもたちの本好きを支え、地域とのつながりをつくってくれる役割を担ってくれています。



札幌市立盤溪小学校



盤溪小学校は、体力づくりと、豊かな人間性を育てるどんぐり活動に重点をおき、一人一人の自立を促す特色ある教育をすすめています。自然の中に校舎が建っており、式の移り変わりを感じながら1年間を過ごせる小学校です。

体力づくりでは、自然の地形を生かしたサーキットメニューやマラソンなど、日常的にさまざまな取組が行われています。近くにあるばんけいスキー場を活用し、一人一人のスキー技能の向上に前向きに取り組む児童が多いです。

縦割りのどんぐり学級では、他学年との交流時間が多く、全校児童の中の良さを誇れる学校です。日常の給食時間や掃除時間、サッカー大会、ドッジボール大会、宿泊学習などはすべて全校生徒で行い、他学年との仲を深めています。



主な読書活動は、寄託図書の利用、委員会活動による本紹介、高学年の低学年への読み聞かせ、司書教諭による給食時間、全校朝会での本の紹介など、さまざまな活動があり、いずれも縦割りのどんぐり学級の仕組みを生かして行っています。

今年度独自の読書活動としては、縦割り学級の活動を生かした、児童による読み聞かせを行いました。「高学年にしてもらった読み聞かせの仕方を参考に、自分たちも読み聞かせをしたい。」という思いをもった1年生の児童が自分たちで短いお話をつくり、絵本を読みました。参観日に、全学年に自分たちの作った絵本を読んで聞いてもらう機会を設けました。右下の写真は、1年生児童による読み聞かせの場面です。保護者にも参観していただくことで、懇談会の話題になり、さまざまな形で読書活動に協力していただくことができました。





札幌市立啓明中学校



<本校について>

本校は、昭和22年に札幌市立第六中学校として創立され、翌23年に「札幌市立啓明中学校」と改称し現在に至り、今年度開校70周年を迎えます。現在、全校生徒800人を超える生徒が在籍する、札幌でも有数の規模をもつ中学校です。



校名の「啓明」は、あけの明星（金星）に通じ、また、心広やかに知識を啓発するという意味をもっていますが、この校名が示す通り、落ち着いた環境のもとで、学習に部活動に精力的に取り組み、笑顔で元気な挨拶を交わす生徒の姿をみることができます。また、改築3年目を迎え、明るく広々とした校舎が生徒の豊かな学びを支えています。

本校では、学校教育目標を踏まえ、校歌にも謳われている「独立自往～自ら進んで実行しよう」を今年度の実践目標とし、その理念でもある新しい時代に生きる生徒像を目指し、変容していく生徒や保護者に真摯に向き合いながら、私達職員自身も進化変容をめざし、感動体験のある本校の教育実践の充実を推し進めているところです。

<読書指導の取り組みとして>

○校長先生による絵本の読み聞かせ

朝読書の時間（8時40分～50分）を利用して、本校の齋藤校長が一日一学級、実質1か月かけて全学級を回り、絵本の読み聞かせをしています。各学年の発達段階を考慮し、また、10分という時間の中で読み聞かせができる作品を齋藤校長が自ら選定しています。声色を登場人物によって変えるなど聞き手を引き付ける工夫も盛りだくさんで、生徒は10分間、作品世界に引き込まれます。



○ポスターコンテスト

本校では年に2回、「生活充実週間」が設定され、各常任委員会が学校生活の充実をめざし独自の取組を行っています。図書常任委員会では、読書への興味関心を高め、併せて図書室の活用を促すため、図書室所蔵の本を紹介するポスターを各学級から公募し、期間中は、応募作品を図書室に掲示することとしています。全校生徒による投票で優秀作品が選ばれます。





【学校教育目標】 わたし、アナタ、min-na そのすがたがうれしい

本校は、50有余年の歴史と伝統を誇る北海道札幌開成高等学校を発展的に継承し、平成27年4月、札幌市内初の公立中等教育学校として開校しました。開校3年目の今年度は、中等教育学校として1年生から6年生まで全学年が揃い、全校生徒956名の学校となりました。



本校では、この学校教育目標が日々実現する学校を目指すとともに、全教科・6年間にわたって「課題探究的な学習」に取り組むことを学びの特徴としています。現在、4年～6年が取り組んでいる3年間の教育課程では、文部科学省のスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）とスーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）の指定を受け、課題研究に関する教育課程開発を進めており、1年～3年が取り組んでいる6年間の教育課程では、国際標準の教育プログラムである「国際バカロレア（IB）」を活用した授業に挑戦しています。平成29年3月には、公立学校で日本初となるIBのミドル・イヤーズ・プログラム（MYP）の認定校となり、さらに、5年～6年のプログラムである日本語ディプロマ・プログラム（DP）の認定校も目指しています。



本校校舎中心の2階、3階部分には2層構造のメディアセンターがあります。2階には通常の学校同様、中高生向けの図書を配架していますが、例えば、低学年の段階から英語に親しみを持てるよう、同じ絵本の日本語版と英語版を一緒に配架するなどの工夫をしています。一方、3階は40名がグループワークで活用できるスペースを確保するとともに、IBに係る洋書や個人課題研究に利用する図書を配架し、今後とも順次、増やしていく予定です。さらに、生徒たちが自由にweb検索できるよう、無線LANでつながるノートパソコンを40台配備し、必要に応じて貸し出す体制となっています。まさに、メディアセンターは、本校の学びの一丁目一番地「課題探究的な学習」のセンター的存在として、多くの授業で活用されるとともに、昼休みと放課後には多くの生徒たちでにぎわっています。

公開授業・保育・分科会 I 一覧

	学校種別	学年	授業保育の内容	授業者	会場	時間	公開授業・保育
							分科会 I
2	幼稚園	縦割	読書指導	聖ミカエル幼稚園 教諭 今城まりえ	札幌市えほん図書館	10:10～10:55 11:05～11:45	
3	小学校	1年	読書指導	札幌市立盤溪小学校 教諭 金野ひろの	札幌市えほん図書館	9:15～10:00 11:05～11:45	
4	小学校	3年	学び方の指導	札幌市立あやめ野小学校 教諭 橋本 美香	札幌市立あやめ野小学校	9:50～10:35 10:50～11:30	
5	小学校	6年	資料の活用	札幌市立あやめ野小学校 教諭 松本 尚大	札幌市立あやめ野小学校	8:50～9:35 10:50～11:30	
6	中学校	2年	読書指導	市立札幌開成中等教育学校 教諭 片野 湧也 教諭 森山奈緒子	市立札幌開成中等教育学校	8:45～10:30 10:45～11:25	
7	中学校	2年	学び方の指導	札幌市立啓明中学校 教諭 坂本 雅春	札幌市立啓明中学校	8:55～9:45 11:00～11:40	
8	中学校	1年	資料の活用	札幌市立啓明中学校 教諭 野呂 征輝	札幌市立啓明中学校	9:55～10:45 11:00～11:40	
9	高等学校	4年 (高1)	学び方の指導 と資料の活用	市立札幌開成中等教育学校 教諭 澤谷 明憲 教諭 小泉 泰之	市立札幌開成中等教育学校	8:45～10:30 10:45～11:25	
10	特別支援	高学年	読書指導	札幌市立あやめ野小学校 教諭 北山 千慧	札幌市立あやめ野小学校	9:50～10:35 10:50～11:30	

※えほん図書館・あやめ野小学校・啓明中学校は、同一会場の授業を複数見ることができます。

※分科会 I については、参観した授業の中から一つを選んでください。

公開保育・授業



学習指導案

公開授業（1） 幼稚園 読書指導

指 導 案

日 時 平成29年9月1日（金）10：10～10：50

場 所 えほん図書館

園 児 聖ミカエル幼稚園 らいおん組 29名

指導者 教諭 今城 まりえ

1. 題材名 『絵本あそび「わたしのワンピース」の世界で遊ぼう！』

2. 設定理由

「わたしのワンピース」の絵本は、指導者本人が幼少期にわくわくしながら楽しんだ大好きな絵本である。昨年まで、絵本の世界の中で遊ぶことが少なかった子ども達にとって、この絵本に触れ合うことで、わくわく感を味わい、想像力が育まれるようになればと考える。また、視覚的に楽しめる絵本なので、聴覚過敏がある子どももみんなと一緒に絵本の世界で遊ぶことができると思い設定した。

3. 読書指導における本題材の位置付け

らいおん組の子ども達は、絵本の時間をとても楽しみにし、子ども達の方から「この本読んで！」と選ぶことがある。また、お気に入りの絵本は、「また読んで！」というリクエストの声上がり何度でも楽しむ姿が見られる。また、想像力が豊かで、アイディアが豊富な年長の子どもがいるので、絵をよく見て「あっ！〇〇の絵本と△△の絵本は、つながっているお話だと思う。」「このお話のつづきがあるとしたら、□□みたくなくて、その次は××になっていくとおもしろい！」などと次々と感じたことを伝えてくれる。

保育室の壁面を「わたしのワンピース」のうさぎにしているが、自分達が折り紙で何か作品を作ると、ワンピースの模様はその模様が変わることを信じており、季節や行事も考えながら、楽しむ姿が見られる。純粹な心で、絵本の世界を楽しむことができる子どもたちが、それを実生活に繋げて遊びを展開できるようにしていきたい。

4. 目標

- ・一人ひとりが絵本の世界観を楽しみ、大好きなうさぎのパペットと一緒に様々な活動に挑戦するその中で、初めてのことも積極的に取り組むことができるようになる
- ・豊かな想像力を育み、子ども達が主体的に表現する。その姿をお互いに認め合うことができる

5. 指導計画

- (1) 絵本「わたしのワンピース」を楽しみ、子ども達の主体性を大切に活動を進める
- (2) 自分達が考えたワンピースの模様から、様々な絵本の世界にも目を向ける
また、えほん図書館で、今まで出会ったことのない絵本に触れ、新たな世界を広げる

6. 本時の目標

- 絵本の世界をリズム遊びを通して、体いっぱい表現することを楽しむ
- オリジナルのお洋服の模様をみんなに見せることで、表現活動の楽しさを味わう

7. 展開

学習活動	教師のはたらきかけ	留意点
<p>おひさまのへやに集まる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 絵本読み「わたしのワンピース」 • 保育者の近くに寄り、座って絵本を見る <ul style="list-style-type: none"> ● リズム遊び「わたしのワンピース・ぼくのおようふく」 • 体を動かしたり、声を出したりすることで緊張感をほぐす • うさぎやお花、バナナなど、他の模様になり表現する <ul style="list-style-type: none"> ● 「わたしのワンピース・ぼくのおようふく」ファッションショー • お友達が考えた模様を見て楽しむ • 自分の模様が出てくるのをわくわくした気持ちで待つ <p>絵本の時間</p> <p>明日のお話・帰りのお祈り</p> <p>さようなら（うさぎとハイタッチ）</p> <p>活動終了</p>	<ul style="list-style-type: none"> • いつもと違う雰囲気不安になる子どももいるので時間の流れをしっかりと伝える。 • 友達とぶつからないように声をかける • 楽しい雰囲気が伝わるように、教師も笑顔で一緒に行く • この日までに子ども達が考えた、ワンピースやお洋服を絵本のストーリーに合わせて紹介する • どのお友達のワンピース・お洋服も素敵であると言うことを伝える • ゆったりとした気持ちで絵本を見ることができるようになる • うさぎのパペットと一緒に、本日の頑張りを認め、笑顔で送り出す 	<ul style="list-style-type: none"> • 落ち着いた雰囲気の中で絵本読みができるように声のトーンを考える • やり過ぎないように、「静と動」や声の「大小」を考え 最後は落ち着いた動きにする • 子どもの思いを受け入れ、主体性を大切にす • お互いの頑張りを認め合うことができるような声かけをする • 子ども達が大好きなうさぎのパペットを通し、さらなる表現活動へ持っていけるようにする

※評価基準につきましては、紙面の都合上、省略させていただいております。 大会当日配布の指導案をご覧ください。

公開授業（2） 小学校 読書指導

国語科学習指導案（略案）

日 時 平成29年9月1日（金）9：15～10：00

場 所 えほん図書館

児 童 札幌市立盤溪小学校1年 20名

指導者 教諭 金野 ひろの

1. 単元名 『ほんはともだち』（光村図書出版）

2. 単元について

「ほんはともだち」の教科書ページでは、いろいろな種類の本の表紙が写真で提示され、読書への興味・関心を促している。本単元の学習を通じ、学校図書館を積極的に活用する中で、本の選び方は様々にあることや、自分の読みたい本を選んで読むことの楽しさを知ること、日常的に本と親しむ態度を育てていきたい。併せて、本を大切に扱うことや図書館では静かに利用することなどの基本的なルールについても体験的に指導を進めていく。また、豊かな読書体験に向けて札幌市えほん図書館に行く機会を複数設定し、公共図書館で本を借りる体験をするとともに、幼稚園児に「ほんをしょうかいしよう」という言語活動を設定することで、自分たちが選んだおススメの絵本を伝えたいという思いをもち、意欲的に学習することができるよう工夫を加えている。

3. 読書指導における本単元の位置付け

読書が好きな子が多く、休み時間には積極的に本を借りて読んでいる。まだひらがなが読めない児童も、教師が読み聞かせをしたり、友達が教えたりすることで本に親しんでいる。校内への絵本の紹介活動は、1年生同士や縦割り活動で関係が深い6年生、さらに保護者を対象に計画的に行っている。

本単元「ほんはともだち」の学習では、自分で選んだ絵本や、（予め交流を進めている中で知り合っている）ペアとなる相手に合わせた絵本を園児に紹介する場面を設定する。自分が選んだ絵本の面白いところに着目して話したり、相手の選んだ絵本を聞いたりできるようにしていきたい。

4. 単元の目標

- ・進んで自分の読みたい本を選んで読もうとしている。
- ・選んだ本の面白い点を楽しく、伝えることができる。

5. 指導計画（全3時間 本時3／3時間）

- (1) えほん図書館に行き、配架の様子や借り方を知る。また、おススメの本を選ぶ。
- (2) えほん図書館や学校で選んだ本を読み、本の紹介や読み聞かせの練習をする。
- (3) 自分なりのおススメの本を選び、園児と一緒に楽しく読む。

6. 本時の目標

- ・おすすめしたい本を選び、読むことを通じ、本に親しむことができる。
- ・自分のおすすめの本を決め、友達に見せたり、伝えたりすることができる。

7. 展開

学習活動	教師のはたらきかけ	留意点
○学習の見通しをもち、本時の学習課題を知る。	○本時の学習課題を提示する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">幼稚園の友達に、ほんをおすすめしよう！</div>		
○どんな本を探したか、発表する。	○自分のおすすめの本や、幼稚園の子どもたちが好きな本について簡単に紹介させる。	○事前にお手紙のやり取りを行い、幼稚園の子どもたちが好きなものを調べておく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ほんをおすすめするのが、楽しみだね</div>		
○学校で読む「自分が読みたい絵本」を1冊借りる活動。	○自分の興味・関心に基づく本を1冊借りるよう知らせる。 * 本選びで迷う子への支援	○えほん図書館での2回目の本選び活動 (新たなおすすめの本に生かす)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">幼稚園児の来館</div>		
○幼稚園の子どもたちと出会い、ペアをつくる。	○あいさつ、自己紹介の後、小学生と幼稚園児の組み合わせを作るよう声をかける。	
○小学生が複数選んだ本の中から、読みたい本を幼稚園児に選んでもらう。小学生が本を見せたり、読んだりして交流する。	○自分たちが選んだ本をペアの子どもたち同士で本を読む活動を確認することを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">各ペアで紹介する・読む</div>		
○集合し、全体で交流する。	○活動を通してのふりかえりを行い、まとめる。	○幼稚園の子どもたちが喜んでくれた、など、子どもの変容に気付いた発言を価値付ける。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">おすすめの本で楽しんでもらえたかな。学校でもやりたいな。</div>		

8. 本時の評価

- ・おすすめしたい本を選び、読むことを通じ、本に親しむことができたか。
- ・自分のおすすめの本を決め、友達に見せたり、伝えたりすることができたか。

公開授業（４） 小学校 学び方の指導

国語科学習指導案

日 時 平成29年9月1日（金）9：50～10：35

場 所 札幌市立あやめ野小学校 図書館

児 童 札幌市立あやめ野小学校 3年1組 26名

指導者 教諭 橋本 美香

1. 単元名 すがたをかえる大豆／食べ物のひみつを教えます（光村図書 下）

2. 単元について

「すがたをかえる大豆」は、大豆をおいしく食べる工夫が段落ごとに書かれ、各段落の一文目が説明の中心となっている。五つの事例が接続語を使って、簡単なものから複雑なものへと順に並んでいるなど段落相互の関係についても理解を深めることができる教材である。「食べ物のひみつを教えます」では、興味をもった食べ物を選び、自分が調べたい事柄について情報収集し、先の説明文を参考としながら、集めた情報を分かりやすく文章にまとめる学習活動を展開していきたい。そこで、『食べ物事典を作って、食べ物博士になろう！』と設定し、様々な本の中から自分の目的に合った本を選び、おいしく食べる工夫についての必要な情報を的確に選んでいく力を伸ばしていく。そのために、「すがたを変える大豆」を読み取り、読み手に分かりやすい説明文の書き方を学ぶための見通しをもたせたい。

3. 学び方の指導における本単元の位置付け

読書が好きな児童が多く、休み時間には図書館に行き、進んで本を借りている。朝読書や空いた時間などには集中して読書をする様子が見られる。国語『本を使って調べよう 里山は、未来の風景』では図書館の使い方や、NDC、百科事典の使い方などの学び方の指導を行った。この学習から、目的をもって自分で本を探ることができるようになってきている。また、本の目次や索引から知りたいことを効率的に調べる方法も学んできているが、まだ、自分の力だけでは、探すことのできない児童もいる。

そこで本単元では、「食べ物事典を作って、食べ物博士になろう！」という活動を設定することで、「本を使って調べてみたい！」という思いをもたせ、完成した事典は、図書館に置いて、他学年の児童や保護者に見てもらうことでさらに意欲を喚起する。また、同じ食べ物について調べるグループで交流することで、必要な情報を的確に集めたり、要点をまとめる効果的な方法を学んだりすることができる。このような活動により、自分の目的に合った本を選び、調べたことをまとめる力を伸ばしていきたい。

4. 単元の目標

- ・中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。
- ・内容を大きくまとめたり、必要ところは細かい点に注意したりしながら読むことができる。
- ・様々なジャンルの本を使って、食べ物について調べ、必要な情報を的確に集め、文章にまとめることができる。

5. 指導計画（全14時間）

※（ ）内は、情報・メディアを活用する学び方の指導体系表に基づく指導内容です。

- (1) 「食べ物事典を作って、食べ物博士になろう！」を設定し、全体の学習計画を立てる。
- (2)～(7) 「すがたをかえる大豆」を読み取りながら、説明文について学ぶ。
- (8) 「食べ物のひみつを教えます」を読み、調べたい食べ物を決め、図等で整理して、調べる見通しをもつ。（学習テーマの選択）
- (9)～(11) 自分が調べたい食べ物について本を使って調べ、ワークシートにまとめる。（本時11）
（課題に応じて図書資料を利用し、情報を集める）（抜き書きの仕方、要点のまとめ方を知る）
（目的に応じた情報の選択をする）（著作権）
- (12)～(13) 文章の構成を考え、説明する文章を書く。
（情報の取捨選択、整理）（絵や文章のまとめ方）
- (14) 互いに読み合って評価し、学習を振り返る。（相互評価）

6. 本時の目標

- ・選んだ本から必要な情報を的確に集め、書こうとすることの中心を明確にして、ワークシートにまとめることができる。

7. 展開 ※（ ）内は、情報・メディアを活用する学び方の指導体系表に基づく指導内容です。

学習活動	教師のはたらきかけ	留意点
○学習の見通しをもち、本時の学習課題を知る。	○本時の学習課題を提示する。	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる食べ物について確認する。 米、麦、牛乳、いも、魚、卵など ・前時まで、一人一冊ずつ調べている。 ・新たに見つけた情報には、付箋を貼るよう、声を掛ける。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">食べ物ひみつをさがし、ワークシートにまとめてみよう！</div> ○本から調べたい食べ物ひみつが載っているところを探す。 （課題に応じて図書資料を利用し、情報を集める） （目的に応じた情報の選択をする） ○食べ物ひみつを文章にまとめる方法を考える。 （抜き書きの仕方、要点のまとめ方を知る）（著作権） ○全体でまとめ方を交流する。 ○学習のまとめをする。	○グループで本を交換し合い、情報を増やす場を設定する。 ○文を短くまとめる方法を考えられるよう、例文を提示し、コツを示す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に合う内容のみを書き写す。 ・必要なことをなるべく短く書く。 ・箇条書きにする。 ・自分で分かった上で書く。 </div> ○参考資料を明記させる。 ○実物投影機で書いた文を紹介する。	

※評価基準につきましては、紙面の都合上、省略させていただきます。

大会当日配布の指導案をご覧ください。

公開授業（5） 小学校 資料の活用

社会科学習指導案（略案）

日 時 平成29年9月1日（金） 8：50～9：35

場 所 札幌市立あやめ野小学校 6年1組

児 童 札幌市立あやめ野小学校 30名

指導者 教諭 松本 尚大

1. 単元名 「町人の文化と新しい学問」（東京書籍）

2. 単元について

本単元では、平和で安定した社会が続いた江戸時代に、どのような文化が親しまれたり、広がったりしたのかを学習する。文化財、地図や年表、その他の関連資料を活用して調べたことをまとめるとともに、町人の文化が栄え、新しい学問がおこったことに関わる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味について考えたことを適切に表現していく。

3. 資料の活用指導における本単元の位置付け

進んで読書を行う子が春から比べると増えてきた。社会科の学習の際には、意欲的に図書館の資料や寄託図書を活用して調べ学習を行ってきた。また、資料を読む際には、調べたい対象によって色分けした付箋を活用し、社会科の学習の時間には、すぐに資料から開きノートや調べ学習カードに書き込んだり、友達と情報を共有したりするための手立てとしてきた。

本単元の学習に当たっても、寄託図書やブックさぁくるを活用し、情報収集を行う。さらに、自分たちが集めた情報を調べ学習カードにまとめる活動をする。よい情報とは何か視点をはっきりさせることで自分たちが集めた情報を比較し、精選させ、自分たちの作るポスターに生かしていけるものにしていきたい。

4. 単元の目標

- ・歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産に関心をもち、進んで調べようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・社会が安定するにつれて、どのような文化や学問が生まれたかについて、学習問題や予想、学習計画を考え、表現する。（思考・判断・表現）
- ・歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について作品やノートなどにまとめている。（観察・資料活用の技能）
- ・社会が安定するにつれて、町人の文化が栄え、新しい学問がおこったこと、こうした学問が新しい時代の動きに影響を与えたことが分かっている。（知識・理解）

5. 指導計画（全7時間）

「江戸時代の文化・学問に関わる人物ポスターをつくろう！」

- (1) 調べる対象の決定
- (2) 資料を活用した調べ学習
- (3) 資料を活用した調べ学習及びグループ内の情報の整理 <本時>
- (4) グループによるポスター作り
- (5) ポスターセッションによる発表
- (6)～(7) 単元学習のまとめ

6. 本時の目標

- (1) 自分たちが集めた情報を比較しながら、ポスター作りの情報を精選することができる。
- (2) 資料をもとに、江戸時代を代表する町人の文化や新しい学問とそれに関わりの深い人物について進んで調べようとしている。

7. 展開

学習活動	教師のはたらきかけ	留意点
前時までに、資料をカードに記録できるようになっている。調べた資料の中から本時にもっと調べたい事柄や整理したい視点が決まっている。		
○本時の課題を確認する。	○本時の流れを説明し、見通しをもたせる。	
人物が成し遂げたことや社会に与えた影響がより明らかになるよう資料を整理しよう。		
○前時や朝の読書の時間に見付けていた資料の中から情報を抜き出しカードに記入する。 ○グループ内で、カードを整理し、同じような資料の中から、情報を見比べたり、精選したり、確かめたりする。 ○これまでに集めた情報について確認をする。 ○次時の活動の見通しをもつ。	○机間指導を行い、調査に関する助言を行う。 ○互いの調べた情報を比較し、評価しながらより適切な情報を精選させる。その時により情報とは何かについて考えさせる。 ○視点（人物、成し遂げたこと、その時代に与えた影響）に沿って文化・学問に関わる情報が集まっているか確認させる。 ○人物ポスター作りについて予告する。	○寄託図書やブックさあくる資料には、調べたい対象によって色分けした付箋が貼ってある。 ○同じ内容の複数のカードからより詳しく、分かりやすいものを選ばせる。

※評価基準につきましては、紙面の都合上、省略させていただいております。

大会当日配付の指導案をご覧ください。

公開授業（6） 中学校 読書指導

国語科学習指導案（略案）

日 時 平成29年9月1日（金）8：45～10：30

場 所 市立札幌開成中等教育学校

生 徒 2年 チームb 27名

指導者 教諭 片野 湧也・森山奈緒子

1. 単元名 「文学の要素」

2. 単元について

1年生で学んだ作品「花曇りの向こう」「星の花が降るころに」「少年の日の思い出」は、主人公の内面の変化を描くものばかりであるが、文学の世界には特に大きな変化の起こらない作品も多くある。「アイヌプラネット」「ゼブラ」は、視点人物が第三者的な立場から、いくつかのエピソードを通じて、ある人物を観察するように描いている。主人公に変化が起こらないわけではないが、淡々とエピソードを積み重ね、少しずつ観察対象の人間性が浮かび上がる。変化の激しいストーリーを追うことが主眼ではない作品は、生徒には退屈なものにとらえられがちである。本単元では、ストーリー以外にも文学を構成している要素を学ぶことで一見退屈な文学作品の良さを発見し、文学批評の力を伸ばし、読書の幅を広げることを目的とする。

また、批評のための専門用語を学ぶことも本単元の目的である。用語を学ぶことは、批評のための視点を手に入れることである。モチーフ、エピソード、コンテクストといった専門用語を理解し、文学を読む目を豊かにしたい。

3. 読書指導における本単元の位置づけ

適性検査を受けて入学した生徒たちであり、言語能力は総じて低くない。読書の習慣も概ねついているが、好んで読むジャンルは固定的で、なじみのないジャンルの本の面白さに意識的に触れさせていく必要性を感じている。

1年次に、心理描写を分析し目的や効果について考察する学習を行った。2年生では映像づくりの技法と目的・効果、続いて詩歌の鑑賞と創作を学んだ。表現には作り手の意図が働いているのだという意識が少しずつ身についている。また1年次の描写の学習で小説の創作（『少年の日の思い出』のリライト）を行った際、創作を楽しむ空気が強かった。自分で創作することで、読むときの目が鋭くなることは経験済みである。苦手意識をもつ生徒も、描写の方法について学ぶことで少しずつハードルを低くするように単元を構成してきた。

「読むこと」の授業は読む力を培い、生徒の読書生活の向上に結びつくものである必要がある。好みの本を多数読むだけでは身につけにくい「読む力」を育て、生徒の読書の世界を広げたい。

4. 単元の目標 ※（IBO『言語と文学』指導の手引き ねらい）から引用）

- 言語を、思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。
- 文学及び非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。
- 生涯にわたる読書への関心を育む。

5. 指導計画 (全24時間・12セッション)

- (1) (2) 文学批評に用いる専門用語を学ぶ
 - ※ (3)~(5) 「アイズプラネット」を読み、エピソードとモチーフの役割を考える
- (6) (7) 「ゼブラ」を読み、エピソードとモチーフ、コンテキストについて考える
- (8) 文学創作のシミュレーションを行い、構想ノートを作る
- (9)~(12) 総括的評価課題(文学創作)への取り組み・振り返り

6. 本時の目標

- ・「アイズプラネット」を構成する要素の役割を考えることで読む力を身につける。

7. 展開

学習活動	教師のはたらきかけ	留意点
「アイズプラネット」はどのように構成されているか。		
<ul style="list-style-type: none"> ・作品のプロットを30字以内でまとめる。 ・小グループでエピソードの数と内容を考え、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の方法を指示する。 ・交流の内容を整理する。 <p>※基本形に沿って板書を行う。</p> <div data-bbox="576 981 1027 1317" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公が誰かの認識によってプロットの主語が異なる。 ・基本形を他作品でも利用できるようにする。
各エピソードの役割を考えよう。		
<ul style="list-style-type: none"> ・各エピソードを分担して役割を考え交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の内容を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリー展開に直接関わらないエピソードが、人物像の表現や伏線となって作品の価値を上げる役割を果たすことに気付くようにする。
この作品の主要なモチーフと、その役割を考えよう。		
<ul style="list-style-type: none"> ・「アイズプラネット」がタイトルにもなる主要なモチーフである理由を考え、交流する。 	<p>支援発問 「主要モチーフがアナコンダだったら、読み手への影響に違いはあるか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリー展開に直接関わらないエピソードが、人物像の表現や伏線となって作品の価値を上げる役割を果たすことに気付くようにする。
文学はさまざまな要素の組み合わせで成立する。ほかの作品ではどうだろうか。		

公開授業（6） 中学校 学び方の指導

社会科学習指導案（略案）

日 時 平成29年9月1日（金）8：55～9：45

場 所 札幌市立啓明中学校 図書館

生 徒 札幌市立啓明中学校2年1組38名

指導者 教諭 坂本 雅春

支援者 学校図書館司書 後藤 幸子

1. 単元名 第2編日本のさまざまな地域の調査 第3章日本の諸地域③日本の東北部 6 東北地方～生活・文化を中心に考えよう（教育出版）

2. 単元について

○第3章では、①～③は日本の諸地域＝各地方区分（北海道、九州、中国・四国、近畿、中部、関東）ごとの学習を行ってきた。これまでの単元において、どのような方法で学習をすすめてきたかを振り返り、東北地方では、自分たちの手で調べ、まとめ、発表するという形態を進めたい。（⇒他班の発表を聞くことで自分たちが調べていない県の内容について学び合う。）

○調べる方法としては、教科書、地図帳、学校図書館・寄託図書・ブックさあくる等の図書資料、インターネットを活用する。班ごとに割り当てた1県について、それぞれの個人テーマごとに、各班内で分担したミニレポートを持ち寄り各県のポスターを作成した後、ポスターセッションを行う。各班（県）のポスターを6班（県）分持ち寄り発表しあうことで、東北地方全体の学習となるよう取り組ませたい。

3. 学び方の指導における本単元の位置付け

1年1学期の社会科で行った調べ学習において、インターネットの活用、著作権、複数の情報の比較・評価について指導した。同じく1年次の総合的な学習の時間で、まず図書館利用について、分類や配架の仕組みについて等の基礎的なスキル学習を行った。その後、インタビュー活動（人的情報源の活用）、ポスターセッション、パワーポイントを活用したプレゼンテーション（コンピュータを使った発表）等の学び方の指導を行っている。また、1年次、国語科でも教科書の内容に沿って図書館利用、情報収集、まとめ方、レポートのまとめ方について学んでいる。しかし、これまでの取り組みを見ると、情報量や調べ方に個人差が大きいため、今回の発表・交流による学び合いによって、調べる際の情報収集能力の差を縮めたい。

4. 単元の目標

○これまでの社会科、国語科、総合的な学習で学んできた、「学び方」についての学習を確認して振り返りながら、生徒間の情報量・収集能力の格差を縮め、身につけた学び方を高め合う姿勢を養う。

○地域の伝統的な生活・文化に関する事象を中核として、それを自然環境や歴史的背景、他地域との交流などに関連づけ、近年の都市化や国際化によって地域の伝統的な生活・文化が変容していることなどについて考察する。

5. 指導計画（全7時間。太字はその時間に行う学び方の指導の内容を表す。）

(1) **東北地方を概観する**～「班ごとの担当県・班内個人テーマ（①自然②農業③水産業④工業⑤歴史⑥伝統産業⑦他）を決定しよう」

地図帳・統計資料など参考図書の活用

- (2) **調べ活動①**～「個人で調べてみよう」
参考図書の利用、複数の情報の比較・評価、インターネットの取り扱い、著作権について
- (3) **調べ活動②**～「テーマごとに調べ方を交流し、さらに調べよう」～本時～
参考図書の利用、複数の情報の比較・評価、著作権について
- (4) **調べ活動③**「調べた内容をもとにミニレポートを作成しよう」
評価した情報の整理、伝えたいことの整理、レポートによるまとめ方
- (5) **調べ活動④**「ミニレポートを持ち寄ってポスターを完成させよう」
紙面によるまとめ方
- (6) **発表会** 「班毎に発表しよう」 **レポートによる発表、口頭による発表、相互評価**
- (7) **まとめ** (評価及び補足、単元のまとめ)

6. 本時の目標

- (1) 自分が担当するテーマについての調べ方を交流して情報収集能力を向上させ、充実した調べ学習につなげることができる。
- (2) レポートがより良いものとなるよう、意欲的且つ主体的に話し合いに参加することができる。

7. 展開

	生徒の学習活動	教師のはたらきかけ	留意点
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの各班の取り組み確認（各班分） 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲を喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報メモ、筆記用具の準備。
どのような調べ方をすれば、より有用な情報が得られるのだろうか			
展開 I 12分	<ul style="list-style-type: none"> 各班（県）の同じテーマを担当している者同士でグループを作り、前時にどのような調べ方でどのような情報を得たかを交流する。その結果、次にどのように調べればよいか等、わかったことを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視、適宜アドバイス。 わかったことを数名発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 東北のよさに目を向けさせる。 東北各県の旅行パンフレット等も用意。
交流で得た調べ方のスキルを生かして、さらに有用な情報を収集しよう			
展開 II 25分	<ul style="list-style-type: none"> 各自、調べ学習をすすめる。 最後に、交流後にさらにどのような調べ方をすることができるようになったかを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料からまとめること、参考資料を記載すること、丸写ししないことを再確認する。（T1） 図書資料の確認（T2） 遅れている生徒にアドバイス（個別指導） 次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> 参考図書を必ず一種類は使うようにさせる。 情報メモは提出させる。
まとめ 10分			

※評価規準につきましては紙面の都合上省略させていただいております。大会当日配布の指導案をご覧ください。

公開授業（7） 中学校 資料の活用

社会科学学習指導案（略案）

日 時 平成29年9月1日（金）9：55～10：45

場 所 札幌市立啓明中学校 図書館

生 徒 札幌市立啓明中学校 1年1組 33名

指導者 教諭 野呂 征輝

支援者 学校図書館司書 後藤 幸子

1. 単元名 第1編 世界のさまざまな地域

第4章 世界のさまざまな地域の調査

2 テーマについて調べてみよう（教育出版）

2. 単元について

「第4章 世界のさまざまな地域の調査」は「第2章 人々の生活と環境」や「第3章 世界の諸地域」で学習した内容をもとに、世界の様々な地域についてテーマを決めて調査・考察し、調査結果をまとめる単元である。それまでの学習から興味・関心をもったことや疑問に感じたことについてさらに深く調べることによって、地域的特色を捉える視点や方法を身に付けることは今後の学習のためにも重要なことである。

3. 資料の活用指導における本単元の位置付け

年度当初の社会科のオリエンテーションにおいて、レポート課題や調べ学習で図書やインターネットで調べた内容を引用する場合は出典を明示するよう指導した。総合的な学習の時間にも引用の方法や図書館の利用法、図書の分類の仕組み（日本十進分類法）などについて学習した。また、今回の授業に向けて図書館で資料を探す練習としてレファレンスゲームを図書館司書の協力のもと行った。

本時の学習では、図書館の蔵書等の資料から必要な情報を探し出し、効果的に活用する力を身に付けさせたい。

4. 単元の目標

- 世界のさまざまな地域について、その特色を捉える適切なテーマを設けて追求し、世界の地理的認識を深めることができる。また、世界のさまざまな地域の調査における視点と方法を身に付けることができる。
- 図書館の蔵書等から必要な資料を探し出し、効果的に活用する力を育成する。

5. 指導計画（全4時間）

1 調べる地域とテーマを決めよう	グループで話し合いテーマを決定する。
2 テーマについて調べてみよう（本時）	テーマに基づいて調査活動を行う。
3 調べた内容を分析し、まとめよう	調査内容をポスターにまとめる。
4 まとめた内容を発表しよう	ポスターセッションによる発表活動を行う。

6. 本時の目標

- (1) グループで選んだテーマに合った資料を探することができる。
- (2) 見つけた資料から必要な情報を読み取ることができる。
- (3) 読み取った情報を的確にまとめることができる。

7. 展開

*前時にテーマが決まった段階で寄託図書やブックさぁくる等を活用してテーマに合った資料を準備しておく。

	生徒の学習活動	教師のはたらきかけ	留意点
導入 4分	<ul style="list-style-type: none"> • 自分のグループが調査する国（地域）とテーマ、調べる内容の役割分担を確認する。 • 情報カードの使い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> • ワークシートをもとに前時の学習内容について確認する。 • 情報カードを配付し、使い方を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 4人グループとする。 • 出典など必ず記入させる。
グループのテーマについて調べてみよう			
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> • テーマに合った資料を手分けして探す。 • 探した資料から必要な情報を読み取り、情報カードに書き入れる。 • 情報カードをグループごとに模造紙に貼り、調査結果をグループで共有する。 • まとめに必要な情報をグループ内で話し合いながら、さらに情報を収集していく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校図書館司書と協力して資料を探すのに苦労している生徒の手助けを行う。 • 資料の読み取り方やまとめ方についてアドバイスを行う（できるだけ複数の資料から読み取る。丸写しはしないなど）。 • 調査の進み具合を見ながら、遅れているグループの手助けを行う。 • 調査内容を見ながら、さらに必要な情報についてアドバイスを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 寄託図書やブックさぁくるで借りた本は書架とは違う場所に置いておく。
調査結果をもとにまとめの準備をしよう			
まとめ 6分	<ul style="list-style-type: none"> • 調査内容を確認し、どのようにまとめるかをグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 次時のまとめに向けての準備をするよう指示する。 	

公開授業（8） 高等学校 学び方の指導

指導案（略案）

日 時 平成29年9月1日（金）
場 所 市立札幌開成中等教育学校
生 徒 4年4組（高校1年）40名
科 目 情報の科学／国語総合
指導者 教諭 澤谷 明憲（情報科）
小泉 泰之（国語科）

1. 単元名

社会課題を俯瞰して「問い」を立てる ～インターネット検索から文献調査へのススメ～

2. 単元について

本校は、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）、スーパーグローバルハイスクール（SGH）及び、国際バカロレア・ミドルイヤーズプログラム（IB・MYP）と3つの指定を受けており、すべての教育活動において自ら課題を設定し解決や提言に向けて取り組む課題探究的な学習を実践している。なお3つの指定を同時受けている学校は全国でも3校しか例がなく、公立学校では唯一である。通常授業ではもちろん、放課後研究班や学校外の学修を含む様々な活動において調査・研究・発表・提言といった活動を行っている。その中で4年次を「課題探究基礎」という学びのステージに位置づけ、様々な「ほんもの」を体験するフィールドワークと探究スキルの基本を身に付ける時間を多く設定している。

そこで、複数教科・科目での教科横断の学び合い（コラボ授業）のひとつとして、国語科（国語総合）と情報科（情報の科学）の連携により、国語科の視点と情報科の視点の融合から課題探究的な学習に向かう資質の向上をねらいとした。

近年インターネットにおける情報はかなり充実し気軽に収集できるが、気軽さ故に情報としてはまだまだ表面的である。その反面、文献にあたって分析することは題材を俯瞰する契機となり、多様な可能性を生むことが出来る。この題材を通じた探究における文献調査の重要性を理解できるようにしたい。

この題材を設定した背景には、上級年次の探究の成果物としての論文が、提言内容の巧拙を問わず、参考文献が「URL提示」ばかりであったことにある。これではテーマをどこまで俯瞰して捉えているかが疑問である。調査はあくまでも文献中心として、インターネット調査は、それを補完する手段になるように変えていきたいという思いによる。

本授業では、「身近な文献」である新聞を活用し、そこから文献への探究に向かうように、授業を展開し、書籍の持つ可能性を生徒に伝えていきたい。

3. 学び方の指導における本単元の位置付け

「4年次」とは一般的な高等学校の1年生にあたる。中等教育学校ではあるが、今年度までは通常の中学校を卒業して後期課程から入学している。また単位制であるが、本授業はクラス単位で授業を行っている。当該年次の生徒は、本校に入学してまだ半年にも満たず、課題探究的な学習のスキルとしては基礎的な学びの段階である。

4. 単元の目標

- ・ 様々なメディア（インターネット、新聞、書籍）から情報を収集し、物事の本質を俯瞰して見る視点を養う。
- ・ 課題探究的な活動を通してメディアとの接点から社会との結びつきへ発展する。そのために学校外協力者（探究パートナー）の支援に結びつける。

5. 指導計画（全2時間）

- (1) 論文の書き方説明（国語科）
- (2) 社会課題発見ワーク（情報科）

各種メディアの活用（情報の収集）

（提供記事・生徒選択）

「介護に外国人 現場歓迎」北海道新聞朝刊2017年2月15日（水）

「ムスリム客呼び込め」北海道新聞朝刊2017年4月24日（月）

「ポロクル今年も出発進行」北海道新聞朝刊2017年4月25日（火）

「貧困、格差…課題を関連づけ国連「開発目標」達成を」北海道新聞朝刊2017年7月16日（日）

その他（グループワーク）

- (3) 論文形式へのまとめ
- (4) 資料探索（メディアセンターで文献の獲得）
- (5) 調査フィールドの創出
- (6) 提言資料の提示

6. 本時の目標

- (1) キーワードに関心を持ち、その語を意図的にインターネットで検索させ、そこから読み取れる情報で本質が理解できるか、或いはできないかを実感する。
- (2) 関連する新聞記事を提示し、記事の内容を俯瞰して理解させることにより、新たな発見や気づきを実感する。
- (3) (1) (2)の比較を行いながら書籍にあたって学びを深め、俯瞰しつつ深みのある課題探究の取組を実感する。
- (4) (1) (3)の比較をしながら、それぞれのメディアの特質を実感する。

7. 展開

学習活動	教師のはたらきかけ	留意点
1 【国語科】論文の書き方説明	S G H成果物（上級年次）の紹介と分析	ゴールの設定 約束事として理解
2 【情報科】社会課題発見ワーク	キーワード提示とリサーチ（グループワーク）及び意見シェア 記事の提供と分析のファシリテーション	自由な意見が出る雰囲気 要約のシェアはジグソー法で行う
3 【コラボ】論文形式へのまとめ	生徒の実践の見守り	最初は型にはめない、自由な思いから少しずつ型を作る
4 【コラボ】資料探索（メディアセンターで文献の獲得）	自由探索の見守り	固執しないような揺さぶり
5 【コラボ】調査フィールドの創出	グループでの意見出し	訪問可能な範囲の設定
6 【コラボ】提言資料の提示	アウトプットの手法を提示	プレゼンテーションの雰囲気づくり

※評価基準につきましては、紙面の都合上、省略させていただきます。
大会当日配布の資料をご覧ください。

公開授業（9） 小学校 特別支援教育（読書指導）

国語科学習指導案（略案）

日 時 平成29年9月1日（金）9：50～10：35

場 所 札幌市立あやめ野小学校 ひまわり学級

児 童 ひまわり学級 計8名

（1組1～3年生 計4名）

（2組4、6年生 計4名）

指導者 北山 千慧 遠藤 享

1. 単元名 『本はともだち 本とあそぼう』

2. 単元について

本単元では、アニメシオンの手法を用いて、昔話や物語などに対する興味・関心を高めることをねらいとする。読み聞かせ（本文のみを提示）を聞き、ばらばらになってしまった挿し絵を正しい展開に並び替え、その絵のせりふや文章を楽しみながら考えることが課題となる。本時では、低学年グループは「うらしまたろう」、高学年グループは「注文の多い料理店」を扱う。主体的な活動を通して本の世界に入り込み、楽しい読書体験を通して、読書を現在の、そして将来の余暇の楽しみにつなげ、生活を豊かにするものであることを学ばせたい。

3. 読書指導における本単元の位置付け

小学1年男子1名、2年男子1名、3年女子2名、4年男子2名、6年男子2名の8名で学習を行う。知的障がい学級の2名は、簡単な絵本などの内容を理解することができる。年間を通して本を借りることは多くはないが、自分で借りたい本を選ぶことができる。読み聞かせの行事等では、内容が理解できるものは楽しんでいる様子が見られた。長い文章の絵本などでは飽きて集中できないこともある。

自閉症・情緒障がい学級の6名のうち、2名は本を借りて読書を楽しむ様子が見られるが、借りる本は「かいけつゾロリシリーズ」や、ゲームのノベライズ本に偏っている。

1名は本を借りることに抵抗があり、「物語は本当の話じゃないから嫌い」と表現することがある。読む単元では、登場人物の気持ちを想像することや、感想をもつことが苦手である。朝の読み聞かせを週に2回行うことで物語への抵抗感が少し緩んできている。

学級全体の実態としては、本を自分の意思で手に取ることは少ないが、読み聞かせなど、受動的に楽しむことはできると考え、読み聞かせを読書生活の導入として、ブックトークやアニメシオンなどの手法を用いて興味・関心を高めてきた。同時に、実際に図書館で本を探したり読んだりする活動を重ねることで、本の分類などを学びながら、生活の中で本に触れる機会を増やし、学級文庫を定期的に入れ替えることにより、自ら本を手にとれるような環境を整えてきた。

4. 単元の目標

- ・読み聞かせを聞き、本に興味・関心をもつことができる。
- ・絵を見て物語の展開を考えたり、せりふや文章を考えたりすることができる。

5. 指導計画 (全4時間)

- (1) 『わらしべちょうじゃ』…絵を見比べて、正しい順に並べ替えることができる。
- (2) 『わらしべちょうじゃ』…絵を見て、せりふや文章を考えることができる。
- (3) 『こぶとりじいさん』(1組1～3年生)『山ねこおことわり』(2組4、6年生)
…組に分かれ、絵を正しい順に並べ、せりふや文章を考えることができる。
- (4) 『注文の多い料理店』(1組1～3年生)『うらしまたろう』(2組4、6年生)(本時)
…組に分かれ、絵を正しい順に並べ、せりふや文章を考えることができる。

6. 本時の目標

- ・絵を見比べて、順番に並べることができる。
- ・絵を見て、せりふや文章を考えることができる。

7. 展開

学習活動	教師のはたらきかけ	留意点
○あいさつ ○本時の学習課題を知る。	○本時の学習課題を提示する。	
ばらばらになった本を完成させよう！ 指令1 並べ替え 指令2 せりふや文章を考える		
○組ごとに分かれて読み聞かせを聞く。 ○絵の順番を考える。 ○絵に合ったせりふや文章を考える。 ○全員1組教室に集まり、組ごとに発表する。 ○学習を振り返る ○あいさつ	○読み聞かせをする。 (挿絵は提示しない) ○話し合う時間をタイムタイマーで提示する。 ○必要に応じてヒントを与える。 ○発表させる。 ○学習を振り返って感じたことや考えたことをワークシートに記入する。	・各教室に移動。 ・テレビに文章のみを投影する。 ・話し方・聞き方を確認する。 ・実態に応じたワークシートを使用する。

※評価基準につきましては、紙面の都合上、省略させていただいております。

大会当日配付の指導案をご覧ください。



分科会の提言

提言1 「チーム図書館」がスムーズに動きだすために役立つツール

～学校司書配置開始時や担当教職員変更時に役立つ「年度当初打合せシート」～

札幌市立新陵中学校・宮の丘中学校

学校図書館司書 浅村 麻姫子

I 主題設定の理由

札幌市では平成27年10月より「学校図書館司書配置事業」がスタートし、平成29年4月現在、57校に31名の学校図書館司書（以下「学校司書」と略す）が配置されている。平成31年度までには市内全中学校に配置する計画である。

札幌市の各中学校にとって、新しい存在である「学校司書」をどのように受け入れ連携して図書館を運営するかということは大きな課題であり、教職員から戸惑う声も聞こえてくる。既に配置されている学校司書もそれを感じつつ、学校図書館担当教職員や他校の学校司書と連携しながら、より良い活動を模索している状況である。また、司書教諭・学校図書館担当教職員・学校司書それぞれの学校図書館運営経験に差がある現状である。

以上の状況から、経験が少なくても図書館運営がうまく進むような工夫が必要だと考えた。

II 研究の概要

経験の少ない学校司書および教職員にとって、年度初めに「何から始めたらよいか」「まず何を確認すればよいか」がわかることが、図書館運営をスムーズに始める出発点となると考えた。

自身の持つ教諭・司書教諭の経験、そして現在の学校司書の経験を踏まえ、本部会の研究チームの助言を受けて、主に年度当初に利用できる「打合せシート」（以下「シート」と略す）を作成した。また、それを平成29年度配置の学校司書全員に3月に配付し、新年度の利用を呼び掛けるとともに、利用状況とシートの内容等に関するアンケートへの協力を依頼した。アンケートの回収率は45/57校、25/31人であった。

打合せシートは、誰でも使える最も基本的な項

目で構成したもの（シート①）と、配置2年日以降の使用を想定して少し詳しい内容を盛り込んだもの（シート②）の2種類を作成し、項目の解説を別紙で用意した。また打合せ時等に使用できるよう、学校司書の業務について概説した教職員向けプリントも作成し、併せて配付した。

アンケートから、特に配置初年度の学校司書にとって、また2年日以降でも図書館担当教職員が変わった場合に、シート①が何を打ち合わせればよいか分かり大いに役立ったという声が多く寄せられた。初めて図書館を担当する教員と初めて配置された司書の組合せもあり、シート①があって良かったとの回答もあった。昨年度と学校図書館担当教職員・学校司書共に変わらない場合はシートを使用する必要がない、またはシート①および②の項目を絞って使用したという意見もあった。

III 考察・提言

年度当初は図書館運営にとって大切な時期であるが、特に教職員は多くの会議や諸準備で打合せの時間がとりにくい。しかし、この時期に必要な最低限の事項を短時間で確認できれば、学校司書もスムーズに開館準備に取りかかることができる。総合的に考えて、年度当初のシート①の利用は有効であると結論できる。またシート①および②は、年度末に記入すれば担当者変更の際の引継ぎ等にも利用できる。

このようなシートが全道の全ての地域で配付され、各校の状況に応じて利用できることが、学校図書館利用の促進に役立つと考える。本提言を参考に、市町村単位で地域の実情に合ったシートが作成され活用されることが期待される。今後、他にも有効なツールを開発し、提案していきたい。

提言2 図書館担当者の困り感を解決するための研修会

～蔵書管理システムを図書館運営の土台とするために～

帯広市立帯広第一中学校

司書教諭 福原 睦子

I 主題設定の理由

帯広市では、学校図書館のコンピュータによる管理システムを導入している。日常業務が時間短縮でき、様々なデータが取り出せ、何より、蔵書点検等が非常に簡単になった。帯広市学校公共図書館研究会では、「学校図書館運営の手引き」を作成、配布しているが、毎年担当者が変わる学校もあり、PCシステムのマニュアルや「手引き」が引き継がれていない場合もある。

また市では平成13年度より、図書館活性化支援事業が行われている。読み聞かせはもちろん、図書館の装飾や図書の装備などでもボランティアの支援を受けることができる学校が増えている。

この状況の中で、図書館担当者として取り組むべき「学びを支える図書館」運営とするための土台づくり、またそれらが、引き継がれていく方策をとる必要性を認識している。

II 研究の概要

第一に、初めて図書館担当となった人が、年間の見通しがわかるように支援をすることとした。帯広市学校公共図書館研究会の総会や、帯教研図書館教育の年度初めの部会では、初めて図書館担当者となる不安を述べられる方が少なからずいる。そこで、平成27年度に、以前作成した「帯広市学校図書館運営の手引き」を更新されたPCシステムに合うように改訂し、配布した。

昨年度はこの改訂版の「手引き」を利用し、更に「初めての図書館担当 これだけは」を作成した。プリントスクリーンでPCシステムの操作の仕方をマニュアルより細かく示し、図書管理作業手順の研修会を開いた。市教委との共催で、参加校も多く、担当者が求めている部分がわかってきた。

第二に、図書館管理の一つである蔵書点検について取り組んだ。希望する学校のボランティアにも参加してもらい、蔵書点検システムでの作業を行った。ここでも経験校で事前に打ち合わせをし、効率の良い点検方法を提案した。また、点検ミスの解決方法、点検後の不明本の探し方についてももっと知りたいという意見をもらう場面となった。

第三に研修会などで、ここ数年、質問がでる図書の廃棄についてである。図書の廃棄申請は申請も、その作業も時間がかかるため、PCシステムを使って作業効率を上げる方法を提案した。

第四には今年度初の試みとして、年度当初のPCへの児童・生徒の名簿入力や進級処理など、図書館が動き出すために必要な準備を自校で行う際に全校に案内を出し、実際にPCの操作を見てもらうことを行った。ここでは、名簿などのデータを簡単にPCに登録するという方法を示した。

いずれの実践も寄せられた声にこたえていった結果である。

III 考察・提言

図書ボランティアの支援を受けられる現在、司書教諭としては、「教育課程に寄与する」ことに軸足を移すことが可能である。また、蔵書管理がPC処理でき、蔵書傾向、不明図書などが明らかになるので、管理をきちんと行うことが求められている。自館の蔵書バランスをとることは、学ぶ力を支える学校図書館とする必須の要件である。

図書館担当は「大変」「面倒」という気持ちを払拭するには、業務に対する手立てを示し、学校間の協働を図り、困り感を解決できる場を多く設けることが有効である。どの学校も同じ図書館環境となるための方途を見出す取り組みを続けたい。

提言1 幼児の主体的な遊びを支える、絵本・図書を取り入れた環境

～札幌市立研究実践園の取組から～

札幌市立ひがしなえぼ幼稚園

教諭 宮崎 野歩

I 主題設定の理由

札幌市立幼稚園は、幼児にとってふさわしい生活を保障するために、年齢や実態に応じた直接体験が得られるように教育課程を編成し実践している。

幼児がどのように絵本や図書に触れているか、一人一人の様子を見てみると、入園前の経験の差が見てとれる。家庭で、保護者が願いを持って絵本に触れさせている幼児は、絵本を自然に手に取ったり、新しい絵本にも興味をもって見たりしていることが多いように見える。そうした経験の少ない幼児にも園生活の中で発達や興味・関心に沿った絵本を提示することで絵本を身近なものに感じ、自ら手に取ってみたいくなり教師が読み聞かせた絵本を繰り返し見たがったり、教師や友達と一緒に見ることを楽しんだりするようになっていく。

幼児期の教育は環境を通して行う教育であることから、絵本や図書もこうした環境の大切な一部と捉え、園の中でいかに身近で日常的なものとしてできるか試行錯誤しながら実践に取り組みなければならない。

II 研究の概要

1. 「遊びのツールとしての図鑑の活用」

札幌市立手稲中央幼稚園の実践

担任教師は、虫捕りに夢中になる幼児の姿から、虫の図鑑を環境に取り入れ、教師や友達同士で発見を伝え合うことを楽しめるようになってきた。また、虫に詳しい小学校の校長先生と林を探索する取組も行った。虫を捕るだけでなく、発見を伝え合うことに夢中になったからこそ、主体的に調べたり、虫を作って再現したりする遊びへと広がり、好奇心や探求心が育まれることにつながった。

2. 「幼児と絵本についての家庭への発信の取組」

札幌立かっこう幼稚園の実践

幼児期の絵本との関わり方を家庭へ発信する目的として参観懇談にて親子で「絵本の面白さを体験」「絵本の世界を楽しむ」ことをねらいとし「絵本ワークショップ」を開催した。

絵本をきっかけに遊びや生活を楽しんでいることを実際に親子で体験したことで、家庭の意識につながった。また、ワークショップの中で親子での読み聞かせの機会をつくり、我が子を膝に乗せゆったりとした時間も体験したことも家庭での読み聞かせを振り返る機会になった。

3. 「地域の図書館を活用した取組」

札幌市立ひがしなえぼ幼稚園の実践

担任教師は、本に触れる機会の少ない幼児の実態を捉え、園での遊びから本に興味をもてるように環境を構成してきた。「へんてこもりシリーズ」の絵本は幼児がとても気に入り、継続して読み聞かせや遊びにつながっていった。絵本に「図書館」が登場したが、知らない幼児が多かった。興味をもった姿を捉え、実際に「地域開放図書館」「絵本図書館」に行く保育を計画した。「図書館」に行く心動く実体験から、幼児の本への興味関心は広がり、幼児の生活全般を豊かにした。

III 考察・提言

各園では、幼児の言葉やイメージを膨らませるための環境として絵本・図書を遊びに取り入れている。幼児期に遊びを通して培われた豊かな感性や探究心は小学校以降の学ぶ力の基礎となっていく。絵本や図書が子どもたちにとっていつでも身近なものであるよう幼児期から取組を重ねていかなくてはならないと考える。

提言2 絵本との出会いを大切に

～親子、そして仲間と共に絵本の世界を楽しむ～

文化学園大学附属幼稚園

園長 藍原 佳子

I 主題設定の理由

子ども達が上質な絵本と出会い、そこから得るものは計り知れないほど多い。ことばの獲得は、思考力や判断力を高め、読み聞かせを通して得られる共有体験は、将来の豊かな人間関係の土台となる。又、家庭においての読み聞かせは親子の絆を深め、豊かな感情や自己肯定感を育んでいく。

そのため、幼稚園では子ども達が絵本を通して得られる力を意識して、絵本活動を進めていく必要がある。園生活において、仲間と共に絵本体験をより多く楽しめる活動はどのようなものか、子どもや保護者が園文庫を活用し、家庭での絵本体験を促すためには、どのような工夫ができるのかについて考え、取り組みをしてきた。

II 研究の概要

「園児・保護者の園文庫活用を促す工夫」

- ・園通信を通して、絵本を楽しむ子ども達の姿を伝え、保護者が絵本活動について知り園文庫に興味をもてるようにする。
- ・園には8千冊以上の絵本がある。それらを気軽に閲覧したり、借りる事ができるような雰囲気づくりを心掛ける。
- ・絵本についてのセミナーを自園で開催し、絵本の大切さや楽しみ方などを伝える。

これらの取り組みを、日々子ども達の生活に結び付けながら展開する事により、少しずつ絵本を手に取り、読んで楽しみ、園文庫での貸し出しを利用する保護者の姿が多くなった。

「絵本を楽しむ、そこから広がる遊びの工夫」

- ・絵本の読み聞かせから、劇遊びや制作遊びへと展開する。遊びの導入として絵本は活用しやすく、子ども達もイメージしやすい。又、イメージを共有し、互いにわかり合える関係が生まれ

る事によって、活動内容に広がりが見られるようになった。

- ・園の大きな行事である運動会、発表会、作品展において、絵本を活用する事により子ども達の活動に対する意欲が増し、家族への理解も得やすい。それにより一層行事を楽しむ事ができた。

「園と家庭のかけはしとなる月刊絵本の活用」

- ・毎月配本される月刊絵本が、子ども達のみだけ保育室に並ぶ。その絵本をどのように活用するかは、その時々クラスメンバーや担任によって違う。1ヶ月間幼稚園で親しんだ絵本は、家庭に持ち帰ってからも十分に楽しんでいるように感じられ、教師間での情報交換を大切にしながら、より多く活用するよう心掛けた。
- ・子ども達に絵本を届ける前に、教諭間で読み合いをし、教師自身が読んでもらう体験をする。その事により、個々の絵本の良さをより感じられるようになり、子ども達への読み聞かせの意識が変化した。

III 考察・提言

当園の保育において、絵本は無くてはならない大切なものとなっている。絵本の持つ力を最大限生かし、子ども達の読書活動や絵本活動を充実させる事が遊びの豊かさを生み、保護者の保育内容の理解にもつながったと感じている。

親子のスキンシップから始まった絵本の楽しみは、園生活における仲間との共有体験となり、家庭と園を1つの話題で結ぶ重要な役割を果たしてきた。これらの体験が子ども達の生きる力となり、今後の読書活動が広がりをもっていく事を意識しながら保育を進めていく事が重要と考える。

提言1 豊かな心を育む読書指導

～教科書教材を活用した読書意欲につながる学習展開の工夫～

札幌市立東園小学校

教諭 檜 克博

I 主題設定の理由

一昨年度の児童アンケートで子どもたちは読書に親しんでいる結果がでたが、保護者アンケートでは家庭での読書が少ないと感じている保護者が多数おり、児童と保護者との間にずれが生じていた。

そこで、日常的に教師側が国語の学習において、「読書意欲につながる学習展開の工夫」を行うことで、子どもたちの読書の幅が広がり、学習の窓口から家庭でも本の話題に触れる機会が増えると考えた。

II 研究の概要

児童の読書意欲を喚起し、読書生活の改善につながるように、以下の言語活動を設定した。

3年【おもしろいと思うところを、しょうかいしよう】三年とうげ

言語活動『3年1組MY本屋大賞を開こう』

児童の選書の実態を調査すると、民話や昔話をほとんど読まないことが分かった。そこで図書館で一度も借りられたことのない民話や昔話を『MY本屋大賞』として全校に紹介する活動を行った。

民話や昔話の「おち」や「登場人物の変化」といったおもしろさに目を向けることができた。また、図書館に『お話のとびら』を掲示することで、全校に民話や昔話に関心をもってもらうことができた。

4年【登場人物の人がらをとらえ、話し合おう】白いぼうし

言語活動『お話カードを使って紹介しよう』

児童が読書する際におもしろいと感じるのは、お話の展開に目を向けている子が多かった。お話カードに登場人物が言ったこと（会話文から）、したこと（地の文から）に対して感じた事を書かせた。

お話カードを使って登場人物の人がらについて話し合うことで、主人公の性格に目を向けて読む楽しさを感じることができた。また、図書館に関連図書と一緒に『お話カード』掲示し、全校に発信することができた。

5年【特色をとらえながら読み、物語をめぐって話し合おう】わらぐつの中の神様

言語活動『ブックレビューを使って作品の魅力を話し合おう』

高学年ともなると、選書にずいぶんと偏りのある子が多いという実態が浮き彫りになった。文学作品を「構成・人物像・表現」の観点から作品の魅力として評価できるようにし、本文のどこからそう感じたのかを根拠をもってブックレビューに表すようにした。また、おすすめ度を星で表し、交流する際の総合評価とした。なぜ自分はこの作品が好きか嫌いかの観点をもって評価する視点を児童に育むことができた。

また、図書館前に冬休み中に借りた本のレビューカードを掲示した。全校のみんなから「このレビューが参考になった人」として、いいね！シールを貼ってもらい評価してもらうことができた。

III 考察・提言

どの実践も単元の最後に図書館前で発信する活動を行った。国語の学習では、自分の読書生活を見直し、楽しみ方を学ぶことができた。学習を生かす場として、また、全校に広げる場として図書館を大いに活用できる可能性がある。

昨年度の保護者アンケートからは、家庭で読書に取り組む児童が増えたという結果も出ている。国語の授業を通して、読書生活を改善することがより重要であることを指し示す結果となった。

提言2 朝読書や隙間時間を有効に生かす読書指導の工夫

～読書に熱中する教室をめざして～

函館市立日吉が丘小学校

教諭 下田 浩子

I 主題設定の理由

日吉が丘小学校は、始業前の朝読書や、読み語りなどの機会も、定着している。お話が好きで、読み聞かせをそれぞれに楽しんでいる。ところが最近、読書の時間を十分に与えることが難しくなってきた。朝の始業前の時間を使った朝読書や隙間時間の利用の仕方など、こちらから積極的に働きかけたり工夫したりする必要があると感じている。多くの子どもたちが読書に熱中するクラスを目指し、できるだけ取り組みをまとめてみた。

II 研究の概要

1 読書の意欲を喚起するために

(1) 読書ファイルの利用

読書ファイルには、ブックトークで使ったリストや、期間のおすすめ本のリスト、国語科で扱った読書にかかわるもの、本選びのポイントなどをファイルしている。

(2) 朝読書の時間の活用

短い時間なので、本を選ぶ時間の短縮のために、「ここから選ぼう」というブックボックスを用意した。

(3) ブックトーク・ストーリーテリング

・授業の隙間時間での読み聞かせ

読み聞かせは、プロジェクターを使うことで、座席移動の時間を省略できる。

・夏休み冬休み前のブックトーク

・帰りの会でのお話（ストーリーテリング）

下校時刻までに時間が空いたときは、一般的によく知られたお話をする。

2 国語科の中での読書

(1) 「すみれとあり」に関連しての読書

「〇〇のひみつ」をこよなく愛する少年のお勧めで、本で知ったことをお知らせする活動「ちしきのいずみ」に発展させた。

(2) テーマを決めて読書

「きつねのおきゃくさま」で、おおかみの出てくる本を読書し、交流することで、「おおかみ」のキャラを感じることができた。

(3) 「お話びじゅつかん」（授業公開）

「ないた赤おに」の学習後、「おに」「ともだち」など共通のテーマで読書をし、紹介し合う活動を、「絵に描いて展示する」「感想を付箋に書いて貼る」「『いいね』シールを貼る」など、図書館研の先生方のアイデアをいただきながら楽しく取り組める工夫をした。

III 考察・提言

低学年児童の読書は、文字を読む力・言葉の力とも密接な関係にある。本と時間をきちんと与えることで、どの子も「読みたい」という意欲を持つことができると思う。

提言1 他教科、年間を通した学び方指導

～学び方を身に付けるための学校図書館の指導について～

札幌市立鴻城小学校

教諭 七條 亜樹

I 主題設定の理由

それぞれの教科の授業で、つきたい力を子どもに詰め込むだけの授業では、学び方が身に付くとは期待できない。また、一方的に授けられただけの知識は長く記憶には残らない。そこで、子どもが自ら課題を見付け、情報を集めて整理し、調べたことを発表するという体験を通して、「主体的な学び」のよさを感じられる展開を考え主題を設定した。

II 研究の概要

他教科、年間を通した学び方指導として取り組んできた。主体的な学びが育まれるように観点をもたせることに重点を置き活動に入った。

○6年理科「地層」～調べる観点をもたせる～

近くで見られる地層のつくりを調べる学習だが、実物の観察が難しいため調べ学習をすることにした。教科書には、きれいに整った地層が出ているが、あえて曲がっている地層の写真を提示した。「なぜ、曲がっているのか」など疑問をもったところで活動に入った。調べる観点は以下の点である。

- 本をそのまま書き写してはいけない。
- よく読みこんで自分の頭でいろいろ考える。
- いくつかの資料を比較する。
- 最後は、感想など自分の言葉でまとめる。

など指導をしてから取り組んだ。地層のリストを挙げたり、それができる理由などをまとめたりすることができた。

○6年冬休み「自由研究」～テーマの決め方～

テーマが自由なので、テーマの決め方を指導した。大きな枠から小さな枠へと焦点を絞りテーマ

を考えさせた。休み明けに自己評価を行い、次回に活かすよう指導した。

○6年社会「世界の中の日本」～年間のまとめ～

導入で「国当てクイズ」を行った。国語辞典で各国を調べ、その説明だけを聞いて国名を当てる。他国への興味を広げることや、調べ学習の最初は辞書や辞典であることを再確認した。

日本と関わりの深い国、4か国について調べた。本（寄託図書）だけではなく、インターネット、新聞なども利用する。その際、参考図書を必ず入れることを確認した。（自由研究の際にも著作権のことに触れている。）「調べる・まとめる」際には、付箋を使用した。発表の場面では次の観点を意識させた。

- 原稿を作り、リハーサルをする。
- 誰に何を伝えたいのか意識して、ポイントをしばって伝える。
- 原稿ばかり見て話さない。

III 考察・提言

すべての教科で毎時間、課題意識をもたせるところから学習活動を展開できるとは限らない。経験や既存の知識等の「ずれ」や「隔たり」を感じさせる単元や調べ学習するに堪える資料があるなど条件が揃う場合に、意図的に設定していくとよい。子ども達が、「未知」に対して、「もっと知りたい」「説明したい」「できるようになりたい」など追求する姿を目指し、「未知」を知にしたときの満足感を繰り返すことで、学び方の定着や学習意欲の向上が期待できると考える。

提言2 子供の読書意欲を高める指導のあり方

～「学び方を学ぶ」ことで読書意欲を引き出す調べ学習～

名寄市立名寄西小学校

教諭 松木 梢

I 主題設定の理由

中学年の国語科における読書活動では、目的に応じて選書し、読む力が必要である。その学びの中では、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、引用したり要約したりする力をつけることが重要なねらいとなる。子供たちに確実にねらいを達成させる授業を行うには、子供たちが主体的に図書や資料を活用できる内容を考えることが欠かせない。そのためには、①学習課題が意欲を喚起できるものであること、②学び方が明確であること、③学び方の時間を十分保障し読書体験を豊かにすることが重要である。そこで、国語科の学習と総合の学習と組み合わせ、時間を保障しながら、子供の課題設定や学び方の工夫を行い意欲的な調べ学習を授業で検証することとした。

II 研究の概要

子供の読書意欲を高める調べ学習

①単元構成の工夫

国語科では、引用や要約といった調べ学習の基礎を教材から子供たちに学ばせた。それを基に総合的な学習の時間では、興味関心を大切にしながら、自己課題の設定と解決の見通しを具体化しながら、調べ学習に必要な技能の習得を図れる単元構成とした。教育課程を考慮しながら調べ活動を行う時間の確保が十分されるよう工夫した。

②単元を貫く言語活動

国語科と総合的な学習の時間の自己テーマを共通化することで、1人1人の意欲化を図った。ゴールとなる具体物を例示することで何のために学習

するのかを明確にし、学習計画表に表した。

③よさを認め合い、学び合う交流活動の設定

人との交流を通して学び合いが深まるような時間を設定した。友達との関わりや学校司書との関わりの中で、課題解決の方法に見通しがもて、活動に対する達成感が得られることを狙った。

①～③の工夫の成果として、調べ学習の必要な技能を一人一人が身に付けることで、学習に苦手意識のある子供も、意欲的に調べていくことができた。調べる時間を十分確保し、その中で子供同士や学校司書と相談し合える機会を設定したことで、より適した資料やわかりやすいメモの取り方を自発的に教え合うようになり、学びが深まっていった。

III 考察・提言

本研究で重要な要素としては、時間の確保と子供の意欲喚起、十分な図書資料の準備が挙げられる。図書資料の準備に関しては、近隣校や市立図書館だけでなく、博物館等の公共施設との連携を図って行った。各施設への資料請求についても、学校図書館班内での協力体制や学校司書との連携が不可欠だった。資料収集では図書をスムーズに請求できるシステムの存在と利用方法を知ることが質の高い授業につながる。

また、調べ学習の力を今後も高めていくためには、図書を利用した学習機会を様々な教科で継続して設定していくことが望まれる。子供が自分の課題に適した資料を選択し、効果的に要約・引用して活用する経験をさらに積ませていきたい。

提言1 豊かな学びを作る資料活用学習

～学び方の指導をふまえた資料の活用について～

札幌市立平岸高台小学校

教諭 安部 史絵

I 主題設定の理由

札幌市では、地域開放図書館を兼ねる小学校図書館が多く、蔵書数は比較的豊かである。また、市立図書館から本を借りることができる「ブックさぁくる」、寄託校から本を借りることができる「寄託図書」という図書利用システムも整備されている。そのため、児童が学習に必要な本を比較的容易に手元に置くことができる。

そこで、並行読書が求められる国語科の学習において、質・量ともに充実した図書を身近に置くことで、朝の読書の時間のような短い時間でも、児童が進んで読書に臨める環境を整備し、それらの資料を活用する手立てについて考察した。

II 研究の概要

仮説

国語科の学習における並行読書の活動において、児童が主体的に資料を活用できる環境を整備し、教師が資料の活用を促す働きかけや学び方の指導を行うことで、児童の資料の活用が円滑になり、学習目標に達する効果が期待できると考えた。

実践の方法

「すがたをかえる大豆」の学習のゴールとして「食べ物のひみつを教えるパンフレットを書く」という目標を設定し、児童の調べ学習への意欲を喚起した。そして、学校図書館から「米・麦・そば・牛乳」に関する図書を皆で探し、長机に置いて、いつでも手に取れる環境を整備した。

また、これらの図書を、食べ物の種類によって色分けした付箋を貼りながら、3分間ずつの回し読みを行った。これにより、付箋を貼りたい気持ちと相まって、自然と朝の読書の時間に調べ学習の本を手取るようになった。また、目次や索

引だけでなく、本文を隅々まで読んだり、関連ページを調べたりするなど、調べる意欲の高まりや、調べ方の技能を高める姿が見られた。

結果

こうして、本に貼られたたくさんの付箋は、食べ物の種類によって色分けされているため、調べたい事の日印としての機能も併せもち、同じ食べ物について調べ学習をする児童が、情報を共有したり、教え合ったりする上で非常に有効であった。

また、同じテーマについて調べる児童が、収集した情報について、資料を見せ合いながら交流していく中で、情報の必要性や、言葉の分かりやすさといった観点で、情報の取捨選択を行おうとする姿が見られたことは、大きな成果と言える。

III 考察・提言

身近に読みたい本がある環境づくりを進めることは、図書館利用の目的の一つである読書の楽しさを知るという意義に合致する。さらに、その環境を生かした学習の場を設定することで、読書活動の幅を広げ、図書資料の内容を学習活動に生かす力を高めることができる。そのためには、本がすぐに手に取れる環境を整備し、児童が主体的に本を手に取りたくくなるような教師の働きかけや指導をする必要がある。

低学年のうちから、教師自ら資料を活用する姿を意図的に見せることをはじめ、資料検索の方法を系統的に指導していくことで、国語科に限らず様々な場面で、情報を収集し、必要な情報について取捨選択し、発信していくという学び方が身に付き、豊かな資料活用の姿が育まれると考える。

提言1 豊かな心や人間性を育む読書指導

～豊かな読書に繋げるための効果的な授業づくり～

札幌市立平岡緑中学校

教諭 石岡 潤也

I 主題設定の理由

札幌市は、重点を置く教育活動の一つとして「生涯にわたる学びの基盤【読書】」を掲げており、朝読書が全市的に取り組まれている。しかし生徒の実態としては、朝読書以外に本を読まない生徒や、自分好みの選書に留まっている生徒が多い。

読書には、様々な良さや価値があるが、「生涯にわたる学び」という観点から見たとき、多方面に興味をもって選書することで、生徒の読書の幅を広げ、様々な視点や発想を得られると考えた。そして、選書の幅広さが、読書を通して「生涯にわたる学び」を豊かにし、「豊かな心や人間性を育む」基盤を作るという仮説のもと研究を推進した。

ここで注意したいのは、むやみに多くの本を読ませても、生徒が読書嫌いになる危険性があるということである。そこで、教科書の教材をもとに、読書指導を取り入れて「読書の幅を広げる」指導を継続的に行いたいと考えた。

II 研究の概要

生徒の読書の幅を広げる授業を行うために、アンケートによる実態調査を行った。主な着眼点としては、「読書習慣」「読書量」「選書の基準・アイデア」「ジャンル選択」についてである。実態調査をもとに、それぞれの生徒に対する課題を見つけ、授業づくりを行う。

また、札幌市では平成24年度から光村図書が採択されている。その後改訂され、現行の教科書では、系統的に読書指導を行うことが可能なように編集されている。今回はこの利点を生かし、教科書をベースにした実践を工夫した。以下に実践例を挙げる。

- ①「私が選んだこの一冊」(1年生)
 - ・友達に本を紹介する活動を通して、本の魅力を多面的にとらえることができた。
- ②「読書案内」(2年生)
 - ・読書案内を製作する活動を通して、自分の選んだ本について、理解を深めることができた。また、他者の紹介した本を知ることで興味を広げ

ることができた。

- ③「読書案内 (POPづくり)」(2年生)
 - ・地域の書店を利用する人にむけてPOPを作成する活動を通して、年齢・ニーズ等が様々な読者層にあわせて本を選び、必要な情報をまとめることができた。
- ④「科学はあなたの中にある」(2年生)
 - ・本文をもとに科学的な本を紹介し、それを読む活動を通して、普段触れることの少ないジャンルの本を読むことができた。
- ⑤「書評 (ブックレビュー) を書こう」
 - ・書評を書く活動を通して、読んだ本に対して批評する力を育てることができた。
- ⑥「エルサルバドルの少女 ヘスース」(3年生)
 - ・ノンフィクションの作品を読み、作品の中の人物の生き方に触れることで、自分と社会との関わり方、自分の生き方を考えるための本について興味関心を高めることができた。
- ⑦「未来の私にお薦めの本」(3年生)
 - ・これまでの読書経験を振り返り、読書計画を立てる活動を通して、自分に必要な読書について考えることができた。

III 考察・提言

授業を行う上で大切なことは、目の前の生徒の実態を知り、それに応じた目標を設定することである。本実践では、読書指導においても、生徒の実態を知った上で、その課題に応じた授業ができた。実践後、これまで手にしたことのない分野の本にふれたり、自らに必要な読書について考えたりできた生徒がいたことがわかった。授業直後に生徒の選択する本の幅が一気に広がるなど、目にみえる結果がすぐに出るものではないが、生徒の豊かな読書のための「種まき」として、授業の中に自然な形で様々な本との出会いの機会をつくっていくことが大切であろう。

また、実態把握をすることによって、同じ教材でも、各校の実態にあわせた活動ができることもわかった。今後も、生徒の豊かな心や人間性を育む授業づくりを進めていきたい。

提言2 豊かな心や人間性を育む読書指導

～豊かな読書に繋げるための効果的な授業づくり～

北斗市立上磯中学校

教諭 兼子 泰久

I 主題設定の理由

本校の読書活動は、毎日、朝読書が取り込まれ、生徒の読書の習慣は定着しつつある。

しかしながら、生徒の実態は、やらされている読書が多く、自発的に読書を進めている生徒でも読書傾向の偏りが見られるものが多い。生徒の「人間形成の基盤」となる読書を実現していくために、生徒が思う選書方法とは違う仕方を覚えたり、読むジャンルを広げたりするなどの、読書の幅を広げることが必要だと考えた。そのために、生徒と読書材となる図書との出会わせ方、授業の中で読書指導がどうあるべきかを考え、今回の主題を設定した。

II 研究の概要

北斗市では教育出版が採択され、この教科書では系統的な読書指導が行えるようになってきている。教科書をベースにして、様々な生徒や学校で実践できる工夫として以下に実践例を挙げる。

① 「読書への招待1 『ベンチ』」(1年生)

I 一冊の本から、あなたの世界を広げよう。

II 身近な本で帯やポップを作ってみよう。

III 「おすすめ」の本を紹介しよう。

・『ベンチ』学習後、『あのころはフリードリヒがいた』のポップを作り、出来上がったポップを使い図書の紹介を行う。授業後に展示。

…読み取った情報から、コピーや図で表現することに時間がかかる。そのため、ポップ作りでは選書の過程を省略し、読み取った情報を活用することに重きを置いた。

② 「読書への招待2 <近代文学へのいざない> 『蜘蛛の糸』」(1年生)

・『蜘蛛の糸』学習後、その他の近代文学の作品を選び読む。また、読書を通し、作品についての情報を集め、「はがき新聞」にまとめる。

…近代文学の図書を揃えるのが難しく、市立図書館の司書の助言を受け、図書資料を準備した。選書の際に、生徒のレベルを考慮し助言した。

③ 「読書への招待1 『無言館の青春』」(3年生)

I 自分の読書生活を振り返ろう。

II おすすめの本を紹介しよう。

III ビブリオバトルに挑戦しよう。

・学校図書館にある本を中心に、興味を抱いた本を紹介するゲームを行う。

…(本原稿執筆後の取り組み)

④ 北斗市教育研究所主催「読書感想文コンクール」(1・2年生)

・各学級1点の出品。原稿用紙5枚以内の感想文を書くための指導。

…北斗市教育研究所の事業であるため、国語科の授業で取り組んでいる。読書指導+作文指導の中でポイントとなるのが選書の指導である。自由に図書を選ぶと原稿用紙5枚以内の分量が書けないため、学校図書館の図書を選んで書くことにした。

選書が自由でないため不満を持つ生徒がいたが、用意された図書全てがこれまでの課題図書・指定図書であるため、読みやすく書きやすいため、納得し取り組んだ。また、指導上、生徒の図書を把握しやすいため、細かく指導できた。

III 考察・提言

読書指導を行う上で、生徒に自由に本を選ばせ読書させることは大切なことである。しかし、このことは、読む本の幅を広げることや、目的を持って読書を行い知識や教養を身につけることには必ずしもつながらない。それは、自由な選書は、読書に親しむことが主眼であるからである。

故に、生徒への読書材の与え方・選書のさせ方、言語活動の設定(読書した際の情報の活用の仕方)の効果的な方法を引き続き考えていかななくてはならない。つまり、決められた形や方法で読書することが、学習指導としての読書指導での主眼だからである。今回、「ポップづくり」「はがき新聞づくり」「ビブリオバトル」「感想文」等の言語活動を紹介したが、目的を持った読書活動である。

最後に、今年度の全国学力状況調査に、選書の際の教師と生徒のやりとりが出題されている。このことから、学習指導の中に読書指導を盛り込み、授業の中で言語活動として、生徒に経験を積みせていく必要がある。

提言7 学び方の指導の定着と発展

～連続性のある学びへ～

札幌市立平岸中学校

教諭 小笠原 太郎

I 主題設定の理由

中学校では教科担任制を取り入れて、各教科の学びの深化を図っている。だが、教科ごとに指導者が異なるため、学び方の指導においては計画的かつ体系的なものにするための教科間での連携が必要となる。国語科の教科書では、情報・メディアを活用する学び方の指導に関わる単元が、各学年に設定されており、他教科と比べ、学び方の指導を行う機会が多いと言える。国語科で行った学び方の指導が生徒に定着することで、他教科などに円滑につなげていくことができる。また、そのことにより各教科などの学びの深まりや広がりも期待できる。そのような教科間の連携による「連続性のある学び」の実現の方策を探っていきたいと考え今回の主題を設定した。

II 研究の概要

国語科として、学び方の指導をどのように行い、そして他の単元や教科、総合的な学習にどのように寄与していくのかを、指導者側が明確に捉えることによって、学びに連続性を生み出すことができ、学習者のより充実した成長につながるのではないかと考えられる。

① 2年「多様な方法で情報を集めよう」

宿泊学習に関連させ、登山や炊事をテーマとした情報カード集作りを行った。作成の目的から必要な情報を考え、その上で多様な方法で集め、活用することを学んだ。この学びを活用し、理科のイカの解剖レポート作成を行った。異なる題材と目的の調べ学習を通し、学習者は目的を意識した情報収集と取捨選択の能力を、より向上させられたと思われる。

② 2年「メディアと上手に付き合うために」

教科書教材と同じ話題に関する番組や記事を活用して、メディアごとに違いを整理する。そこから各メディアの利点や欠点、その活用方法を考えさせた。この学び方の指導に関連させ、保健体育科の調べ学習「スポーツの試合結果をまとめる」でも、メディアの特性を意識したレポート作成を実施した。より良いレポートを作るため、自分の選択した題材に対して複数のメディアを使って情報収集することができれば、学習者に学び方の指導の内容が定着していると言える。

③ 3年「新聞の社説を比較して読もう」

時事問題に関する二つの社説を読み比べ、より説得力のあるのはどちらか評価する活動を行った。その活動を通して、説得力をもたせる工夫を観点ごとに整理した。そこでの学びを生かし、「説得力のある文章を書こう」の単元で、社説の工夫を自分の文章に取り入れて批評文を書いた。

III 考察・提言

学び方の指導は、国語科として様々な単元で行っている。だが、学習者にとって重要なのは、それが定着し、その授業とは異なる場面でも発揮できることである。今回の実践では、学び方の指導がどのように発展していくかを他教科に対して明確にしたことで、学習者に定着すべき力とその手立てをよりの確に設定できた。また、定着した学び方を活用する授業についても、内容の向上がこれまで以上に見られたとの声も上がった。学習者が実社会でも情報・メディアを活用する力を生かしていけるよう、指導者は積極的に他へ関連する指導を実践していくべきではないかと考えられる。

提言2 学ぶ力を育てる学校図書館の指導

～学ぶ力を育成する学校図書館の指導について～

帯広市立大空中学校

教諭 嘉藤 麻里

I 主題設定の理由

本校の日課には週4回、毎朝10分間の朝読書時間がある。生徒は毎日熱心に本を読んでいる。

私が担当している第二学年の生徒を対象に、「読書は好きかどうか」というアンケートをとった。結果、「読書が好き」な生徒は76.1%であり、「読書が好きではない」生徒の23.9%を大きく上回っていた。

しかし、図書室を利用する生徒は思いのほか少なく、週に一度も図書室を利用しない生徒が42.8%とほぼ半数であった。また、調べ学習で使うツールとしてはコンピュータがもっとも多く、図書を使用したいがどのように図書を探して良いのかわからない生徒が予想以上にいた。

そのため、探したい図書をすぐにみつけられるようになると、今よりもっと上手に図書館（図書室）を利用できると考え、本の分類について学習した。

II 研究の概要

【仮説】

「図書室の本の分類方法を学ぶことにより、どこにどのような図書があるのかを素早く知ることができ、すばやく作業ができる。」

【実践方法】

- ① 教員がランダムに集めておいた図書を、生徒に三分以内で本棚の元あった場所に戻してもらう。
- ② その後、図書の背に貼ってあるラベルの意味や記号を学ぶ。ラベルには分類毎に大きく0～9の数字で表記されていること、作者名や巻数が表示されていることを説明する。
- ③ 実際に図書室の図書を使って、分類番号0～9までの自分の好きな10冊の本を手に取り、表に「背ラベル」「選んだ本の書名」「著者」「出版社」「出版年」「ページ数」「サイズ」を記入し、どこにどんな種類の図書があるか確認する。
- ④ 最後に、あらかじめ教員が選んでおいた様々な分類番号と書名が示されたメモをもとに、図書を探し出す。

【結果】

実践前では、生徒のほぼ8割の生徒が、時間内に図書を本棚に戻すことができなかった。どこを見て判断していいのか全く手も足も出ない様子だった。

その後、ラベルの意味や、分類毎の番号は大きく0～9の10分野に分かれていることを説明した。

また、どの番号の図書が図書室のどこにあるのかを分かりやすくするため、事前に作成しておいた「図書室マップ」を配布した。

図書マップを頼りに10冊の分類毎の図書を手に取り、ほとんどの生徒がワークシートの表を埋めていくことで、探していた図書がどこにあるのか、迷わず探し出していた。

最後に、メモに書かれた図書を探す際にも、分類番号を頼りに、ほとんどの生徒が、短時間で探している図書を見つけ出すことができた。

III 考察・提言

本の分類の授業を行って、「本のラベルの数字の意味を初めて知った。」「背ラベルに注目して、これからは本を探そうと思った。」「ラベルを見て本を探すと、以前に比べてそれほど時間がかからなかった。」「（本の置き場所がわかったので）これからもっと図書館に来ようと思った。」「本の置き場所が決まっていることを、初めて知った。」「最初は、予想以上に時間がかかったが、分類法を学んだので今後は本を探すのが早くなると思う。」などの生徒の感想があった。

図書は、数字によって分類されているため、その分類方法を学んでおくと、自分が知りたい情報に速く正確にたどり着くことができるようになる。

また、本校の図書室だけでなく、公立図書館や他校の図書室が、どんな配列で本を並べているかわかると、今まで以上に図書館や図書室をずっと利用しやすくなる。

今後、学校の授業はもちろんのこと、学校行事や自分の趣味を広げるための有効なツールの一つとして図書館が期待できる。

提言1 豊かな学びを支える資料活用学習

～理解を深めるための資料の効果的な活用と指導について～

札幌市立西野中学校

教諭 木藤 昌起子

I 主題設定の理由

国語の学習でつまづく原因の一つに語彙力のなさがある。そのため、新しい単元に入るときには貸し出した辞書で語句調べをする時間を設けているが、家に辞書のない生徒もあり、ちょっと前までは「電子辞書をもってきていいですか。」と聞かれることが多かった。今は、「家でやっていいですか。ネットで調べた方が速いです。」と何人かが必ず言う。最近はスマホの方が簡単で速い。

確かにインターネットは必要なことのみ手早く調べるにはよいし、最新のデータを得るには適している。だが、「信頼性」「周辺の情報も目に入るため学びが広がる点」などで、図書資料にはその良さがある。普段なかなか気づいてもらえない図書資料を活用することの利点を実感してもらいたいという思いから、今回の研究主題を設定した。

II 研究の概要

1年生の国語では漢文の入門として「故事成語」の学習をする。言葉の意味がわかることがまず第一だが、意味、由来、用法を調べるだけならインターネットの情報でも用は足りる。しかし、その内容について感動を覚えたりはしないだろう。単なる「故事成語の意味」ぐらいなら信頼性という点でもさほど心配はないだろうが、通り一遍の浅い知識にしかならないと思われる。様々な資料を用いて読み調べることで「おもしろい」とか「なるほど」とか、「心にしみる」などという心を揺さぶられる経験が深い学びにつながり、自分のものとしてその言葉を使うことができるようになるのではないだろうか。今回は、4人の小グループで複数の資料を比較することで、よりよいものを選ぶ力（学び方の指導）もつけていきたいと考えた。資料についてはグループに4冊、あらかじめセットした。自校の資料だけでは足りないの、札幌市の寄託図書やブックさあくるの制度を利用して、グループに配布したもの以外に自由に使えるものを用意した。また、資料を使う際、引用の

仕方や索引を見ることなども併せて指導した（学び方の指導）。

発表の形式は

- ①意味や由来、用例などといった項目を決め、掲示物にまとめる。
- ②ロールプレイ形式かプレゼン形式かをグループで選び、ほかの生徒にわかりやすいよう説明する。

発表する側も聞く側も「楽しくわかりやすく」学ぶことに重点を置いた。図書館での授業であったため、インターネットについては家で使用してよいと指導した。しかし図書資料が十分なものであったのか、インターネットは使わず、何種類かの資料を合わせて調べ学習をすすめていた。

III 考察・提言

今回の授業では、生徒が大変意欲的に取り組み、発表につなげていた。資料についても、あらかじめ渡された以外のものも自然と使って調べており、いくつかの資料を比較しながら学習をすすめていた。それぞれの発表が楽しいものであったこともあり、故事成語の意味や用法についての理解も深めることができた。印象に残るものも多く、語彙を増やすという目的も達成できた。

本校では1年生の総合的な学習の時間に職業調べを行っているが、その際にも寄託図書の資料を活用している。その時に「引用の仕方」や「出典を明らかにする」事については指導されており、今回の授業でも役立っていた。国語以外の教科で図書資料を使っただけの調べ学習をする機会は多くはないが、少しずつひろがってきている。いろいろな教科で取り組むことで学び方を覚えていき、今後の生活の中で活かしていけると思う。また、多くの教科で図書館での調べ学習を行ってもらうためには、やはり新鮮な資料、教科で使える資料をそろえていくことが必要だと強く感じた。使える資料が身近にある状態を作っていくためには、各教科の協力のもとにまずは自校の資料の充実を努めることが大切だと思う。

提言1 豊かな学びを支える資料活用学習

～教科学習と図書館の連携～

札幌聖心女子学院中学校・高等学校

教諭 北 都子 司書 新田 裕子

I 主題設定の理由

授業の中では、歴史の教科書に登場する人物の人生について、多くの時間を割いて述べることはほとんどない。しかし、どの人物にも一生はある。何がその人物のターニングポイントになったのかを、生徒自ら資料を見て学ぶことで、授業の中では触れられない歴史の楽しさを学んでもらうことが目的である。

また、双六（ゲーム）にすることで、調べた本人だけではなく、一緒に遊んだ他の生徒も学習に巻き込むことができる。遊びの要素を入れ「楽しい」と思わせながら、歴史を振り返ることを狙いとした。

本で調べることを不得手とする生徒も多くおり、調べる前に「資料がない」と言う声を聴くこともある。その様な生徒に対し、探せばあるという経験を積んでほしい。

II 提言の概要

実施の方法

- ・3人一組のグループワークとする。
- ・各自5つの項目（マス）となる出来事を探す。
- ・項目をもちより、グループで10個以上のマスをつくるようにさせる。
「一回休み」「2マス進む」「1マス戻る」などの項目についても好きに作成してよい。
- ・画用紙に手書きで作成させる。
- ・完成した物の発表を行わせる。
発表では、誰を調べたのか・どの様な場面を選んだのか・作成で頑張ったところは何かなどを発表させた。

実施の経過（図書館・資料の活用）

グループワークの場合、誰かがやってくれようと考える可能性もある。そうならないためにも最初は個人での調べ学習を行わせた。そのため

にも一人の人物について最低3種類の資料が必要になる。

また複数の資料に触れることで、資料によって視点が違うことや、一つの出来事が複数の資料に登場していれば、その出来事の重要性に気がつく生徒もいる。

伝記以外にも通史を取り扱った本や寺社仏閣などを取り上げる雑誌なども活用することができる。

この授業を行うためには、それだけの資料が取り揃えてある図書館であること、また資料を探すことを疎かにしがちな生徒に効果的な調査方法を伝授していただける司書の存在は欠かせない。

学校図書館で課題学習を実施する際、司書の役割は、テーマに沿った複数の資料を収集・提供し支援することである。そのためには、担当教員との連携が最も重要である。授業のねらい、図書資料の有無、課題学習の着地点などを確認し合うことで、関連の資料提供、必要に応じたブックリスト配布、ガイダンスの実施など、生徒たちへの有効な利用指導へとつながるのである。

III 考察

教員側

中学生にとっては、「遊び」要素があることは大変効果的だと考える。

また、IC機器の利用が推奨される近年ではあるが、手書きで作品を仕上げることの楽しさを知り、個性を出すこともできる。

図書館資料を活用して「調べている」と実感する充足感が得られていると感じている。

司書側

インターネットではなく、あえて図書資料を使うことで、情報の性質によって調べる媒体を使い分ける能力を身につけてほしいと考えている。

提言1 未来を拓く力を育む学び方の指導

課題探求型学習における資料活用の仕方～グローバルコースの教育実践から～

北海道札幌清田高等学校

教諭 三上 全

1. テーマについて

本校グローバルコースでは、3年次に約1500語の英文で、卒業論文を書くことになっている。生徒各自が興味関心を持った社会問題について新聞や図書、インターネット、論文など様々な媒体から情報を収集し、それはどういった問題で（現状）、どのようにして起きたのか（原因）を分析し、それらについて今後どうすべきかという結論を導き出す。この論文作成を最終目標に、コースの特徴的な授業である英語プレゼンテーションや国際理解の授業において、引用を明示することを意識させている。その教育内容を1年次から順を追って紹介し、卒業論文までの段階的指導を報告する。

上げていきたい。

また、このような課題探求学習をグローバルコースだけではなく普通コースにも広げていくことが大切である。ただしグローバルコースと全く同じようにしては課題の難易度や教員の指導の手間を考えたときに無理がある。普通コースとの共有の方法を考えていかなければならない。

2. 提言の概要

- (1) 卒業論文の概要
- (2) 国際理解授業、英語プレゼンテーション授業での資料活用指導、参考文献表記指導について
- (3) 資料活用に関わる授業中の具体的な指導事例について
- (4) 今後の方向性について

3. 今後の方向性

国際理解とプレゼンテーションの授業での資料活用例を報告してみたが、このように全体像を並べてグローバルコースにかかわる教員で見直したことは今までなかった。両教科、ならびにそのほかの教科からも資料を活用した課題探求学習の在り方を提案しあい、コース全体でその目標を作り

提言2 学びをアシストする学校図書館

～アクティブ・ラーニングを支える学校図書館のあり方を考える～

北海道立札幌西陵高等学校
(前任校 北海道室蘭栄高等学校)
教諭 加藤 孝志

I テーマについて

教科の学習における学習・情報センターとしての学校図書館の活用によって、「課題の設定と解決」「必要な情報の収集と活用」「探求活動の充実」がはかられ、さまざまな実践が報告されていますが、全面展開というにはまだ「道半ば」のようにも思われます。

その一方で、社会の急激な変化、学校を取り巻く環境の変化により、学びの様相も大きな変化を余儀無くされています。学校図書館も「変わる」ことになるでしょう。

まだ学校図書館は変わりきれてない。にもかかわらず別な変化に対応しなければならない？

ここにいわゆる「アクティブ・ラーニング」と学校図書館の関わりを考える際の戸惑いがあるように思っています。

II 提言の概要

(1) 学校図書館を活用する授業の実践

- ・図書館は「本のある部屋」ではありません
- ・教科・授業で使わない図書館は「学校図書館」と呼べない
- ・図書館を「どう使うか」。さいしょの一步

(2) アクティブ・ラーニングを考える視点

- ・コンテンツ・ベースとコンピテンシー・ベース
- ・「一斉アクティブ・ラーニング」の罨

(3) 図書館機能の新展開

- ・「知の倉庫（ストック）」から
- ・「ラーニングcommons」って何？

- ・コミュニケーションスペースとしての図書館

(4) 生徒が主体的に活動する図書館の運営

- ・魅力ある図書館運営
- ・生徒が主体的に運営に関わる
- ・発信力・提供力そして想像（創造）力

III 今後の方向性

ここに集っている皆さんは、たぶん学校図書館の目的・目標をお分かりでしょう。それを一般の先生方にどうやって伝え、何を語るのかを考えることだと思います。プールが工事で使えなければ体育の先生方が授業できなくて困るように、学校図書館が機能しなければ学校教育ができない。それが「学校教育の中核」という位置付けの意味です。

方法も大事ですが、「理念」「哲学」を考えたいと思っています。「開館してくれないと困る」図書館ってどんな図書館でしょうか。

提言1 豊かな心を育む読書指導

～本を身近に感じられる環境づくり～

札幌市立平岡小学校

教諭 浅野 絵美

I 主題設定の理由

支援学級は、子どもたち一人ひとりの実態が異なり、課題も様々な子ども達が在籍している。

本学級16人の子どもたちも同様に、学習や生活の習熟度や経験の差がとても大きい。

しかし、絵本や読書に幼い頃から親しんできた子が多く、本に触れる時間や場所をととても大切にしている。また、絵や物語に浸ることによって精神面や情緒面での安定を図っていることも本学級の子どもたちの特徴である。

発達段階によっては、絵本の挿絵を見て楽しむ子、簡単な言葉の繰り返しを楽しむ子、物語の楽しさを味わう子、調べ学習に様々な文献を用いる子など、本や読書に向かう取り組みの内容は様々であるが、どんな子にも同じように、好きな本をいつでも手に取れる環境を作ってあげることが大切だと考えている。

II 研究の概要

(1) 本に対する意識と姿勢作り

- ①毎日の朝読書に全校で取り組む
 - ・交流学級で一緒に読書に参加する
 - ・読みたい本を持っていく
- ②調べ学習でも積極的に図書館を利用
 - ・図鑑・調理関係の本
- ③余暇活動につなげた取り組みを
 - ・「隙間の時間に、好きな本を」
 - ・強制しない読書

(2) 読書に親しむための環境づくり

- ①読みたくなる本、手に取れる本をそろえる
 - ・実態と興味関心に応じた選書
 - ・それぞれの学級文庫に置く本を工夫

- ・定期的に教師の貸出カードで学級文庫を充実させる

- ・読みたい本をシリーズで購入

②本をゆっくり読むためのスペースを作る

- ・各教室に読書スペース

③週に1回の読書の時間

- ・学校図書館で教師も子どもも全員で読書を楽しむ

(3) 学級図書・学校図書の利用の仕方

①本を読むときの基本的なマナー

- ・1冊ずつ 読んだら戻す 大切に読む 仲良く読む

②学校図書館利用の約束

- ・全校の約束と同様に
- ・貸出の際には保護者の協力も得ながら行う

III 考察・提言

子どもたちが「どんな本なら読めるか」「どんな本なら手に取るか」を教師が把握し、興味関心に即した学級文庫を少しずつだが整えることができてきたように思う。

子どもたちの意識も変わってきており、学習中に子どもたち自身から「本棚を作ろう」という意見が出たり、読書中の子がいたら「静かにしよう」という声が聞こえたり、しおりを活用する子が増えたりと、自分たちで読書をより良くしようという気持ちが高まってきた。

今後も、さらに子どもたちの手の届くところに本が当たり前にある学級を継続できるよう、取り組んでいきたいと考えている。

提言2 特別支援学級在籍児童・生徒の読書環境

～「図書館のバリアフリー研究部」5年間の活動の軌跡～

旭川市立愛宕小学校

教諭 乙部 啓二

I 主題設定の理由

平成24年度に旭川市教育研究会（旭教研）特別支援教育部の中に期間限定の専門部「図書館のバリアフリー研究部」を設置し、「特別に作られた本ではなく、既にある本の中で、支援を必要とする児童・生徒に合う、楽しめる本はどの様なものか」ということに研究してきた。そして、支援を必要とする子どもたちの読書環境について、市内の小中学生1200人を対象にアンケートを行った。

- ・児童・生徒の読書環境調査
- ・図書リストの作成
- ・読書活動を取り入れた授業実践
- ・ICTの活用

「児童・生徒の読書環境調査」は平成24年度と平成27年度の2度行った。「図書リスト」については、支援を必要とする子どもが楽しめる本を自立活動の区分・項目と関連づけてジャンルごとに選書することができた。「読書活動を取り入れた授業実践」についても、自立活動の区分・項目と関連づけた実践を行うことができた。

II 研究の概要

上記の主題設定の理由に基づき、次の4点の仮説を立てた。

- ①本に親しめる環境が整うと、どんな子どもも本を読むだろう。
- ②本を読むようになると、空いた時間に自ら本を手にする機会が増え、本が好きになるだろう。
- ③読書活動を通し、語彙が増え、説明する力がつくだろう。
- ④身近な大人と一緒に本を読むことで、要約して伝える力がつくだろう。

これらの仮説をもとに、以下の実践を行った。

III 考察・提言

上記の活動の中で、今回の発表の中心となるのは「児童・生徒の読書環境調査」の結果である。

平成27年度に行った2度目の調査では、読書以外の好きなことについても調査した。その結果、子どもの読書環境や情報環境が変化していることが浮き彫りになった。

すなわち、子どもたちの本離れが進み、その原因にゲーム等が挙げられることが分かった。

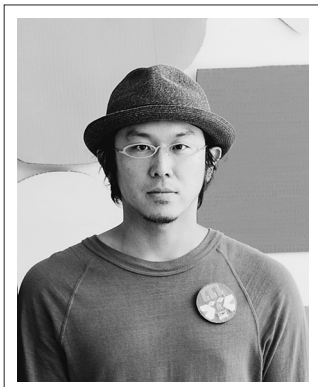
今後、ソフト・ハード両面から読書環境を工夫し、読書が楽しい物であることを再認識させていくことが大切だと考える。

セッション1 tupera tuperaの手作りおもちゃ

テーマ ～ワークショップ・手作りおもちゃで演奏会をしよう～

本大会記念講演講師

tupera tupera 亀山 達矢さん



中川敦子さんとのユニット「tupera tupera」として2002年より活動。絵本やイラストレーションをはじめ、工作、ワークショップ、舞台美術、アニメーション、雑貨など、様々な分野で幅広く活動している。NHK Eテレの工作番組「ノーゾーのひらめき工房」のアートディレクションも担当。著書は、『うんこしりと』『しろくまのパンツ』『やさいさん』『パンダ銭湯』など多数。

「第18回日本絵本賞読者賞」「第2回・第3回街の本屋が選んだ絵本大賞グランプリ」「第5回ようちえん絵本大賞」「マルセイユ子どもの本大賞2014グランプリ」等、数々の受賞歴がある。

京都造形芸術大学こども芸術学客員教授。

I テーマについて

tupera tuperaの本「わくわくワークショップ」には、廃材などを使っておもちゃを手作りするいろいろな例を紹介しています。作るって楽しい。みんなで作るともっと楽しい。おとなも子どもと一緒におもちゃを作って遊びましょう。おとなも楽しんで、楽しさを共有する時間を作りましょう。

II 発表の概要

ペットボトルを使ってゴリゴリと音の鳴るおもちゃ「ゴリゴリゴリラ」を作ります。材料や道具は全て身の回りのもの。個性的なゴリラにしましょう。誰のゴリラがいい音を鳴らすかな。ポイントはペットボトルの凹凸をうまく使うことです。できあがったら、みんなで鳴らして演奏会。何が起ころかお楽しみに。おもちゃを使って楽しみましょう。個性豊かなゴリラたちが集まって文字通り楽しいセッションになること間違いなしです。家庭や幼稚園や学校に戻りましたら、子どもたちとぜひ手作りしてみてください。

セッション2 本は身を助く

テーマ ニュースの現場と子育て。救ってくれたのは数多の本だった。
天高くして我肥ゆる秋、本を携え、さあ今日も行く。

フリーアナウンサー 沢 英里子



97年に北海道文化放送に入社。報道制作局報道部道警担当記者として道内の事件事故を取材レポート。入社3年目でスーパーニュースのキャスターに就く。2001年9月休暇でニューヨークを旅行中に同時多発テロに遭遇しFNN取材班として緊急リポートを続ける。出産を機に退社するも少子化問題や青少年の性被害の取材をライフワークに。読み聞かせ活動を続ける。現在は再び北海道文化放送でニュース制作に携わる。中学1年生と小学3年生の母親でもある。

I テーマについて

マスコミ志望の女子大生だった私は難関のテレビ局に入社し報道配属にされた。担当は北海道警察本部、いわゆるサツ記者。自分の席は華やかなテレビ局には無く、道警本部2階の記者クラブに設置される。慣れない仕事に無我夢中にさせてくれたのは、手探りで読み漁った警察小説の活字の世界であった。ジャーナリスト大谷昭宏の世界、監察医や法曹界の覆面作家である朔立木の作品である。今も横山秀夫の『64』『クライマーズハイ』を開けば、そこには道警の警察官が怒号をあげ、記者である自分が苦悩しながら絞り出しているのが見えるような錯覚に陥る。

そして数年後、わたしは母親になり、親子で『ルドルフといっぱいあってな』に夢中になったこともある。地図を広げ、登場する川と神社を探し、駅の方角と商店街を探し、足を運んだ。そして去年。読書好きの娘が「これ読んで」と差し出してきたのは重松清の『せっちゃん』。娘は主人公に自分を重ねあわせ、誰にも言えず悩んでいた学校生活でのトラブルのSOSを、一冊に託して母親に差し出したのだ。

ニュースの現場と子育て。私を救ってくれたのは数多くの本だった。

II 発表の概要

報道記者として一人前を名乗るまでの苦悩、キャスター時代の本とのかかわり。自分の血肉を作った本の数々。二十歳を過ぎて本の魅力を知り、虜になった遅咲きの読書家は、今もニュース制作の現場に立ち、本に救われて今を生きる。これまで数々のスポーツ選手やタレント、経済界政治を牽引する人々にインタビューをして、魅力的な人は必ず読書家であることを確信。

旭川出身のアイドルである乃木坂46の橋本奈々未が北海道を舞台した本と一緒に北海道を旅して成長していく映像物語「恋する文学」ではアシスタントプロデューサーを務めた。『羊と鋼の森』『花埋み』『蛇行する月』。ロケを終えて芸能界を引退することを発表した橋本奈々未。ウェブ上では神番組として席卷した番組の裏話も披露。

読書家としてはわが子も然り。読み聞かせで夢中になった児童書『ルドルフといっぱいあってな』。思春期真っ最中のわが子とは、今、読書感想を交わすことが絆のひとつ。

本を巡るエピソードの数々と未来に残したい読書の思いをお話します。

セッション3 学校司書の活動アラカルト

テーマ ～*****～

北海道立図書館

企画主幹 中田 こずえ

経歴

登別市生まれ。図書館情報大学卒業後、北海道立図書館に司書として勤務。

平成27年度からは企画支援課企画主幹（子ども読書）として、主に子ども読書関係の業務にあたっています。市町村の図書館職員らに伴って各地の学校を訪問し、学校図書館について情報提供や助言等を行うのも業務のひとつです。

地域の歴史や風習などに興味があり、道内各地を巡ることが多い現在の部署は難しくもあり楽しくもあります。

I テーマについて

学校司書配置の法制化により、道内でも着実に学校司書の配置がすすんでいます。学校司書を配置した市町村の図書館や学校からはともに、「活動がしやすくなった」、「連携がスムーズにできるようになった」といった声が聞こえてきます。

子どもたちが集まる学校図書館、そして子どもたちや先生方の「知りたい」に応える学校図書館になるには？ 道内各地の事例をピックアップしてご紹介します。

II 発表の概要

(1) はじめに

- ・「司書教諭がいればいいんでしょ？」ではない！

(2) 学校司書の配置状況

- ・全国との比較
- ・一律ではない勤務形態

(3) 事例紹介

- ・子どもたちが集まる学校図書館 ～資料整備から環境整備へ～
- ・授業で使える学校図書館 ～テーマに合わせた資料の準備等～
- ・連携でかなえる ～教諭、まちの図書館、ボランティアと～

(4) おわりに

- ・学校司書が未配置の市町村は？ ～○○○○○○が頼りになる！～

セッション4 昔話と日本人

テーマ ～日本人とは何か～

絵本・児童文学研究センター

理事長 工藤 左千夫



経歴

絵本・児童文学研究センター理事長。

1951年生まれ・小樽市在住生。

生涯教育と児童文学の接点を模索するために絵本・児童文学研修センターを平成元年に開設。平成14年に非営利活動法人となる。2年半にわたる基礎講座（全54回）を開講するとともに多様な公益事業に取り組んでいる。『新版ファンタジー文学の世界へ』『すてきな絵本にであえたら』等著書多数。

I テーマについて

昔話の構造には、世界共通の課題があります。しかし、共通とはいっても、微妙な差異が存在することも確かです。その微妙な差異を知ることは「日本人とは何か」という課題に行き着くとともに、現在の「われわれ」の盲点を知る手が辛いともなるのです。実は、この心の盲点を知ることこそ、すべてに通じる課題でもあります。「日本人とは何か」という課題について、日頃より絵本・児童文学研究センターで講座を開かれている、工藤先生の軽妙な語り口によるご講演を通して、ご参会いただいた皆さんと考えを深めていきたいと思えます。

II 発表の概要

全54回、2年半にわたる大人のための児童文化講座で、グリム童話や伝記・歴史文学からファンタジーまで、児童文学について幅広く講義を持たれている工藤先生ならではの話を伺うことができます。セッションが後に皆さんの選書に役立つだけでなく、一層深く日本人について考えるきっかけとなるでしょう。発達心理学や哲学の要素を加味した内容というとすごく難しいと思われがちですが、工藤先生の楽しいお話は、そんなことを少しも感じさせないでしょう。ご参加いただいたみなさんに、きっと満足していただけると考えています。

セッション5 学校図書館で新聞をどう使う

テーマ ～全校に働きかける新聞活用～

全国S L A学校図書館スーパーバイザー
日本N I E学会理事 三上 久代

経歴

元中学校教諭（国語）、司書教諭

集英社主催第15回読書指導体験記コンクール 優秀賞

北海道教育公務員弘済会研究論文個人の部 特選

下中記念財団創立50周年記念表彰事業論文 佳作

著書：『学校図書館における新聞活用』（全国学校図書館協議会）

『学習指導と学校図書館』（同上）＜共著＞

『これならできる！楽しい読書活動』（学事出版）＜共著＞

『中・高生のための学校図書館利用テキスト』（メディアサポート）＜共著＞

I テーマについて

「学校図書館に新聞を置きたいのなら、N I Eという方法もある。」学校図書館研修講座での指摘だった。N I E実践校になり学校図書館に新聞が届いた。だが、生徒は新聞を手にとらなかった。本離れだけでなく、新聞離れも起こっていたのだ。

学校図書館メディアである新聞。その活用を全校に働きかけた実践を伝えたい。

II 発表の概要

1. はじめに

- (1) 学習指導要領にみる新聞
- (2) 教科書にみる新聞
- (3) 学校図書館と新聞

2. 新聞の活用

- (1) 本と新聞の比較
- (2) 「はがき新聞」
 - ①職場訪問はがき新聞
 - ②読書はがき新聞
- (3) 図書館活動での新聞

3. 今後に向けて

- (1) 司書教諭と学校司書の連携
- (2) 学校図書館に関連する新聞記事の情報収集

セッション6 選書で変わる学校図書館教育

テーマ ～選書の経験値を高めると司書教諭の役割が見えてくる～

「絵本屋 南風」店主
出町 南

経歴

小学校教員歴 36年。

図書館担当・司書教諭として、主に札幌市開放図書館校に勤務。

20代の頃より退職まで北海道学校図書館協会選定部に所属し、毎月の新刊本選定、北海道指定図書、北海道青少年のための200冊選定等に関わってきた。

併せて、長年札幌市学校図書館地域開放協議会で図書館担当者・司書教諭の研修講座コーディネート及び講師を経験してきている。

退職後 「絵本屋 南風」を開業 カフェも併設。

S T Vラジオ「オハヨー！ほっかいどう」で絵本の紹介コーナーを担当（2016年）。その他ラジオ、T V出演あり。

I テーマについて

児童・生徒の図書利用はもとより、学校職員の図書館教育への理解を深め、学校の「知」を支える図書館にしていくために司書教諭は配置されています。

図書館に良質な蔵書を配架することで、子どもたちの「知」への探求心はより広まり深化していきます。行き先のわからない情報の海を航海する子どもたちを支える学校図書館の指針は蔵書にあり。司書教諭に最も求められるのは、本の選択眼を磨くことだと考えます。

本セッションでは小学校の図書選書と学校図書館教育の在り方を考え、司書教諭の役割について提言します。

II 発表の概要

- 絵本屋への道 —新刊本選定が教えてくれたこと—
- 図書館蔵書を充実させるための良書の選書に責任を持つ
- 児童の読書環境整備と貸出
- 教育課程での図書活用
- 地域人材と学校図書館をリンクさせる
- 教職員への粘り強いアプローチ
- 校務分掌上での司書教諭の扱いと問題点
- 司書教諭としての資質を高めるために自らアクションを起こす
- 未来像を描き連携する

セッション7 私と本との出会い

テーマ ～本は読めなかったけれど・・・～

NPO法人札幌いちご会

小山内 美智子



経歴 1953年、北海道和寒町生まれ。自身脳性まひを抱えながら1977年、介助を必要とする人の自立生活を支援する「札幌いちご会」設立、現理事長。今のホームヘルパー制度の基盤となる地域ケアサービス等を実施。(2015年NPO法人化) 85年、長男出産。2000年、身体に障がいを持つ人が親元などを離れて暮らすことを目指し、自立生活体験ができる施設「社会福祉法人アンビシャス」設立。前総合施設長。福祉ホーム、デイサービス、相談室、ヘルパー派遣事業を展開。2008年悪性リンパ腫と判明するが無事完治し、宮城大学や北海道大学などで講師を務める。著書「あなたは私の手になれますか」「車椅子から夜明けのコーヒー」「おしゃべりな足指～障がい母さんのラブレター～」等。

I テーマについて

私は脳性まひにより手が使えず、不随意運動があるので首が動いてしまう。だから本を読むことに苦しみを感じていた。9歳で障がい児施設に入所すると、本の大好きな友達があり、時々読んで聞かせてくれた。楽しい時間であった。本は自分で読めなかったけれど、現実の生活がドラマチックすぎて、本を読んでいるようだった。人を尊敬したり、憎んだりの連続であった。このことをいつの日か伝えたいと思っていた。私はいま、本をよく書いているが、文章の書き方は下手である。でも、感謝して生きることを社会に伝えなければいけないと、母や友達に教えられた。

II 発表の概要

- ・母におんぶされながら考えたこと
- ・都会の人々の視線は厳しかった
- ・母が周りの友達に親切にした理由
- ・ヘレンケラーの本を母が買ってきてくれた
- ・知的障がい者と言われていたが国語だけはできた
- ・重い障がいを持って生まれてきたが、数えきれない人に支えられ生きられたことに感謝を
- ・息子への願い
- ・命ある限り何かできる

2017年度 アリス館のおすすめする 図書館必備図書

2017年度
新刊

よむプラネタリウム 季節の星空案内 全4巻

NDC 440

野崎洋子・文 中西昭雄・写真



ようこそプラネタリウムへ!

プラネタリウムの世界を本で再現! 現役のプラネタリウム解説者によるやさしい語り、日本を代表する天文写真家の美しい写真で贈ります。昼間の景色から始まり、夕暮れから宵の口にかけてあらわれる星座や天体(天の川や夏の大三角形など)をやさしく解説します。

持ち運びしやすいサイズ
自由研究にも最適です。

- ① 春の星空案内
- ② 夏の星空案内
- ③ 秋の星空案内
- ④ 冬の星空案内

A5判 / 64ページ 小学校中学年から
セット定価(本体5,600円+税) 各巻定価(本体1,400円+税)

アリス館の課題・推薦図書

第61回
西日本読書感想画コンクール
指定図書



小学校低学年
1・2年生

うみのそこたんけん

中川ひろたか / 文
澤野秋文 / 絵
定価(本体1,400円+税)

第13回 大阪こども「本の帯創作コンクール」課題図書



小学校低学年
1・2年生

さくらいろのりゅう

町田尚子 / 作
定価(本体1,500円+税)



小学校高学年
5・6年生

じろはったん

森はな / 作
梶山俊夫 / 画
定価(本体1,500円+税)

平成29年度 長野県推奨図書
第50回 YBC読書感想
「本の森たんけん」指定図書



小学校中学年
3・4年生

ペンギンかぞくとおそろしい山

藤原幸一 / 文・写真
定価(本体1,400円+税)

第50回
YBC読書感想
「本の森たんけん」指定図書



小学校低学年
1・2年生

まよなかのせんろ

鎌田歩 / 作
定価(本体1,400円+税)

平成29年度 静岡県夏休み推薦図書
平成29年度 福井県優良推奨図書
第38回 山口県夏休み小学生
読書感想文コンクール



小学校高学年
5・6年生

いのる

長倉洋海 / 文・写真
定価(本体1,400円+税)



全5巻セット

世界ショート セレクション

揃定価 (揃本体 6,500円 + 税)

● ISBN : 978-4-652-10157-5

● B6判 ● 上製 ● 平均208ページ ● 高学年から

〈NDC933・953・983〉



大注目の絵本作家
ヨシタケシンスケの
イラストでお届けします!

1 ルブランショートセレクション
怪盗ルパン 謎の旅行者
モーリス・ルブラン / 作 平岡敦 / 訳

2 ロレンスショートセレクション
二番がいちばん
D・H・ロレンス / 作 代田亜香子 / 訳

3 ジャック・ロンドンショートセレクション
世界が若かったころ
ジャック・ロンドン / 作 千葉茂樹 / 訳

4 マーク・トウェインショートセレクション
百万ポンド紙幣
マーク・トウェイン / 作 堀川志野舞 / 訳

5 チェーホフショートセレクション
大きなかぶ
チェーホフ / 作 小宮山俊平 / 訳



敬意表現の原則的なルールをキャラクターがわかりやすく解説!

「五つの敬語」

小池保: 監修

(一) 敬語とは・美化語・丁寧語

(二) 尊敬語 / (三) 謙譲語 / (四) 丁寧語

(五) その敬語、自信ありますか?



全5巻
セット

揃定価 (揃本体 14,000円 + 税)

● ISBN : 978-4-652-10159-9

● B5判 ● 上製 ● 各47ページ

● 高学年から 〈NDC815〉



身近な特産品から日本各地の風土や歴史、食文化を学ぼう!

調べてみよう 都道府県の特産品

都道府県の特産品編集室: 編

調味料編 / 駅弁編 / お菓子編

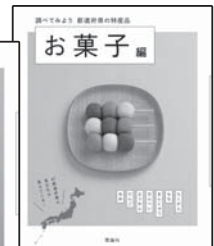
揃定価 (揃本体 9,000円 + 税)

● ISBN : 978-4-652-10161-2

● A4変型判 ● 上製 ● 各63ページ

● 高学年から 〈NDC383〉

全3巻
セット



あすなる書房の新シリーズ

「ゴミ」から世界が見えてくる！ユニークな新シリーズ

「ゴミと人類」
過去・現在・未来

稲葉茂勝 著

全3巻

- ① 「ゴミ」ってなんだろう？
人類とゴミの歴史
- ② 日本のゴミと世界のゴミ
現代のゴミ戦争
- ③ 「5R+1R」とは？
ゴミ焼却炉から宇宙ゴミまで

【NDC519】セット定価(本体9,000円+税) 小学校中学年～

★ゴミをめぐる世界の情勢

- ・ パレルモ、カイロ、ベイルート
- ……ゴミが引き起こした大惨事
- ・ 原発ゴミ・パーセル条約
- ・ 酸性雨 etc.

★知っていそうで意外と知らない日本の現状

- ・ 3.11のがれきの行方
- ・ 1年間の焼却ごみは3480万トンで世界1位
- ・ ゴミ焼却場の様子
- ・ リサイクルのシステム etc.

ゴミが好きな人は少なくても、人はゴミを出さずには生きていけません。そもそも、ゴミとはどんなものなのか？身近なゴミから原発ゴミまで、ていねいに解説。よりよい未来をつくるために、知っておきたいゴミとの付き合い方が楽しく学べます。



国家とは？民主主義とは？社会を知るための第一歩に！

ニュースでよく聞くあの言葉も、説明しづらい、この概念も！やさしい言葉でわかりやすく解説！

今こそ知りたい！ **三権分立** ビジュアルでわかりやすい！

【NDC323】 小学校高学年～

監修：山根祥利 (山根法律総合事務所) 編：こどもくらぶ

セット定価(本体9,900円+税)



① 立法権ってなんだろう

- 1章 憲法ってなんだろう
- 2章 日本国憲法と立法府のしくみ
- 3章 立法府がもつチェック機能
- 4章 見学！国会ツアー

② 行政権ってなんだろう

- 1章 行政権は「内閣」がもつ
- 2章 行政にかかわる人
- 3章 行政府がもつチェック機能
- 4章 見学！首相官邸

③ 司法権ってなんだろう

- 1章 三権分立の成り立ち
- 2章 裁判のしくみ
- 3章 司法府がもつチェック機能
- 4章 見学！最高裁ツアー

★巻末には、関連する憲法条文(抜粋)&用語解説も掲載！



あすなる書房

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町551-4 Tel:03-3203-3350 Fax:03-3202-3952

平成28年度 北海道学校図書館協会 役員・事務局一覽

役 職	氏 名	勤 務 先	
会 長	齋藤 昇一	札幌市立啓明中学校	校長
副 会 長 (小)	栗原 靖	札幌市立北園小学校	校長
副 会 長 (中)	三浦 正志	札幌市立前田中学校	校長
副 会 長 (高)	鳴海 昌江	札幌清田高等学校	校長
副 会 長 (高文連図書)	川口 淳	札幌南高等学校	校長
副 会 長 (札幌市)	荻原 啓	札幌市立厚別南中学校	校長
副 会 長 (函館市)	宮越 忍	函館市立桔梗小学校	校長
副 会 長 (小樽市)	板橋 徹	小樽市立豊倉小学校	校長
副 会 長 (室蘭市)	酒井 浩一	室蘭市立桜蘭中学校	校長
副 会 長 (旭川市)	鎌田 優子	旭川市立北光小学校	校長
副 会 長 (帯広市)	鈴木 宏和	帯広市立啓西小学校	教頭
副 会 長 (釧路市)	鈴木 美恵	釧路市立東雲小学校	校長
副 会 長 (苫小牧市)	種田 直章	苫小牧市立明倫中学校	校長
副 会 長 (十勝地区)	緑川 昌浩	上士幌町立糠平小学校	教頭
監 査 (小)	岡田 悌二	札幌市立藤野小学校	校長
監 査 (中)	富田 明好	札幌市立南が丘中学校	校長
監 査 (高)	林 恵子	札幌平岸高等学校	校長
理 事 長	附田 裕哉	札幌市立石山南小学校	校長
理 事 (研究)	松井 操人	安平町立追分小学校	校長
理 事 (研究)	佐藤 敬子	(前中学校 教諭)	
理 事 (事業)	三分一 晶	札幌市立東白石中学校	教頭
理 事 (選定)	大島 孝子	札幌市立新川中央小学校	教諭
支部会長 (渡島地区)	小栗 陽子	北斗市立石別小学校	校長
支部会長 (岩見沢市)	高田 宏昭	岩見沢市立第一小学校	校長
支部会長 (滝川市)	富田 忠章	滝川市立開西中学校	校長
支部会長 (空知地区)	菊池 精一	栗山町立角田小学校	校長
支部会長 (士別市)	岡本 美雪	士別市立多寄小学校	校長
支部会長 (留萌市)	大内 崇	留萌市立留萌中学校	教諭
支部会長 (増毛町)	高谷 典義	増毛町立増毛小学校	校長
支部会長 (北見市)	八重樫義孝	北見市立中央小学校	校長
支部会長 (網走市)	潮田 信	網走市立中央小学校	校長
支部会長 (紋別市)	本間 靖教	紋別市立潮見中学校	校長
支部会長 (小清水町)	寺本 聡	小清水町立小清水小学校	校長
支部会長 (大空町)	菊池 浩徳	大空町立女満別中学校	校長
支部会長 (美幌町)	三浦 正	美幌町立美幌小学校	校長
支部会長 (十勝地区高校)	島 芳一	帯広柏葉高等学校	校長

事務局長	黒澤 敏行	札幌市立琴似中学校	校長
事務局次長 (事務局校)	野村 邦重	札幌市立平和通小学校	教諭
事務局次長 (事業)	大久保雅人	北海道教育大学	非常勤講師
事務局次長 (研究)	本間 聡	札幌市立南の沢小学校	教諭
事務局次長 (総務)	村山 知成	札幌市立元町小学校	教諭
総務部 部長 (兼)	村山 知成	札幌市立元町小学校	教諭
研究部 部長	山田 佳子	札幌市立上白石小学校	教諭
選定部 部長	山本 裕子	(元高等学校 司書)	
事業部 部長	図師 広光	北広島西高等学校	教諭

事務局	〒003-0027	
	札幌市白石区本通15丁目北3-1	TEL 011-863-0235
	札幌市立平和通小学校 (事務局次長 野村邦重)	FAX 011-863-0265

平成28年度 北海道学校図書館協会 支部事務局一覧

No.	支 部	会 長	会長勤務先		事務局長	事務局長勤務先		勤務先電話
1	札幌市	荻原 啓	札幌市立厚別南中学校	校 長	富田 明好	札幌市立南が丘中学校	校 長	011-571-3775
2	函館市	宮越 忍	函館市立桔梗小学校	校 長	新沼 誠子	函館市立青柳小学校	教 諭	0138-23-8348
3	渡島地区	小栗 陽子	北斗市立石別小学校	校 長	山本 幸栄	北斗市立大野中学校	教 諭	0138-77-8137
4	小樽市	板橋 徹	小樽市立豊倉小学校	校 長	高木 理絵	小樽市立花園小学校	教 諭	0134-25-5233
5	岩見沢市	高田 宏明	岩見沢市立第一小学校	校 長	金子 智里	岩見沢市立上幌向中学校	教 諭	0126-26-2962
6	滝川市	富田 忠章	滝川市立開西中学校	校 長	川崎 秀夫	滝川市立関西中学校	教 頭	0125-23-3549
7	空知地区	菊池 精一	栗山町立角田小学校	校 長	阿部 博昭	赤平市立赤間小学校	教 頭	0125-32-3330
8	旭川市	鎌田 優子	旭川市立北光小学校	校 長	加藤 直子	旭川市立愛宕中学校	司書教諭	0166-34-9090
9	士別市	岡本 美雪	士別市立多寄小学校	校 長	吉中 博道	士別市立多寄小学校	教 頭	0165-26-2151
10	留萌市	大内 崇	留萌市立留萌中学校	教 諭	明石 しずか	留萌市立留萌中学校	教 諭	0164-42-1811
11	増毛町	高谷 典義	増毛町立増毛小学校	校 長	小野 卓也	増毛町教育委員会	文化振興 係 長	0164-53-2427
12	北見市	八重樫 義孝	北見市立中央小学校	校 長	工藤 知義	北見市立中央小学校	教 頭	0157-23-7351
13	網走市	潮田 信	網走市立中央小学校	校 長	河邊 珠里	網走市立中央小学校	教 諭	0152-44-7368
14	紋別市	本間 靖教	紋別市立潮見中学校	校 長	佐々木 健太	紋別市立潮見中学校	教 諭	0158-24-2415
15	小清水町	寺本 聡	小清水町立小清水小学校	校 長	可児 隆洋	小清水町立小清水小学校	教 頭	0152-62-2053
16	大空町	菊池 浩徳	大空町立女満別中学校	校 長	平田 和史	大空町立女満別中学校	教 頭	0152-74-2234
17	美幌町	三浦 正	美幌町立美幌小学校	校 長	泉 次郎	美幌町立美幌小学校	教 頭	0152-73-2019
18	室蘭市	酒井 浩一	室蘭市立桜蘭中学校	校 長	北尾 稔	室蘭市立八丁平小学校	教 頭	0143-46-2900
19	苫小牧市	種田 直章	苫小牧市立明倫中学校	校 長	鈴木 祐亮	苫小牧市立明德小学校	教 諭	0144-67-2911
20	帯広市	鈴木 宏和	帯広市立啓西小学校	教 頭	日根野 郁代	帯広市立柏小学校	主幹教諭	0155-23-1234
21	十勝地区	緑川 昌浩	上士幌町立糠平小学校	教 頭	川口 珠美	豊頃町立豊頃中学校	教 諭	0155-74-2427
22	十勝地区 高 校	島 芳一	帯広柏葉高等学校	校 長	石川 千秋	帯広柏葉高等学校	司書教諭	0155-23-5897
23	釧路市	鈴木 美恵	釧路市立東雲小学校	校 長	千田 充	釧路市立春採中学校	教 諭	0154-41-5831

平成29年度 北海道学校図書館協会 役員・事務局一覽

役 職	氏 名	勤 務 先	
会 長	齋藤 昇一	札幌市立啓明中学校	校長
副 会 長 (小)	栗原 靖	札幌市立北園小学校	校長
副 会 長 (中)	三浦 正志	札幌市立前田中学校	校長
副 会 長 (高)	相沢 克明	市立札幌開成中等教育学校	校長
副 会 長 (高文連図書)	川口 淳	札幌南高等学校	校長
副 会 長 (札幌市)	荻原 啓	札幌市立厚別南中学校	校長
副 会 長 (函館市)	宮越 忍	函館市立桔梗小学校	校長
副 会 長 (小樽市)	森 万喜子	小樽市立望洋台中学校	校長
副 会 長 (室蘭市)	橋本 誠司	室蘭市立白鳥台小学校	校長
副 会 長 (旭川市)	加藤 宏明	旭川市立末広北小学校	校長
副 会 長 (帯広市)	鈴木 宏和	帯広市立啓西小学校	教頭
副 会 長 (釧路市)	黒坂 宏子	釧路市立光陽小学校	校長
副 会 長 (苫小牧市)	種田 直章	苫小牧市立明倫中学校	校長
副 会 長 (十勝地区)	緑川 昌浩	陸別町立陸別小学校	教頭
監 査 (小)	岡田 悌二	札幌市立藤野小学校	校長
監 査 (中)	富田 明好	札幌市立南が丘中学校	校長
監 査 (高)	岡積 義雄	札幌清田高等学校	校長
理 事 長	附田 裕哉	札幌市立簾舞小学校	校長
理 事 (研究)	松井 操人	安平町立追分小学校	校長
理 事 (研究)	佐藤 敬子	(前中学校 教諭)	
理 事 (事業)	三分一 晶	札幌市立東白石中学校	教頭
理 事 (選定)	大島 孝子	札幌市立新川中央小学校	教諭
支部会長 (渡島地区)	小栗 陽子	北斗市立石別小学校	校長
支部会長 (岩見沢市)	高田 宏昭	岩見沢市立第一小学校	校長
支部会長 (滝川市)	梅津 俊一	滝川市立滝川第一小学校	校長
支部会長 (空知地区)	菊池 精一	栗山町立角田小学校	校長
支部会長 (士別市)	吉中 博道	士別市立多寄小学校	校長
支部会長 (留萌市)	木原由香子	留萌市立留萌小学校	教諭
支部会長 (増毛町)	長谷川 博	増毛町立増毛中学校	校長
支部会長 (北見市)	梁瀬 邦之	北見市立大正小学校	校長
支部会長 (網走市)	古川 幸宏	網走市立第一中学校	校長
支部会長 (紋別市)	新山 雄士	北海道紋別高等学校	校長
支部会長 (小清水町)	白瀬友加里	小清水町立小清水中学校	校長
支部会長 (大空町)	竹内 克憲	大空町立東藻琴中学校	校長
支部会長 (美幌町)	河原 賢	美幌町立美幌小学校	校長
支部会長 (十勝地区高校)	土屋 亮	北海道芽室高等学校	校長

事務局 長	黒澤 敏行	札幌市立琴似中学校	校長
事務局次長	野村 邦重	北海道教育大学	非常勤講師
事務局次長 (事業)	大久保雅人	北海道教育大学	非常勤講師
事務局次長	紺野 宏子	札幌市立二条小学校	校長
事務局次長 (研究)	本間 聡	札幌市立南の沢小学校	教諭 (再)
事務局次長 (総務)	村山 知成	札幌市立元町小学校	教諭
総務部部長 (兼)	村山 知成	札幌市立元町小学校	教諭
研 究 部 部長	山田 佳子	札幌市立上白石小学校	教諭
選 定 部 部長	山本 裕子	(元高等学校司書)	
事 業 部 部長	図師 広光	北広島西高等学校	教諭

事務局	〒063-0004 札幌市西区山の手4条2丁目1-1 札幌市立琴似中学校 (事務局 長 黒澤敏行)	TEL 011-611-1351 FAX 011-615-9617
-----	---	--------------------------------------

平成29年度 北海道学校図書館協会 支部事務局一覽

No.	支 部	会 長	会長勤務先		事務局長	事務局長勤務先		勤務先電話
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								

北海道学校図書館研究大会 沿革

回	開催期間	開催地	開催場所
第1回	昭和24年10. 19～20	函館市	函館市立高盛小学校
第2回	昭和26年2. 15～16	札幌市	札幌南高等学校
第3回	昭和26年11. 3～4	釧路市	釧路市立東小学校
第4回	昭和27年6. 30～7. 1	小樽市	小樽市立東山小学校
第5回	昭和28年9. 4～5	室蘭市	室蘭栄高等学校
第6回	昭和29年10. 8～9	旭川市	旭川市立北都中学校、旭川北高等学校
第7回	昭和30年6. 29～30	北見市	北見市立中央小学校、北見北斗高等学校
第8回	昭和31年6. 29～30	池田町	池田町小・中・高校
第9回	昭和32年8. 6～8	札幌市	札幌市立山鼻小学校、柏中学校、札幌南高等学校
第10回	昭和33年7. 13～14	稚内市	稚内市小・中・高校
第11回	昭和34年7. 13～14	美唄市	美唄市小・中・高校、美唄東高等学校
第12回	昭和35年9. 8～9	函館市	函館市立中央中学校
第13回	昭和37年8. 17～18	岩見沢市	岩見沢市立東光中学校
第14回	昭和38年7. 29～31	旭川市	旭川市立東町小学校、光陽中学校
第15回	昭和40年8. 2～4	小樽市	小樽市立色内小学校
第16回	昭和41年8. 7～8	帯広市	帯広市立東小学校
第17回	昭和42年7. 31～8. 1	札幌市	札幌南高等学校
第18回	昭和44年9. 18～19	室蘭市	室蘭市立北辰中学校
第19回	昭和46年8. 10～11	北見市	北見北斗高等学校
第20回	昭和48年9. 6～7	函館市	函館市立湯川中学校、函館ラ・サール高等学校
第21回	昭和50年9. 8～9	旭川市	旭川市立知新小学校、北都中学校、旭川東高等学校
第22回	昭和52年9. 2～3	小樽市	小樽中央幼稚園、小樽市立両徳小学校、住吉中学校、小樽医師会館
第23回	昭和54年9. 6～7	帯広市	帯広いずみ幼稚園、帯広市立帯広小学校、緑丘小学校、第一中学校、帯広大谷高等学校
第24回	昭和56年9. 10～11	岩見沢市	岩見沢市立美園小学校、光陵中学校、岩見沢市民会館

回	開催期間	開催地	開催場所
第25回	昭和58年9. 1～3	札幌市	札幌市立東札幌小学校、西野第二小学校、みずほ小学校、青葉中学校
第26回	昭和60年9. 20～21	室蘭市	室蘭市高砂小学校
第27回	昭和62年9. 4～5	釧路市	釧路市立武佐中学校
第28回	平成元年9. 8～9	函館市	函館市立高丘小学校、松風幼稚園、函館ラ・サール高等学校、函館市民会館
第29回	平成3年9. 6～7	苫小牧市	苫小牧市立大成小学校、苫小牧市文化会館、苫小牧市立中央図書館、苫小牧市立博物館
第30回	平成5年10. 7～8	旭川市	旭川市立神楽小学校、旭川西高等学校、旭川大雪クリスタルホール
第31回	平成7年10. 12～13	小樽市	小樽中央幼稚園、小樽市立望洋台小学校、張碓小学校、小樽潮陵高等学校
第32回	平成9年9. 11～12	帯広市	帯広第一いずみ幼稚園、帯広市立帯広第五中学校、帯広大谷高等学校、とちちプラザ
第33回	平成11年9. 3～4	札幌市	ひばりが丘明星幼稚園、札幌市立東苗穂小学校、厚別北中学校、札幌南陵高等学校、札幌市教育文化会館
第34回	平成13年9. 28～29	北見市	学校法人ピアソン学園北見幼稚園、北見市立南小学校、東小学校、北光小学校、南中学校、北見北斗高等学校、北見芸術文化ホール、北見オホーツク木のプラザ
第35回	平成15年9. 4～5	苫小牧市	苫小牧市立しみず幼稚園、苫小牧マーガレット幼稚園、苫小牧市立清水小学校、開成中学校、苫小牧東高等学校、苫小牧駒澤大学
第36回	平成17年10. 6～7	旭川市	旭川なかの保育園、旭川市立東町小学校、光陽中学校、旭川西高等学校、旭川大雪クリスタルホール、道北地域旭川地場産業振興センター
第37回	平成19年10. 4～5	函館市	函館石立はこだて幼稚園、函館千歳図書室、函館市立千代田小学校、北中学校、遺愛女子高等学校、函館市立中央図書館、ホテル法華クラブ
第38回	平成21年11. 5～6	釧路市	美原つくし幼稚園、釧路市立鳥取西小学校、北中学校、釧路明輝高等学校、釧路市生涯学習センター
第39回	平成23年9. 9～10	音更町	音更大谷幼稚園、音更町立音更小学校、下音更小学校、共栄中学校、音更高等学校、音更町文化センター、音更町図書館
第40回	平成25年9. 20～21	小樽市	小樽シオン学園ローズ幼稚園、小樽市立花園小学校、銭函小学校、菁園中学校、松ヶ枝中学校、銭函中学校、小樽桜陽高等学校、小樽市文学館、小樽マリンホール
第41回	平成27年9. 4～5	室蘭市	ベネディクト幼稚園、室蘭市立みなと小学校、八丁平小学校、旭ヶ丘小学校、桜蘭中学校、星蘭中学校、海星学院高等学校、室蘭市港の文学館
第42回	平成29年9. 1～2	札幌市	札幌市立あやめ野小学校、札幌市立啓明中学校、市立札幌開成中等教育学校、札幌市立えほん図書館、ホテルライフオート札幌

編 集 後 記

札幌大会では、「未来を拓く力を育む学校図書館～学ぶ楽しさ つながる世界」をテーマとして、研究授業をはじめ様々な実践報告やこれからの図書館教育のあるべき姿や方向性についての討議が、2日間にわたって活発に行われることと思います。この大会にご参会いただきました皆様にとりまして、心に残る、実り多い大会となりますことを心から祈念しております。

最後に、この大会要項の作成にあたり、深いご理解とご協力を賜りました北海道教育委員会、札幌市教育委員会をはじめ多くの関係機関、授業会場を引き受けていただきました、札幌市絵本図書館、札幌市立あやめ野小学校、札幌市立啓明中学校、市立札幌開成中等教育学校の皆様、そして、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会

編集部長 竹内 政勝

第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会 大会要項

発行年月日 平成29年（2017年）9月
編 集 第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会編集部
発 行 者 斎 藤 昇 一
萩 原 啓
発 行 所 第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会編集部
〒005-0852 北海道札幌市南区常盤2条2丁目21-1
札幌市立常盤中学校
TEL 011-591-1433 FAX 011-591-4956
印 刷 所 株式会社 誠 印 刷
〒063-0862 北海道札幌市西区八軒2条東5丁目3-16
TEL 011-643-7602 FAX 011-613-7829